

# H27-B-3 コア観察カード (H27年8月)

標尺 (m)	深度 (m)	境界 位置	地層名	色	割れ目 径	割れ目 長さ	割れ目 密度	割れ目 形状	割れ目 方向	割れ目 角度	割れ目 開口	割れ目 充填	割れ目 観察	割れ目 写真	割れ目 スケッチ	岩級区分		試料 採取	試料 位置	試料 長さ	試料 重量	試料 状態	試料 備考	基礎岩コア観察カード		
																岩級区分	試料区分							記事・観察状況・詳細スケッチ等	記事	
176.00	176.00																B'								233	175.15~175.22m 割れ目が交差し片状化するが、岩片は硬質で割れ目面には挟雑物は分布しない。 175.55~176.50m: CH 坚硬、上下位に比べや割れ目が多いがコア長10cm~20cm(Ⅲ)が主体。ゆ着割れ目も含むが大半は密着度が高くハンマーの打撃でも分離しない。 175.45~175.71mは片状化するがコアチューブ引上げ時に片状化した可能性が高い。岩片は硬質で挟雑物は分布しない。 面の一部は赤褐色化し、断片的に鏡肌も認められる。 赤褐色部は褐鉄鉱である可能性がある。
176.70	176.70																B'								234	175.71~176.78m: CM 割れ目が交差し短柱状~一部岩片状を呈する。 175.59~175.62mは30°割れ目ぞいに風化(γ)、軟化(D)、砂状~粘土状部はさまない。
177.00	177.00																B'								235	176.78~179.15m: B 坚硬、塊状でコア長20cm以上の棒状コア主体。 一部に含まれるゆ着割れ目も密着度が高く、ハンマーの強打でも分離しない。 上位に比べ緑泥石化が進み、φ2~5m/m暗緑灰色斑点状~厚さ0.5m/m細脈状で分布する。細脈状のものは大半が周囲と良く密着し、開口化していない。
177.30	177.30																B'								236	177.65m 35°厚さ2~3m/mの石英脈が分布。周囲と同化している。
177.60	177.60																B'								237	177.83~178.27m 間にはφ5~10m/mと大型な橙色のかり長石が晶出・点在する。
178.00	178.00																B'								238	178.31~178.39m 上端75°, 下端70°割れ目に囲まれ厚さ25m/m、φ5~10m/mに細片化している。厚さは25m/mでごく薄く砂状化する部分がある。上端面には緑泥石がフィルム状に付着している。
178.50	178.50																B'								239	178.45m以深にはゆ着割れ目が多いが密着度が高く、ハンマーの強打でも分離しない。 179.15~180.00m: CH 179.37~179.68m間の一部は割れ目交差部で片状化するが、岩片は硬質で面は未風化・未変質で挟雑物も分布しない。 一部でわずかに緑泥石がフィルム状に付着する程度。 ゆ着割れ目の多くはすでに開口割れ目化している。

## コア観察カードの仮ワープロ変換

記事内容
175.15~175.22m 割れ目が交差し片状化するが、岩片は硬質で割れ目面には挟雑物は分布しない。 175.55~176.50m: CH 坚硬、上下位に比べや割れ目が多いがコア長10cm~20cm(Ⅲ)が主体。ゆ着割れ目も含むが大半は密着度が高くハンマーの打撃でも分離しない。 175.45~175.71mは片状化するがコアチューブ引上げ時に片状化した可能性が高い。岩片は硬質で挟雑物は分布しない。 面の一部は赤褐色化し、断片的に鏡肌も認められる。 赤褐色部は褐鉄鉱である可能性がある。
175.71~176.78m: CM 割れ目が交差し短柱状~一部岩片状を呈する。 175.59~175.62mは30°割れ目ぞいに風化(γ)、軟化(D)、砂状~粘土状部はさまない。
176.78~179.15m: B 坚硬、塊状でコア長20cm以上の棒状コア主体。 一部に含まれるゆ着割れ目も密着度が高く、ハンマーの強打でも分離しない。 上位に比べ緑泥石化が進み、φ2~5m/m暗緑灰色斑点状~厚さ0.5m/m細脈状で分布する。細脈状のものは大半が周囲と良く密着し、開口化していない。
177.65m 35°厚さ2~3m/mの石英脈が分布。周囲と同化している。
177.83~178.27m 間にはφ5~10m/mと大型な橙色のかり長石が晶出・点在する。
178.31~178.39m 上端75°, 下端70°割れ目に囲まれ厚さ25m/m、φ5~10m/mに細片化している。厚さは25m/mでごく薄く砂状化する部分がある。上端面には緑泥石がフィルム状に付着している。
178.45m以深にはゆ着割れ目が多いが密着度が高く、ハンマーの強打でも分離しない。 179.15~180.00m: CH 179.37~179.68m間の一部は割れ目交差部で片状化するが、岩片は硬質で面は未風化・未変質で挟雑物も分布しない。 一部でわずかに緑泥石がフィルム状に付着する程度。 ゆ着割れ目の多くはすでに開口割れ目化している。

## 申請書用柱状図



記事	コア観察カード(H27年8月)⇒申請書用柱状図
233	・片状化、挟在物の有無、硬軟、割れ目の発達の状態については、記事No.228でまとめ書きしていることから削除。 ・岩級及びその区間については、“岩級区分”欄で示していることから削除。 ・割れ目の密着状態、褐鉄鉱については、補足的なものであるため削除。 ・175.45~175.71mで断片的に鏡肌も認められるとの記載があるが、周囲の岩盤に劣化が認められないことから削除。
234	・岩級及びその区間については、岩級区分に含めて示していることから削除。 ・割れ目の傾斜については、補足的なものであるため削除。
235	・岩級及びその区間については、“岩級区分”欄で示していることから削除。 ・硬軟、割れ目の発達の状態、緑泥石化については、記事No.228でまとめ書きしていることから削除。 ・割れ目の密着状態・開口状況については、補足的なものであるため削除。
236	・鉱物脈については、補足的なものであるため削除。
237	・一般的な岩相であり、石基及び斑晶の種類、粒径等については、特に目立つ区間のみ記載することとしており、特に目立つ区間ではないため削除。
238	・割れ目沿いの細片化については、記事No.228でまとめ書きしていることから削除。
239	・割れ目の密着状態・開口状況については、補足的なものであるため削除。 ・岩級及びその区間については、“岩級区分”欄で示しているため削除。 ・片状化、挟在物の有無、緑泥石については、記事No.228でまとめ書きしていることから削除。

余白

**H27-B-4**

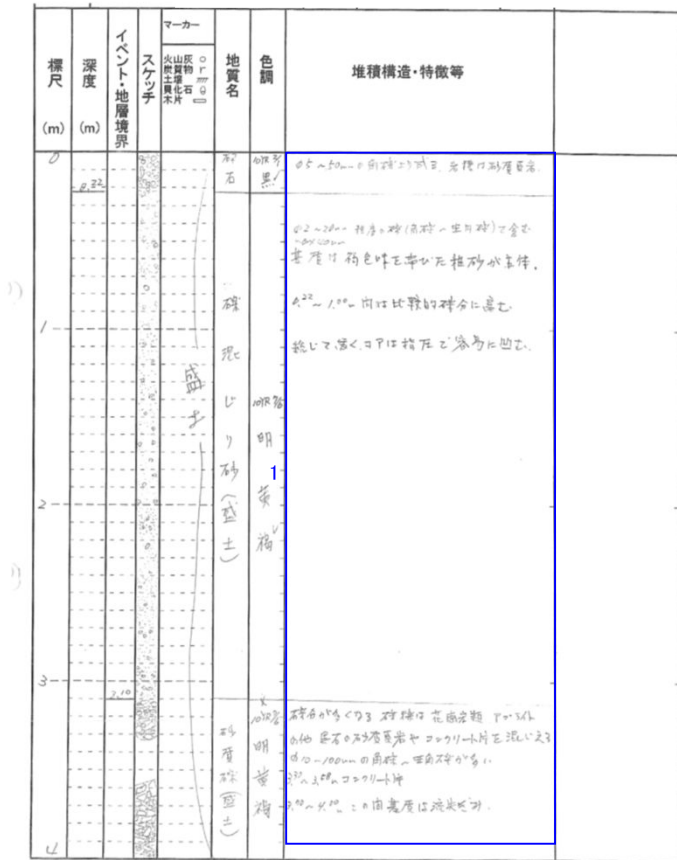
余白

# H27-B-4

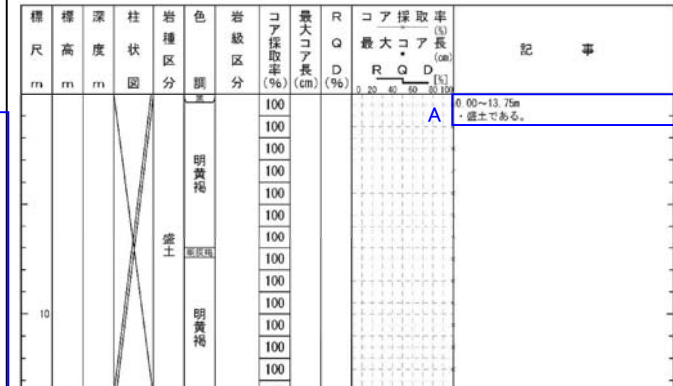
## コア観察カード (H27年8月)

## コア観察カードの仮ワープロ変換

## 申請書用柱状図



記事内容
<p>φ5~50mmの角礫より成る。岩種は砂質頁岩。</p> <p>φ2~20mm程度の礫(角礫~亜円礫)を含む。 max40mm 基質は褐色味を帯びた粗砂が主体。</p> <p>0.22~1.00m間は比較的礫分に富む</p> <p>総じて緩く、コアは指圧で容易に凹む。</p> <p>礫分が多くなる礫様は花崗岩類、アブライトの他黒石の砂質頁岩やコンクリート片を混じえる φ10~100mmの角礫から亜角礫が多い 3.30~3.58m コンクリート片 3.70~4.00m この間基質は流失済み。</p>



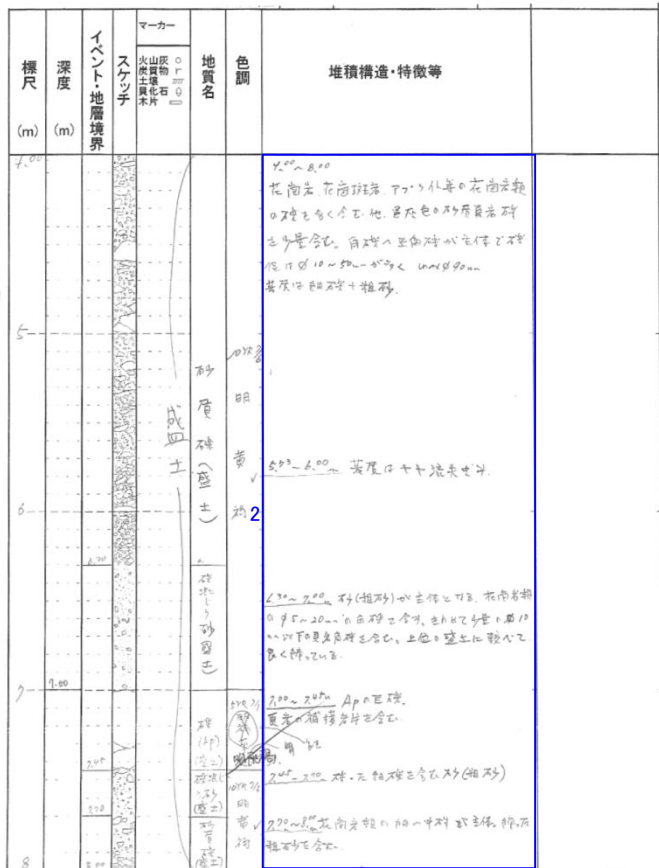
記事	コア観察カード(H27年8月)⇒申請書用柱状図
A.1	・堆積物の記載は、埋土、砂礫等の性状を示すこととし、“地質名”欄に対応した層相名を記載。

# H27-B-4

## コア観察カード (H27年8月)

## コア観察カードの仮ワープロ変換

## 申請書用柱状図



スケッチ: 線はクサリ ● 半クサリ ○ 硬質 ○ 礫種は黒雲母花崗岩Gr, 花崗斑岩Gp, アプライトAp 等  
境界 明瞭 — 不明瞭 - - - 亀裂は赤線, 角度, 衆線等

記事内容	
4.00~8.00	花崗岩、花崗斑岩、アプライト等の花崗岩類の礫を多く含む。他、黒灰色の砂質頁岩礫を少量含む。角礫~亜角礫が主体で礫径はφ10~50mmが多くmaxφ90mm 基質は細礫+粗砂
5.73~6.00m	基質はやや流失きみ。
6.30~7.00m	砂(粗砂)が主体となる。花崗岩類のφ5~20mmの角礫を含み、きわめて少量のφ10mm以下の頁岩角礫を含む。上位の盛土に較べて、良く締っている。
7.00~7.45m	Apの巨礫。 頁岩の補獲岩片を含む。
7.45m~7.70m	礫った細礫を含む砂(粗砂)
7.70~8.00m	花崗岩類の細~中礫が主体。締った粗砂を含む。

標尺	標高	深度	柱状	岩種	色	岩級	コア採取率	最大コア長	R	Q	D	記事
m	m	m	図	区分	調	分	(%)	(cm)	(%)	(%)	(%)	
					明黄褐		100					A 0.00~13.75m 盛土である。
				盛土	明黄褐		100					
				盛土	明黄褐		100					
				盛土	明黄褐		100					
				盛土	明黄褐		100					
				盛土	明黄褐		100					
				盛土	明黄褐		100					
				盛土	明黄褐		100					
				盛土	明黄褐		100					
				盛土	明黄褐		100					

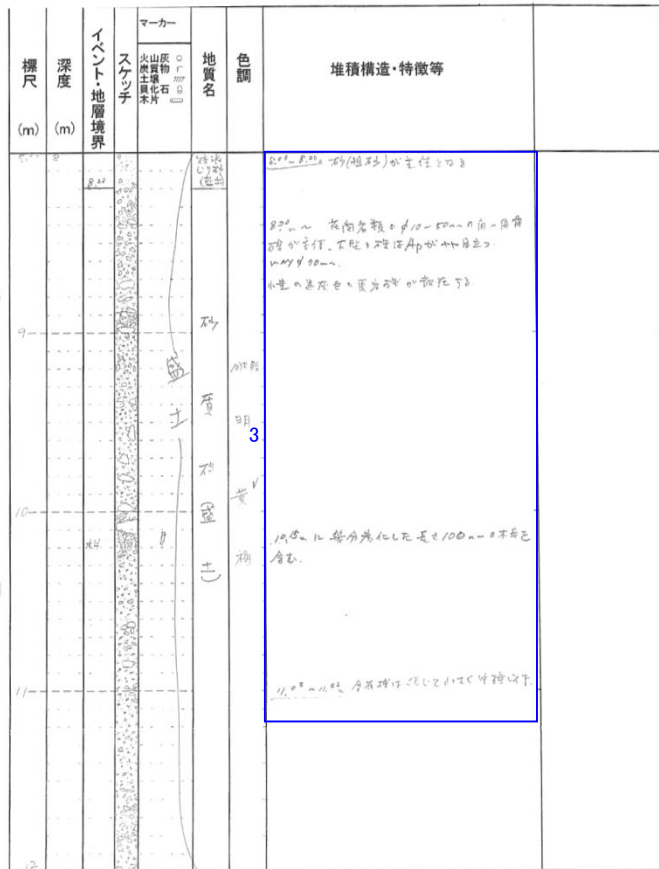
記事	コア観察カード(H27年8月)⇒申請書用柱状図
A.2	・堆積物の記載は、埋土、砂礫等の性状を示すこととし、“地質名”欄に対応した層相名を記載。

# H27-B-4

## コア観察カード (H27年8月)

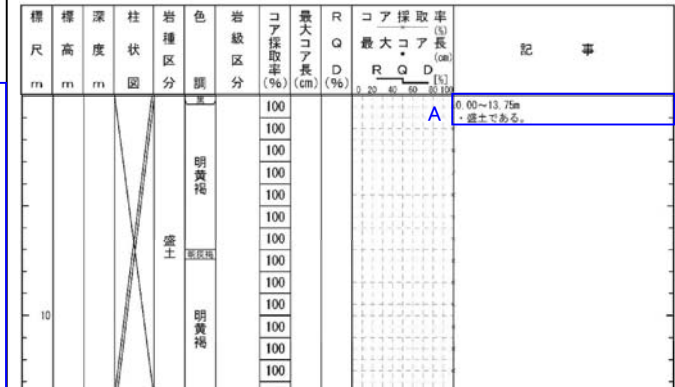
### コア観察カードの仮ワープロ変換

### 申請書用柱状図



スケッチ: 礫はクサリ●半クサリ○硬質○ 礫種は黒雲母花崗岩Gr, 花崗斑岩Gp, アブライトAp 等  
境界 明瞭——不明瞭----- 亀裂は赤線、角度、糸線等

記事内容
8.00~8.20m 砂(粗砂)が主体となる
8.20m~ 花崗岩類のφ10~50mmの角~角角礫が主体。大型の礫はApがやや目立つ。max φ 70mm 少量の黒灰色の頁岩礫が散在する。
10.15mに幾分炭化した長さ100mmの木片を含む。
11.03~11.52m 含有礫は総じて小さく中礫以下。



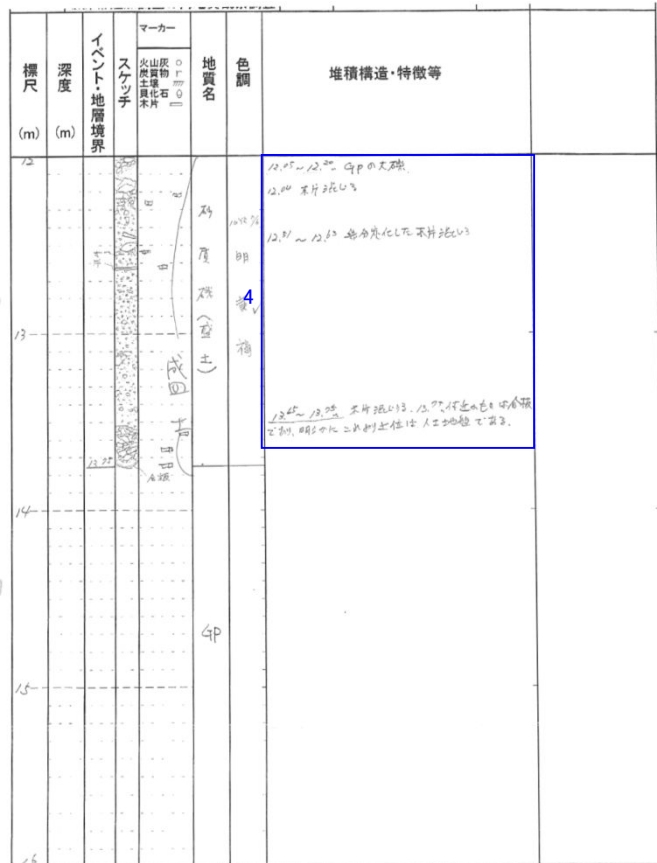
記事	コア観察カード(H27年8月)⇒申請書用柱状図
A.3	・堆積物の記載は、埋土、砂礫等の性状を示すこととし、“地質名”欄に対応した層相名を記載。

# H27-B-4

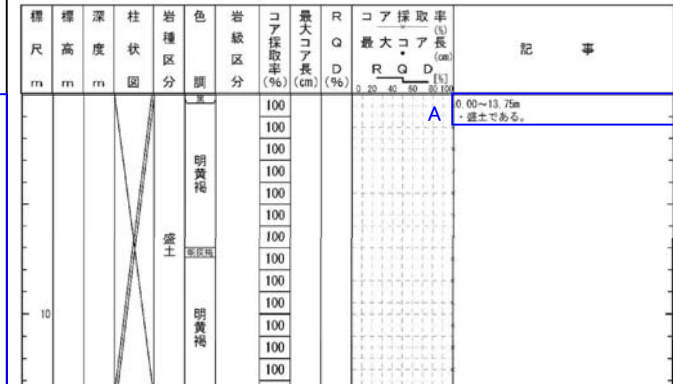
## コア観察カード (H27年8月)

### コア観察カードの仮ワープロ変換

### 申請書用柱状図



記事内容
<p>12.05～12.20m Gpの大礫。 12.04 木片混じる</p> <p>12.51～12.63 幾分炭化した木片混じる</p> <p>13.65～13.75m 木片混じり。13.75m付近のものは合板であり、明らかにこれより上位は、人工地盤である。</p>



スケッチ: 礫はクサリ●半クサリ○ 硬質○ 礫種は黒雲母花崗岩Gr, 花崗斑岩Gp, アブライトAp 等  
境界 明瞭—— 不明瞭--- 亀裂は赤線, 角度, 条線等

記事	コア観察カード(H27年8月)⇒申請書用柱状図
A,4	・堆積物の記載は、埋土、砂礫等の性状を示すこととし、“地質名”欄に対応した層相名を記載。



# H27-B-4

## コア観察カード (H27年8月)

## コア観察カードの仮ワープロ変換

## 申請書用柱状図

標尺 (m)	深度 (m)	地質名	地質色	細区分				RQD	最大コア長 (cm)	岩級区分	記事・取付状況・詳細スケッチ等
				割れ目の長さ	割れ目の径	割れ目の形状	割れ目の方向				
										基盤岩コア観察カード 記事・取付状況・詳細スケッチ等	
	13.75									盛土 ↑	
	14.00									5 13.75~14.67m 風化が著しく、割れ目の多くは不鮮明となる	
	14.24									6 14.24m付近 割れ目に沿ったマンガンの汚染が顕著	
	14.53									6 14.53m付近 頁岩礫3ヶ。上部からの崩壊物と思われる	
	14.67									6 14.67m~ 風化は若干軽微となり、割れ目のほとんどが認識できるようになるが、コアは、軟質で脆い、割れ目に沿った薄い変質脈が白く見られるものがある。	

記事内容	
5	13.75~14.67m 風化が著しく、割れ目の多くは不鮮明となる
6	14.24m付近 割れ目に沿ったマンガンの汚染が顕著
6	14.53m付近 頁岩礫3ヶ。上部からの崩壊物と思われる
6	14.67m~ 風化は若干軽微となり、割れ目のほとんどが認識できるようになるが、コアは、軟質で脆い、割れ目に沿った薄い変質脈が白く見られるものがある。

標尺 (m)	深度 (m)	柱状図	岩種区分	色調	岩級区分	コア採取率 (%)	最大コア長 (cm)	R (%)	Q (%)	D (%)	コア採取率 (%)			記事
											R	Q	D	
	10			明黄褐色		100								
	13.75			黄褐色	D'	100	4	0						B 13.75~14.67m ・花崗斑岩である。
	14.00			黄褐色	CL'	100	4	0						5 13.75~14.67m ・軟質である。
	14.24			黄褐色	D'	100	3	0						5 13.75~14.67m ・割れ目の多くは不鮮明である。
	14.53			黄褐色	D'	100	14	14						●15.91~16.35m(D-1硬砂層) ・破砕部である。
	14.67			黄褐色	CL'	100	15	15						・正断層センスである。
	15.00			黄褐色	CL'	100	9	0						・積灰~灰白色の粘土質~オリブ黄色の粘土質じり層状を呈する。
	15.30			黄褐色	CL'	100	9	0						・積灰~灰白色粘土：厚計厚3mm
	15.60			黄褐色	CL'	100	5	0						・走向・傾斜はN16° W33° Eである。
	16.00			黄褐色	CL'	100	11	11						・上盤境界の傾斜は72°、下盤境界の傾斜は76°である。

記事	コア観察カード(H27年8月)⇒申請書用柱状図
B	・“地質名”欄に基づき、花崗斑岩とその深度区間を記載。
5	・“風化”欄に基づき、強風化部と記載。
6	・マンガン汚染、変質脈については、補足的なものであるため削除。 ・14.53mの頁岩礫については、掘削時の孔壁崩壊により混入したものと判断し削除。 ・割れ目の残留の程度については、岩盤の劣化に関する補足的なものであるため削除。 ・硬軟や脆弱化の程度については、RQD、最大コア長、岩級区分で示していることから削除。

# H27-B-4

## コア観察カード (H27年8月)

## コア観察カードの仮ワープロ変換

## 申請書用柱状図

標尺 (m)	深度 (m)	標準貫入試験 値	地質名	色調	構造区分			RQD	最大コア長	記事
					割れ目径	割れ目長さ	割れ目密度			
15	15.00									
	15.52									
	15.91									
16	16.36									
	16.52									
	17.03									
17	17.86									

記事内容
15.00～15.49m 低角度の割れ目が優勢、風化により割れ目沿いは劣化。砂～シルト状の細粒物が見られる。コアも軟質である。
15.52～15.60m 礫状コア、多くは上部からの崩壊物と思われる。 15.60～15.91m 割れ目沿いの劣化が著しく脆弱
15.91～16.36m 破砕帯である。全体にマンガンで汚染される 15.91m 上盤72°、緑灰色の粘土がやや湾曲しながら厚さ2～6mmで見られる。
16.36m 下盤76°、灰白色の変質粘土が厚さ25mm程生じている。 16.36～16.52m 上位の破砕帯と風化の影響で劣化が著しい。
16.52～17.03m 割れ目沿いの劣化は顕著で一部礫～砂状となる 17.03～17.86m 低角度の割れ目が優勢、割れ目沿いの劣化が見られ、コアも軟質で表面はザラつく。

標尺 (m)	深度 (m)	柱状	岩種区分	色調	岩級区分	コア採取率 (%)	最大コア長 (cm)			記事
							R	Q	D	
						100				
					D'	100	4	0		
					CL'	100	4	0		
					D	100	3	0		
						100	14	14		
					CL'	100	15	15		
						100	9	0		
						100	5	0		
						100	11	11		
					CM'	100	7	0		
						100	5	0		
						55	5	0		

記事	コア観察カード(H27年8月)⇒申請書用柱状図
7	<ul style="list-style-type: none"> <li>割れ目の傾斜については、補足的なものであるため削除。</li> <li>15.00～15.49mの割れ目沿いに砂～シルト状の細粒物を挟在するが、周囲の岩盤に劣化が認められないことから削除。</li> <li>硬軟や脆弱化の程度については、RQD、最大コア長、岩級区分で示していることから削除。</li> <li>15.52～15.60mで礫状を呈するが、掘削時の機械割れと判断し削除。</li> </ul>
8, 9	<ul style="list-style-type: none"> <li>破砕帯名を記載。</li> <li>薄片観察の結果で得られた最新活動面の変位センスを記載。</li> <li>“色調”欄に基づき、オリブ黄色と記載。</li> <li>“破砕度区分”欄に基づき、粘土混じり礫状と記載。</li> <li>粘土の累計幅については、最大値の合計を記載。</li> <li>ポアホールテレビの解析結果による最新活動面の走向・傾斜を記載。</li> <li>マンガンについては、補足的なものであるため削除。</li> </ul>
10	<ul style="list-style-type: none"> <li>劣化が著しいが、劣化に系統性が認められないことから削除。</li> </ul>
11	<ul style="list-style-type: none"> <li>変更なし</li> </ul>
12	<ul style="list-style-type: none"> <li>割れ目沿いの劣化については、当該区間周囲の割れ目と明瞭な差が認められないため削除。</li> <li>コア表面の粗さについては、補足的なものであるため削除。</li> </ul>

# H27-B-4

## コア観察カード (H27年8月)

標高 9m (m)	深度 (m)	岩種 区分	色	柱状 図	RQD	最大コア長 (cm)	岩級区分	基盤岩コア観察カード 記事・発露性状・詳細スケッチ等	
								記事	スケッチ
17.56	17.56							17.86~18.00m コア表面のザラつきは幾分軽微。	
18.00	18.00							18.00~19.08m 低角度の微細な割れ目が非常に多い	
18.52	18.52							18.70~20.00m 斜長石の風化し軟質となった比較的大型の斑晶が目立つ	
19.57	19.57							19.57~19.76m 礫状コアが主体となる	

## コア観察カードの仮ワープロ変換

記事内容
17.86~18.00m コア表面のザラつきは幾分軽微。
18.00~19.08m 低角度の微細な割れ目が非常に多い
18.70~20.00m 斜長石の風化し軟質となった比較的大型の斑晶が目立つ
19.57~19.76m 礫状コアが主体となる

## 申請書用柱状図

標高 尺	深度 m	柱状 図	岩種 区分	色	岩級 区分	コア採取率 (%)	最大コア長 (cm)	R	Q	D	最大コア長 (cm)	R	Q	D	記事
17.56	17.56					100	0	0	0	0	0	0	0	0	13.75~144.00m ・花崗閃岩である。 13.75~14.67m ・強風化部である。 ・割れ目の多くは不明である。 ●15.91~16.50m(D-1破砕帯) ・破砕部である。 ・正断層センスである。 ・緑泥~灰白色の粘土状~オリブ黄色の粘土層に準拠する。 ・緑泥~灰白色粘土・厚針厚3mm ・走向・傾斜はN16°E83°である。 ・上盤境界の傾斜は72°、下盤境界の傾斜は76°である。 16.52~17.03m ・一部が礫状を呈する。 17.02~17.86m ・低角度の割れ目が多い。 20.23~20.37m ・割れ目自注、一部粗粒状を呈する。
18.00	18.00				D'	100	4	0	0	0	0	0	0	0	
18.52	18.52				CL'	100	4	0	0	0	0	0	0	0	
19.08	19.08				D'	100	3	0	0	0	0	0	0	0	
19.57	19.57				CL'	100	14	14	0	0	0	0	0	0	
20.00	20.00				CL'	100	15	15	0	0	0	0	0	0	
					CL'	100	9	0	0	0	0	0	0	0	
					CM'	100	5	0	0	0	0	0	0	0	
					CM'	100	11	11	0	0	0	0	0	0	
					CM'	100	7	0	0	0	0	0	0	0	
					CM'	100	5	0	0	0	0	0	0	0	
					CM'	55	5	0	0	0	0	0	0	0	

記事	内容
	コア観察カード(H27年8月)⇒申請書用柱状図
13	・コア表面の粗さについては、補足的なものであるため削除。 ・割れ目の発達程度については、RQD、最大コア長、岩級区分で示しているため削除。
14	・一般的な岩種であり、石基及び斑晶の種類、粒径等については、特に目立つ区間のみ記載することとしており、特に目立つ区間ではないため削除。
15	・19.57~19.76mで礫状を呈するが、掘削時の機械割れと判断し削除。

コア観察カード  
(H27年8月)

基礎岩コア観察カード 記事・観察性状・詳細スケッチ等										
深度	径	性状	色	岩種	岩質	割れ目	その他	備考	写真	スケッチ
16	20.02	付近きわめて小規模な破砕帯(変質帯)副10~20mm								
17	20.07	小規模な破砕帯(変質帯)幅10~40mm角度30°								
18	20.23~20.37	割れ目沿いに一部細礫状となる。								
19	20.56~20.55m, 20.87~20.94m	礫状となる。								
20	22.47~22.55m	礫状コア、一部は上部から崩壊物も含まれていると思われる。								
21	23.39~	コアは軟質となり、表面はザラつく								
	24.13~24.55m	落下したコアを再採取したものと思われる。								

コア観察カードの仮ワープロ変換

記事内容
20.02m付近 付近きわめて小規模な破砕帯(変質帯)副10~20mm 50°
20.07m 小規模な破砕帯(変質帯)幅10~40mm角度30°
20.23~20.37m 割れ目沿いに一部細礫状となる。
20.56~20.55m, 20.87~20.94m 礫状となる。
21.36~21.50m 微細な割れ目に沿ってマンガンの汚染が明瞭
21.50~22.47 割れ目に沿ってマンガンから褐色汚染へと変じる
22.47~22.55m 礫状コア、一部は上部から崩壊物も含まれていると思われる。
23.39~ コアは軟質となり、表面はザラつく
24.13~24.55m 落下したコアを再採取したものと思われる。

申請書用柱状図

標尺	深度	柱状	岩種	色	岩級区分	コア採取率(%)	最大コア長(cm)	R	Q	D	最大コア長 R Q D (cm)	記事
20		花崗斑岩	淡褐色	CL'	100	15	15					・正断層センスである。 ・凝灰~灰白色の粘土状~オリブ黄色の粘土層より礫状を呈する。 ・凝灰~灰白色粘土、集計厚3mm ・走向・傾斜はN46°E 88°Eである。 ・上層境界の傾斜は72°、下層境界の傾斜は76°である。 15.52~17.03m ・一部が礫状を呈する。 17.03~17.85m ・傾斜度の割れ目が多い。 20.23~20.37m ・割れ目沿いに、一部細礫状を呈する。 20.36~20.65m 20.87~20.94m ・礫状を呈する。 22.47~22.55m ・礫状を呈する。 23.36~23.79m 26.96~27.22m ・軟質である。 29.74~29.78m ・破砕部である。カタクレサイトからなる
				CL'	100	9	0					
				CL'	100	5	0					
				CL'	100	11	11					
				CM'	100	7	0					
				CL'	100	5	0					
				CL'	55	5	0					
				CL'	52	18	18					
				CL'	100	14	28					
				CL'	100	9	0					
				CL'	100	15	15					
				CL'	100	11	21					

記事	コア観察カード(H27年8月)⇒申請書用柱状図
16	・20.02mと20.07mの小規模な破砕帯(変質帯)との記載については、連続性に乏しく、原岩組織の残留の程度に周囲と明瞭な差が認められず、周囲の岩盤の劣化に系統性も認められないことから、破砕部ではないものと判断し削除。
17	・変更なし
18	・深度20.56~20.55m⇒20.55~20.65m <sup>※3</sup>
19	・割れ目の発達の程度については、RQD、最大コア長、岩級区分で示していることから削除。 ・マンガン、変色については、補足的なものであるため削除。
20	・崩壊物も含まれていると思われるとの記載については、孔壁崩壊による岩片を含んでいる可能性を指摘したものであるが、ポアホールテレビによる観察結果から、周囲の岩盤と明瞭な差が認められないため削除。
21	・硬軟については、岩級区分に含めて示していることから削除。 ・コア表面の粗さについては、補足的なものであるため削除。 ・24.13~24.55mで落下したコアを再採取したものと思われるとの記載については、機械割れによるコアの劣化を指摘したものであるが、ポアホールテレビによる観察結果から、周囲の岩盤と明瞭な差が認められないため削除。

# H27-B-4

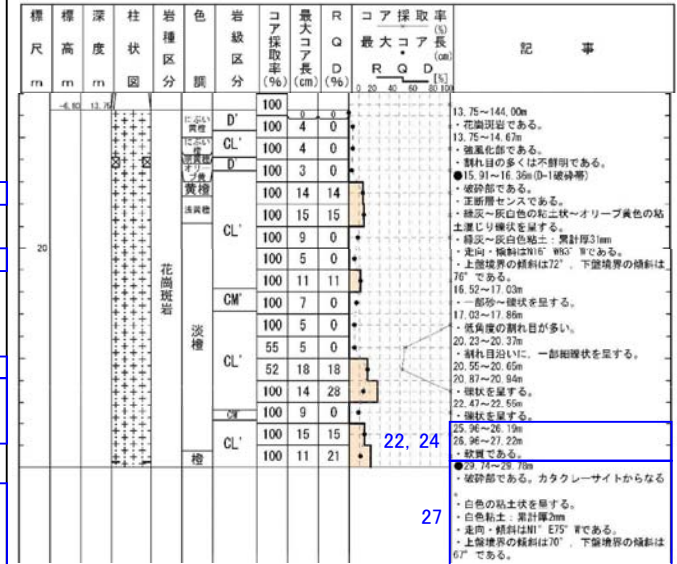
## コア観察カード (H27年8月)

## コア観察カードの仮ワープロ変換

## 申請書用柱状図

基盤岩コア観察カード									
記事・観察状況・詳細スケッチ等									
標高	深度	層厚	含水率	割れ目	割れ目	割れ目	割れ目	割れ目	割れ目
(m)	(m)	(m)	(%)	割れ目	割れ目	割れ目	割れ目	割れ目	割れ目
25.96	26.19								
26.40	26.47								
26.96	27.22								
27.22	27.22								
27.95	28.00								
28.24									
29.48	29.91								
29.74	29.78								

記事内容
22 25.96～26.19 コアは軟質で表面のザラつきが大きい
23 26.40～26.47m 割れ目沿いの劣化が明瞭、コアも周辺より軟質である
24 26.96～27.22m 岩質が軟質で脆弱である
25 27.22m 剪断性の割れ目。変質も加わり上盤側は緑褐色で幅20mm軟質。角度40° N7E.64W
26 27.95～28.00m 剪断性の節理が局所的に集中し脆弱となる
26 28.24m 低角度で幅10mm砂～礫状となる。上下盤はシャープ。
27 29.48～29.91 微細な割れ目が集中し、かつコアは軟質となる。29.59m～微細な割れ目はマンガンに汚染される
27 29.60～29.70m 剪断性の節理が卓越する。
27 29.74～29.78 ごく小規模な破砕帯 上盤70° 白色粘土2mm下盤67° マンガン汚染顕著。上盤側は幅10mmで一部で変質を伴う。



記事	コア観察カード(H27年8月)⇒申請書用柱状図
22	・コア表面の粗さについては、補足的なものであるため削除。
23	・割れ目沿いに劣化が明瞭との記載については、当該区間周囲の割れ目と明瞭な差が認められないことから削除。
24	・変更なし
25	・剪断性の割れ目との記載があるが、周囲の岩盤の劣化に系統性が認められないことから削除。
26	・27.95～28.00mで剪断性の節理が局所的に集中との記載、28.24mで砂～礫状となるとの記載については、周囲の岩盤に劣化が認められないことから削除。 ・29.48～29.91mで割れ目が集中し、軟質となるが、当該区間に含まれる破砕部を除き、原岩組織が残留し、劣化に系統性も認められないことから削除。 ・29.60～29.70mで剪断性の節理が卓越するとの記載については、岩盤の劣化が系統的でないことから削除。 ・マンガンについては、補足的なものであるため削除。
27	・カタクレーサイト主体であると判断したことから、カタクレーサイトからなると記載。 ・ポアホールテレビの解析結果による最新活動面の走向・傾斜を記載。 ・マンガン汚染については、補足的なものであるため削除。 ・変質については、変質を受けた部分の連続性に乏しいことから削除。

# H27-B-4

## コア観察カード (H27年8月)

### コア観察カードの仮ワープロ変換

### 申請書用柱状図

標尺 (m)	深度 (m)	境界線位置 (m)	試料採取位置 (m)	試料採取深度 (m)	試料採取径 (mm)	試料採取量 (g)	試料採取回数	試料採取位置 (m)	試料採取深度 (m)	試料採取径 (mm)	試料採取量 (g)	試料採取回数	試料採取位置 (m)	試料採取深度 (m)	試料採取径 (mm)	試料採取量 (g)	試料採取回数	試料採取位置 (m)	試料採取深度 (m)	試料採取径 (mm)	試料採取量 (g)	試料採取回数	試料採取位置 (m)	試料採取深度 (m)	試料採取径 (mm)	試料採取量 (g)	試料採取回数	
30	29.77																											
30	30.10																											
30	30.62																											
30	30.73																											
30	31.77																											
30	31.93																											
30	31.87																											
30	32.36																											
30	32.68																											
30	33.00																											
30	33.62																											
30	34.30																											
30	34.55																											

記事内容
28 30.10~30.69 低角度の割れ目が優勢である。
28 30.62~30.73m この間、やや不規則な形状の高角度の割れ目が2条見られ、マンガンが3~5mmの厚さで析出している。
29 31.77~31.93m やや低角度の微細な割れ目が、ほぼ平行に密集する。
30 31.87~31.91m 剪断を受ける上盤45° 暗緑灰色の粘土~シルトを3mm伴う。下盤40°。上下盤の間はやや緑色味を帯び軟質である
31 32.36~32.39m 20° ~30° 程度の剪断性の節理が平行して集中する
31 32.68~32.73m 30° 程度の節理がほぼ平行して集中する緑レン石の薄い脈が3条見られる
32 33.00~33.62m 30~50° の割れ目が優勢、割れ目に沿って明瞭な劣化が見られるものが多い。
33 34.30~34.42m 割れ目が集中し礫~岩片状コアとなる。人為的？ 34.55m付近、局所的(連続しない)に低角度で破砕され細礫状となる



記事	コア観察カード(H27年8月)⇒申請書用柱状図
28	・割れ目の傾斜、マンガンについては、補足的なものであるため削除。
29	・変更なし
30	・剪断を受けるとの記載、粘土~シルトを伴うとの記載があるが、周囲の岩盤に劣化が認められないことから削除。
31	・ほぼ並行する割れ目の分布についてまとめ書き。
32	・割れ目沿いの劣化の程度については、当該区間の周囲との差が明瞭ではないことから削除。
33	・34.30~34.42mで礫~岩片状を呈するが、掘削時の機械割れと判断し削除。 ・34.55m付近で破砕され細礫状との記載があるが、連続性に乏しいことから削除。

# H27-B-4

## コア観察カード (H27年8月)

### コア観察カードの仮ワープロ変換

### 申請書用柱状図

基礎岩コア観察カード 記事・岩種・性状・詳細スケッチ等										
層位	層名	層厚	層位	層名	層厚	層位	層名	層厚	層位	層名
34										
35										
36										
37										
38										
39										
40										

記事内容
34 35.60～35.78m 低角度のほぼ平行した割れ目が集中し脆弱となる。割れ目沿いに白色の鉱物脈が見られる所が多い。 35.72m付近剪断破碎を局所的に受け礫状となる
35 36.14～36.35m この間割れ目がやや卓越する
36 36.98～37.10m 高角度の割れ目に沿って劣化する。厚さ12mmで細礫～砂状となる。
37 37.36m 25°の割れ目に沿って厚さ4mmの暗褐色のシルト～砂が挟まる(流入?) 37.36～37.98m 割れ目の汚染は明瞭であるが狭在物は見られない。
38 38.08～38.96m 狭在物が見られる割れ目は、38.53mの高角度のものが1条のみ。
39 38.96m～ 割れ目に沿って劣化するものが多い
40 39.21m, 39.60～39.65m 割れ目沿いに劣化し、幅10mm以下で砂～細礫状となる。



記事	コア観察カード(H27年8月)⇒申請書用柱状図
34	・変更なし
35	・35.72m付近で礫状を呈するが、周囲の岩盤に劣化が認められないことから削除。 ・割れ目の発達程度については、RQD、最大コア長、岩級区分で示していることから削除。
36	・変更なし
37	・37.36mでシルト～砂を挟在するが、連続性に乏しく、周囲の岩盤に劣化が認められないことから削除。 ・割れ目の汚染、挟在物の有無については、補足的なものであるため削除。
C	・硬軟について、“コアの硬さ”欄に基づき、硬質と記載。 ・割れ目の発達程度について、“コアの形状”欄に基づき、短柱～柱状と記載。
38	・一部割れ目に挟在物が分布するが、連続性に乏しく、周囲の岩盤に劣化が認められないことから削除。
39	・割れ目沿いの劣化については、著しい箇所を個別に別途記載していることから削除。
40	・割れ目沿いに砂～細礫状を呈するが、周囲の岩盤に劣化が認められないことから削除。

コア観察カード  
(H27年8月)

基礎岩コア観察カード									
記事・観察状況・詳細スケッチ等									
標高	深度	層名	色	割れ目	風化	RQD	最大コア長	岩級区分	記事
(m)	(m)						(cm)		
40.64	40.93								41
40.95	41.00								41
41.00	41.20								42
41.37	41.47								43
41.80	41.91								43
42.12	42.25								44
42.35	42.46								44
43.05	43.15								45
43.54	43.65								46
43.80	43.21								46

コア観察カードの仮ワープロ変換

記事内容
41 40.64~40.93m 割れ目が卓越し、割れ目沿いの劣化が明瞭、砂~細礫となる所が多い、割れ目沿いに変質している。 40.95~41.00m 割れ目沿って劣化、細礫状となる。
42 41.00~41.20m 低角度と高角度の割れ目が交叉し、亀甲状となる。割れ目沿いに劣化が見られるものが多い
43 41.37~41.47m ほぼ平行な割れ目が集中、割れ目沿いの劣化が明瞭で脆弱。 41.80~41.91m 割れ目沿いの劣化が顕著で非常に脆弱である。
44 42.12~42.25m 割れ目に沿った劣化が顕著。一部固結した砂状となる。粘土なし、鏡肌なし。 42.35m 25°と割れ目に厚さ2~3mmのマンガン狭在 42.38~42.46m 局所的に固結した砂に岩片が混じる。褐色汚染も明瞭。
45 43.05m 剪断破碎をごく小規模に受ける。角度32° 幅10mm、上盤は石英脈を伴う。下盤は粘土2mm。 43.06~43.15m 岩片状コア。(人為的なものを含む)
46 43.54~43.65m 変質及び風化の脆弱となる。43.63m白色の変質脈、粘土化はしていないが軟質 43.80~43.21m 低角度の割れ目が卓越し、コアも軟質となり、表面はザラつく。 44.46m 42°の割れ目に沿って褐色汚染頭。周辺には絹雲母と白鉄鉱(黄鉄鉱の分解途中)が散在し光る。

申請書用柱状図

標準	深度	柱状	岩種	色	岩級	コア	最大	R	コア	率	記事
尺	高度	状	区分	調	区分	採取	コア	Q	採取	(%)	
m	m	m	図			(%)	(cm)	(%)	R	Q	D
											[%]
	40			浅黄		100	22	56			
						100	15	29			
					CL'	100	8	0			
						100	6	0			
						100	4	0			
						100	3	0			
					CL'	100	21	21			
						100	8	0			
					CM'	100	10	10			

記事	コア観察カード(H27年8月)⇒申請書用柱状図
41	・40.64~40.93m, 40.95~41.00mで割れ目沿いに砂~細礫状を呈するが、周囲の岩盤に劣化が認められないことから削除。
42	・表現の見直し(亀甲状→網目状)
43	・脆弱化や割れ目の発達については、RQD, 最大コア長, 岩級区分で示していることから削除。
44	・割れ目沿いに砂状化するが、連続性に乏しく、周囲の岩盤に劣化が認められないことから削除。 ・鏡肌なしとの記載については、補足的なものであるため削除。
45	・マンガン, 変色, 鉱物脈については、補足的なものであるため削除。 ・42.38~42.46mの一部で砂状を呈するが、掘削時の機械割れと判断し削除。 ・43.05mで剪断破碎との記載があるが、劣化部の連続性に乏しいことから削除。 ・43.06~43.15mで岩片状を呈するが、掘削時の機械割れと判断し削除。
46	・硬軟や割れ目の発達については、RQD, 最大コア長, 岩級区分で示していることから削除。 ・変質脈, 割れ目の傾斜, コア表面の粗さ, 変色, 割れ目沿いの鉱物の晶出については、補足的なものであるため削除。



# H27-B-4 コア観察カード (H27年8月)

標尺 (m)	深度 (m)	層位	地層	観察項目		備考
				割れ目の性状	色調	
46.00	46.00					
46.10	46.10					
46.20	46.20					
46.30	46.30					
46.40	46.40					
46.50	46.50					
46.60	46.60					
46.70	46.70					
46.80	46.80					
46.90	46.90					
47.00	47.00					
47.10	47.10					
47.20	47.20					
47.30	47.30					
47.40	47.40					
47.50	47.50					
47.60	47.60					
47.70	47.70					
47.80	47.80					
47.90	47.90					
48.00	48.00					
48.10	48.10					
48.20	48.20					
48.30	48.30					
48.40	48.40					
48.50	48.50					
48.60	48.60					
48.70	48.70					
48.80	48.80					
48.90	48.90					
49.00	49.00					
49.10	49.10					
49.20	49.20					
49.30	49.30					
49.40	49.40					
49.50	49.50					
49.60	49.60					
49.70	49.70					
49.80	49.80					
49.90	49.90					
50.00	50.00					
50.10	50.10					
50.20	50.20					
50.30	50.30					
50.40	50.40					
50.50	50.50					
50.60	50.60					
50.70	50.70					
50.80	50.80					
50.90	50.90					
51.00	51.00					
51.10	51.10					
51.20	51.20					
51.30	51.30					
51.40	51.40					
51.50	51.50					
51.60	51.60					
51.70	51.70					
51.80	51.80					
51.90	51.90					
52.00	52.00					
52.10	52.10					
52.20	52.20					
52.30	52.30					
52.40	52.40					
52.50	52.50					
52.60	52.60					
52.70	52.70					
52.80	52.80					
52.90	52.90					
53.00	53.00					

## コア観察カードの仮ワープロ変換

記事内容
45.10m 剪断性の節理 上盤側は一部巾20mmで脆弱となる。絹雲母が散在し光る。
47 45.42~45.62m 微細な割れ目が集中し、コアも軟質で表面がザラつく所が多い 45.73~45.80m 割れ目沿いに劣化し、礫状~砂状となる。
48 46.10~46.35m 60~70°の割れ目が集中する。狭在物の見られる割れ目もあるが、汚染はほとんど見られない。
49 47.11~47.32m 微細な割れ目が網目状となる。割れ目沿いの劣化も見られ軟質、脆弱となる
50 47.36~47.53m 高角度と低角度の割れ目が交叉し格子状となる。割れ目の汚染は見られないが砂状の狭在物が見られる。 47.76~ 微細な割れ目が卓越し、脆弱となる。47.76~47.88m間は、割れ目沿いのマンガン汚染が明瞭。
51 48.38m 破砕帯 上盤52° 下盤45° 幅30mmやや赤味を帯びる
52 49.18m 剪断性の節理63° 上盤側幅20mm劣化し脆弱となる
53 49.43m 白色の鉱物脈風化しやや軟質幅4mm角度47°

## 申請書用柱状図

標尺	深度	柱状	岩種	色調	岩級区分	コア採取率 (%)	最大コア長 (cm)	R	Q	D	コア採取率 (%)	最大コア長 (cm)	記事
m	m	m	図										
			化層班岩		CL'	100	21	21					
						100	8	0					
					CM'	100	10	10					47 46.10~46.35m ・傾斜60°~70°の割れ目が多い。
						100	9	0					48 46.10~46.35m ・微細な割れ目が、網目状に分布する。
					CL'	100	5	0					49 47.11~47.32m ・破砕帯である。カタクレーサイトからなる
						100	11	21					50 47.36~47.53m ・にぶい褐色の粘土を呈する。 ・にぶい褐色粘土：厚み30mm ・走向・傾斜はN48° E78° Eである。 ・上盤境界の傾斜は52°、下盤境界の傾斜は45°である。
						100	6	0					51 48.38~48.60m ・軟質である。
						100	11	11					
						100	6	0					
					CL'	100	4	0					

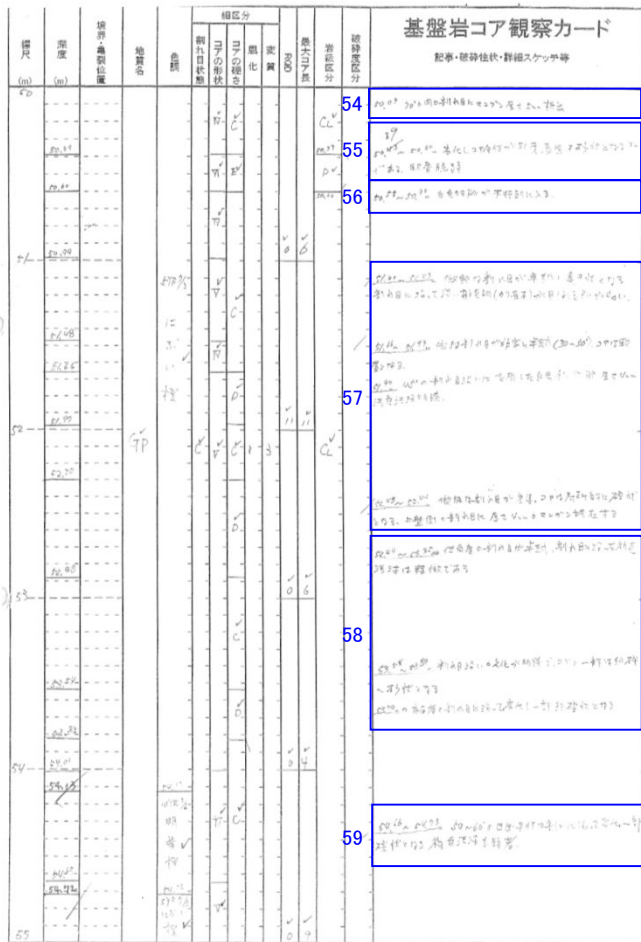
記事	コア観察カード(H27年8月)⇒申請書用柱状図
47	・硬軟や割れ目の発達程度については、RQD、最大コア長、岩級区分で示していることから削除。 ・コア表面の粗さについては、補足的なものであるため削除。 ・45.10mで剪断性の節理との記載があるが、変位が認められず、周囲の岩盤に劣化が認められないことから削除。 ・45.73~45.80mで割れ目沿いに礫状~砂状を呈するが、周囲の岩盤に劣化が認められないことから削除。
48	・挟在物の有無については、補足的なものであるため削除。
49	・硬軟や脆弱化の程度については、RQD、最大コア長、岩級区分で示していることから削除。
50	・割れ目の発達程度については、RQD、最大コア長、岩級区分で示していることから削除。 ・47.36~47.53mの一部割れ目に砂状の挟在物を伴うが、周囲の岩盤に劣化が認められないことから削除。 ・マンガンについては、補足的なものであるため削除。
51	・カタクレーサイト主体であると判断したことから、カタクレーサイトからなると記載。 ・“破砕度区分”欄に基づき、48.30~48.33m、粘土状と記載。 ・色調については、“色調”欄に基づき、にぶい褐色と記載。 ・ポアホールテレビの解析結果による最新活動面の走向・傾斜を記載。
52	・剪断性の節理との記載があり、割れ目沿いに脆弱化するが、劣化部の連続性に乏しく、周囲の岩盤と明瞭な差が認められないことから削除。
53	・鉱物脈については、補足的なものであるため削除。

# H27-B-4

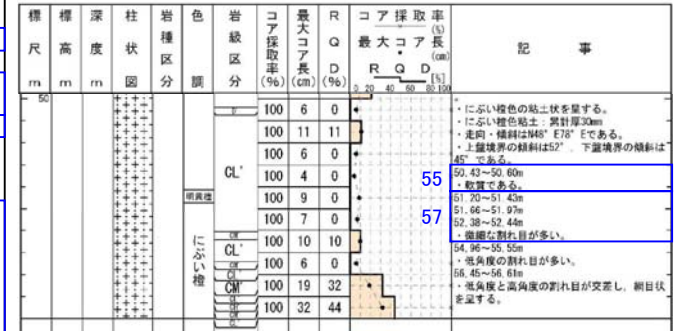
## コア観察カード (H27年8月)

## コア観察カードの仮ワープロ変換

## 申請書用柱状図



記事内容
54 50.09 70° の開口割れ目にマンガン厚さ5mm析出
55 50.39~50.60m 劣化しコア全体が軟質、表面は砂状となる所がある。軟質脆弱
56 50.58~50.92m 白色細脈が不規則に入る。
57 51.20~51.43m 微細な割れ目が卓越し亀甲状となる。割れ目に沿って淡い桃色脈(カリ長石)が見られる所が多い。 51.66~51.97m 微細割れ目が非常に卓越(30~50°)。コアは軟質となる。 51.90m 45° の割れ目沿いに変質した白色鉍物脈厚さ4mm汚色汚染明瞭
58 52.48~52.44m 微細な割れ目が密集。コアは局所的に礫状となる。上盤側の割れ目に厚さ4mmのマンガン狭在する 52.44~53.35m 低角度の割れ目が卓越、割れ目に沿った褐色汚染は軽微である 53.54~53.59m 割れ目沿いの劣化が明瞭で、コアの一部は細礫~砂状となる。 53.74mの高角度の割れ目に沿って劣化し、一部細礫状となる
59 54.66~54.73m 50~60° のほぼ平行な割れに沿って劣化。一部礫状となる。褐色汚染も顕著。



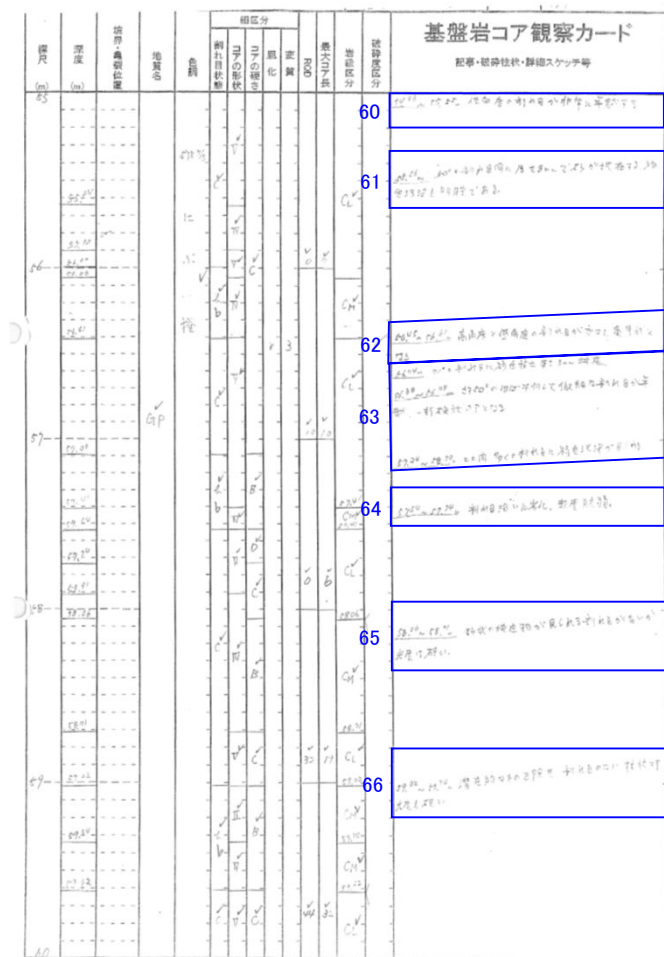
記事	コア観察カード(H27年8月)⇒申請書用柱状図
54	・マンガンについては、補足的なものであるため削除。
55	・表面は砂状との記載については、掘削時の機械割れと判断し削除。 ・50.39mとの記載があるが、劣化が顕著な区間として、50.43~50.60mと記載。
56	・鉍物脈については、補足的なものであるため削除。
57	・鉍物脈、マンガンについては、補足的なものであるため削除。 ・硬軟については、区間毎にばらつきがあることから削除。
58	・割れ目の発達程度については、RQD、最大コア長、岩級区分で示していることから削除。 ・割れ目沿いの変色については、補足的なものであるため削除。 ・53.55~53.59mで細礫~砂状を呈するが、掘削時の機械割れと判断し削除。 ・53.74mの割れ目沿いで細礫状を呈するが、連続性に乏しいことから削除。
59	・一部が礫状化しているが、挟在物の連続性に乏しく、周囲の岩盤に劣化が認められないことから削除。 ・変色については、補足的なものであるため削除。

# H27-B-4

## コア観察カード (H27年8月)

## コア観察カードの仮ワープロ変換

## 申請書用柱状図



記事内容
60 54.96~55.55m 低角度の割れ目が非常に卓越する
61 55.56m 50°の割れ目間に厚さ8mmで砂が狭在する。褐色汚染も明瞭である。
62 56.45~56.61m 高角度と低角度の割れ目が交叉し亀甲状となる。 56.74m 71°の割れ目に褐色粘土厚さ3mm狭在 56.88~56.98m 約50°のほぼ平行した微細な割れ目が卓越、一部礫状コアとなる。
63 57.24~58.50m この間多くの割れ目に褐色汚染が見られる
64 57.54~57.74m 割れ目沿いに劣化。軟質脆弱。
65 58.06~58.71m 砂状の挟在物が見られる割れ目が多いが岩質は硬い。
66 59.02~59.34m 潜在的なものを除き、割れ目のない柱状コア岩質も硬い

標尺	標高	深度	柱状	岩種	色	岩級区分	コア採取率 (%)	最大コア長 (cm)	R	Q	D	コア採取率 (%)	最大コア長 (cm)	記事
m	m	m	図	分	質	分	(%)	(cm)	(%)	R	Q	D	(%)	
50							100	6	0					・にぶい褐色の粘土状多量する。 ・にぶい褐色粘土。割れ厚3mm ・走向・傾斜は48° Eである。 ・上盤境界の傾斜は52°。下盤境界の傾斜は45°である。 50.43~50.60m ・軟質である。 51.20~51.43m 51.66~51.97m 52.38~52.44m ・網眼状割れ目が多い。 54.96~55.55m ・低角度の割れ目が多い。 56.45~56.61m ・低角度と高角度の割れ目が交叉し、網目状を呈する。
							100	11	11					
							100	6	0					
							100	4	0					
							100	9	0					
							100	7	0					
							100	10	10					
							100	6	0					
							100	19	32					
							100	32	44					

記事	コア観察カード(H27年8月)⇒申請書用柱状図
60	・変更なし
61	・割れ目に砂を挟在するが、周囲の岩盤に劣化が認められないことから削除。
62	・表現の見直し(亀甲状→網目状)
63	・56.74mで粘土を挟在するが、連続性に乏しく、周囲の岩盤に劣化が認められないことから削除。 ・56.88~56.98mで一部礫状を呈するが、掘削時の機械割れと判断し削除。 ・割れ目沿いの変色については、補足的なものであるため削除。
64	・割れ目沿いに軟質化するが、挟在物の連続性に乏しく、周囲の岩盤に劣化が認められないことから削除。
65	・一部割れ目に砂状の挟在物を伴うが、周囲の岩盤に劣化が認められないことから削除。 ・硬軟については、岩級区分に含めて示していることから削除。
66	・硬軟や割れ目の発達程度については、RQD、最大コア長、岩級区分で示していることから削除。

# H27-B-4 コア観察カード (H27年8月)

## コア観察カードの仮ワープロ変換

## 申請書用柱状図

基礎岩コア観察カード		記事内容	
深度 (m)	観察内容	記事内容	
60.07	60.07~60.45m 微細な割れ目が卓越し、コアも軟質となる。割れ目沿いにコア表面は凹む所が多く、ザラつく。	67	60.07~60.45m 微細な割れ目が卓越し、コアも軟質となる。割れ目沿いにコア表面は凹む所が多く、ザラつく。
60.45	60.45~60.82m 低~中角度の平行に近い割れ目が卓越。割れ目に沿った褐色汚染が明瞭	67	60.45~60.82m 低~中角度の平行に近い割れ目が卓越。割れ目に沿った褐色汚染が明瞭
60.82	60.82~61.72m 微細な割れ目が卓越。コアも軟質で脆弱特に61.40~61.58m間は劣化が顕著。	68	60.82~61.72m 微細な割れ目が卓越。コアも軟質で脆弱特に61.40~61.58m間は劣化が顕著。
61.72	61.72~62.36m コアは若干硬くなるが、不規則で微細な割れ目が非常に卓越する。コアは軟質となり、表面がザラつく	68	61.72~62.36m コアは若干硬くなるが、不規則で微細な割れ目が非常に卓越する。コアは軟質となり、表面がザラつく
62.36	62.36~63.25m コアは軟質となり、表面がザラつく。低角度がやや優性な不規則で微細な割れ目が卓越する。	69	62.36~63.25m コアは軟質となり、表面がザラつく。低角度がやや優性な不規則で微細な割れ目が卓越する。
62.75	62.75m 剪断性の割れ目(節理)幅10mmやや緑色味を帯び、褐色汚染が明瞭	70	62.75m 剪断性の割れ目(節理)幅10mmやや緑色味を帯び、褐色汚染が明瞭
63.00	63.00~63.26m 劣化し全体に軟質脆弱。割れ目に砂やシルトが生じている。	71	63.00~63.26m 劣化し全体に軟質脆弱。割れ目に砂やシルトが生じている。
63.26	63.26~63.90m 全体に軟質脆弱。亀甲状の割れ目には灰白色のシルトが生じている。	71	63.26~63.90m 全体に軟質脆弱。亀甲状の割れ目には灰白色のシルトが生じている。
63.90	63.90~64.30m 変質し軟質割れ目は不鮮明となり、やや緑色味を帯びる。	72	63.90~64.30m 変質し軟質割れ目は不鮮明となり、やや緑色味を帯びる。
64.65	64.65~64.91m 破碎帯	73	64.65~64.91m 破碎帯
64.91	64.91m 上盤65° 粘土3mm	74	64.91m 上盤65° 粘土3mm
64.91	64.91m 下盤65° (やや不鮮明)これより上位礫状上下盤の間に剪断面2条あり	74	64.91m 下盤65° (やや不鮮明)これより上位礫状上下盤の間に剪断面2条あり

標準	深度	柱状	岩種	色	岩級	コア	最大	R	コア	記事	
尺	度	状	区分	調	区分	採取	コア	Q	採取		
m	m	m	図			率	長	D	率		
						(%)	(cm)	(%)	(%)		
				にぶい橙	CL'	100	4	0		67	60.07~60.45m 60.45~61.72m ・微細な割れ目が多い。
				にぶい橙	CL'	100	3	0		72	63.90~64.30m ・変質している。 ・軟質化しており、割れ目は不鮮明である。
				にぶい橙	CL'	100	3	0		73, 74	64.65~64.91m ・節理である。 ・正断層センスである。 ・緑灰色の粘土状~にぶい橙色の粘土混じり礫状を呈する。 ・緑灰色粘土、厚計厚3mm。 ・走向・傾斜は65°(E77)である。 ・上盤境界の傾斜は65°、下盤境界の傾斜は65°である。 65.50~65.72m

記事	コア観察カード(H27年8月)⇒申請書用柱状図
67	<ul style="list-style-type: none"> <li>コア表面の粗さについては、補足的なものであるため削除。</li> <li>硬軟については、岩級区分に含めて示しているため削除。</li> <li>60.45~60.82mについては、その上下の区間と比較して劣化が軽微であることから削除。</li> </ul>
68	<ul style="list-style-type: none"> <li>硬軟や割れ目の発達については、RQD、最大コア長、岩級区分で示していることから削除。</li> <li>コア表面の粗さについては、補足的なものであるため削除。</li> </ul>
69	<ul style="list-style-type: none"> <li>硬軟や割れ目の発達については、RQD、最大コア長、岩級区分で示していることから削除。</li> <li>コア表面の粗さについては、補足的なものであるため削除。</li> </ul>
70	<ul style="list-style-type: none"> <li>剪断性の割れ目との記載があるが、周囲の岩盤に劣化が認められないことから削除。</li> <li>割れ目沿いの変色については、補足的なものであるため削除。</li> </ul>
71	<ul style="list-style-type: none"> <li>割れ目に砂やシルトを挟在するが、岩盤の劣化に系統性が認められないことから削除。</li> </ul>
72	<ul style="list-style-type: none"> <li>色調については、補足的なものであるため削除。</li> <li>下端深度63.30→64.30m<sup>※3</sup></li> </ul>
73, 74	<ul style="list-style-type: none"> <li>薄片観察の結果で得られた最新活動面の変位センスを記載。</li> <li>“破碎度区分”欄のHJに基づき、粘土混じり礫状と記載。</li> <li>“色調”欄に基づき、にぶい橙と記載。</li> <li>粘土の色調については、見直しにより褐色と記載。</li> <li>ポアホールテレビの解析結果による最新活動面の走向・傾斜を記載。</li> <li>剪断面2条ありとの記載については、補足的なものであるため削除。</li> </ul>

元標		標高		層位	地層	地質	RQD	最大コア長	岩級区分	色調	記事
(m)	(m)	(m)	(m)								
65.59	65.72	65.59	65.72								75
66.30	67.28	66.30	67.28								76
67.28	67.78	67.28	67.78								77
68.07	68.70	68.07	68.70								78
68.70	68.97	68.70	68.97								79
69.28	69.33	69.28	69.33								80

記事内容	
65.59～65.72m 破砕帯される。110mm砂～礫状 65.59m 65° 上盤 65.72m 62° 下盤 部分的に灰白色粘土2～3mm明瞭なガウジは無い。	75
～66.30m 割れ目が卓越し、やや脆弱であるが褐色汚染は見られない。 66.30～67.28m 割れ目沿いに褐色汚染が見られる。特に66.80～66.95mの60～70°の高角度の割れ目沿いは顕著。	76
66.97～67.28m 割れ目が交叉し、細かい亀甲状となる。	
67.28～67.78m 変質部。軟質でやや赤味を帯びた灰白色を呈す。割れ目は不明瞭となる。粘土化進む。	77
68.07m～ 割れ目が卓越しコアも軟質で表面はザラつく。 68.70m 30°の割れ目、黄褐色粘土を厚さ8mm挟む	78
68.97～69.08m 細礫～砂状コア。粘土なし。	79
69.28～69.33m 割れ目沿いに劣化。細礫状となる 69.63～69.77m 高角度と低角度の割れ目が交叉。高角度の割れ目沿いに劣化が明瞭	80
69.85～70.00 割れ目密集、岩片状コア	

標尺	深度	柱状	岩種	色調	岩級区分	コア採取率 (%)	最大コア長 (cm)	R (%)	Q (%)	D (%)	最大コア長 (cm)	R (%)	Q (%)	D (%)	記事
						100	6	0							63.90～64.30m ・変質している。 ・軟質化しており、割れ目は不明瞭である。
					CL'	100	4	0							●64.65～64.91m ・破砕部である。 ・正断層センスである。 ・細灰色の粘土状～灰色の粘土土壌じり ・細砂を呈する。
					CL'	100	3	0							・黄褐色粘土。累計厚3mm。 ・走向・傾斜はN47°Eである。 ・上盤境界の傾斜は65°。下盤境界の傾斜は 65°である。
					CL'	100	3	0							●66.55～66.72m ・破砕部である。カタクレーサイトからなる
					CL'	100	9	0							・灰白色の粘土状～細灰色の砂～礫状を呈する。
					CL'	100	5	0							・灰白色粘土。累計厚3mm。 ・走向・傾斜はN57°Eである。 ・上盤境界の傾斜は65°。下盤境界の傾斜は 62°である。
					CL'	100	8	0							67.28～67.78m ・変質している。
					CL'	100	7	0							68.97～69.08m ・砂～細礫状を呈する。
					CL'	100	6	0							78.18～78.35m ・傾斜が、～60°の割れ目が多い。
					CL'	100	13	13							
					CL'	100	14	14							

記事	コア観察カード(H27年8月)⇒申請書用柱状図
75	<ul style="list-style-type: none"> <li>・カタクレーサイト主体であると判断したことから、カタクレーサイトからなると記載。</li> <li>・“色調”欄に基づき、褐灰色と記載。</li> <li>・粘土の累計幅については、最大値を記載。</li> <li>・ポアホールテレビの解析結果による最新活動面の走向・傾斜を記載。</li> </ul>
76	<ul style="list-style-type: none"> <li>・割れ目の発達や脆弱化の程度については、RQD、最大コア長、岩級区分で示していることから削除。</li> <li>・割れ目沿いの変色については、補足的なものであるため削除。</li> </ul>
77	<ul style="list-style-type: none"> <li>・下端深度67.78m⇒67.75m<sup>※3</sup></li> <li>・硬軟については、岩級区分に含めて示しているため削除。</li> <li>・割れ目の明瞭さについては、岩盤の劣化に関する補足的なものであるため削除。</li> </ul>
78	<ul style="list-style-type: none"> <li>・硬軟や割れ目の発達程度については、RQD、最大コア長、岩級区分で示していることから削除。</li> <li>・コア表面の粗さについては、補足的なものであるため削除。</li> <li>・68.70mで粘土を挟むが、連続性や直線性に乏しいことから削除。</li> </ul>
79	<ul style="list-style-type: none"> <li>・変更なし</li> </ul>
80	<ul style="list-style-type: none"> <li>・69.28～69.33mで割れ目沿いに細礫状を呈するが、周囲の岩盤に劣化が認められないことから削除。</li> <li>・割れ目の発達程度については、RQD、最大コア長、岩級区分で示していることから削除。</li> </ul>

コア観察カード  
(H27年8月)

コア観察カードの仮ワープロ変換

申請書用柱状図

標準 深さ (m)	深度 (m)	地層 番号	地層 名	地層 記号	細区分		RQD	最大 コア長 (cm)	岩級 区分	記事
					細区分 1	細区分 2				
70	70.06								81	70.06m付近 60° 幅20mmで局所的に弱く破碎され脆弱となる。
71	71.22								82	71.22m 60°、71.25m 54° 剪断性の割れ目(節理)。この間、幅20~30mm脆弱となる。 71.25~72.73m この間やや軟質でコア表面はザラつく。
72	72.33								83	72.33m 32° の割れ目間に、一見腐植土のようなマンガンに汚染された細粒物と破砕物と思われる暗緑灰色の固い砂状のものを挟む。厚さ8~15mm。
73	73.56								84	73.56m 65° の割れ目に暗褐色に汚染されたシルト質の砂を4~10mm挟む
74	74.16								85	74.16~74.34m 30~50° の割れ目が密集する。脆弱

記事内容
81 70.06m付近 60° 幅20mmで局所的に弱く破碎され脆弱となる。
82 71.22m 60°、71.25m 54° 剪断性の割れ目(節理)。この間、幅20~30mm脆弱となる。 71.25~72.73m この間やや軟質でコア表面はザラつく。
83 72.33m 32° の割れ目間に、一見腐植土のようなマンガンに汚染された細粒物と破砕物と思われる暗緑灰色の固い砂状のものを挟む。厚さ8~15mm。
84 73.56m 65° の割れ目に暗褐色に汚染されたシルト質の砂を4~10mm挟む
85 74.16~74.34m 30~50° の割れ目が密集する。脆弱

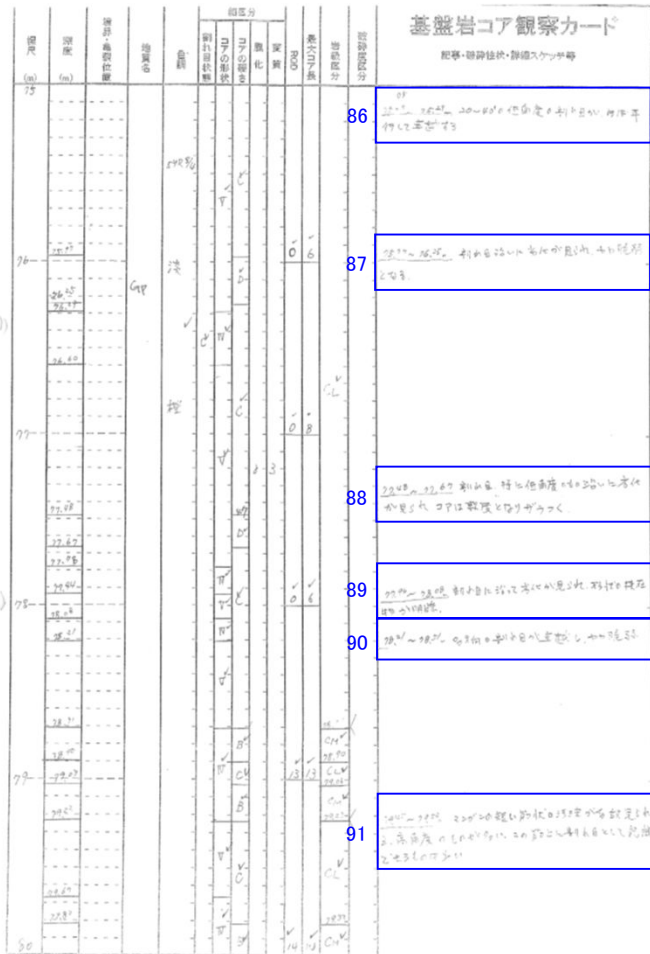
標準 深さ (m)	深度 (m)	地層 番号	地層 名	地層 記号	RQD	最大 コア長 (cm)	岩級 区分	記事
70	70.06							70.06m付近 60° 幅20mmで局所的に弱く破碎され脆弱となる。
71	71.22							71.22m 60°、71.25m 54° 剪断性の割れ目(節理)。この間、幅20~30mm脆弱となる。 71.25~72.73m この間やや軟質でコア表面はザラつく。
72	72.33							72.33m 32° の割れ目間に、一見腐植土のようなマンガンに汚染された細粒物と破砕物と思われる暗緑灰色の固い砂状のものを挟む。厚さ8~15mm。
73	73.56							73.56m 65° の割れ目に暗褐色に汚染されたシルト質の砂を4~10mm挟む
74	74.16							74.16~74.34m 30~50° の割れ目が密集する。脆弱

記事	コア観察カード(H27年8月)⇒申請書用柱状図
81	・弱く破碎され脆弱との記載については、せん断構造や変形構造が不明瞭で、連続性に乏しく、周囲の岩盤に劣化が認められないことから削除。
82	・剪断性の割れ目との記載があり、割れ目間で脆弱化しているが、周囲の岩盤と明瞭な差が認められないことから削除。
83	・硬軟については、岩級区分に含めて示しているため削除。 ・コア表面の粗さについては、補足的なものであるため削除。 ・72.33mで破砕物と思われるとの記載があるが、割れ目に挟在する砂状部は硬質で、周囲の岩盤に劣化が認められないことから削除。
84	・シルト質砂を挟在するが、周囲の岩盤に劣化が認められないことから削除。
85	・脆弱化の程度については、RQD、最大コア長、岩級区分で示しているため削除。 ・割れ目が特に密集する区間として、74.19~74.34mと記載。

コア観察カード  
(H27年8月)

コア観察カードの仮ワープロ変換

申請書用柱状図



記事内容	
86	75.05~75.29m 20~40° の低角度の割れ目がほぼ平行して卓越する
87	75.77~76.25m 割れ目沿いに劣化が見られ、やや脆弱となる。
88	77.48~77.67 割れ目特に低角度のもの沿いに劣化が見られコアは軟質となりザラつく
89	77.96~78.08m 割れ目に沿って劣化が見られ砂状の狭在物が明瞭。
90	78.21~78.51m 多方向の割れ目が卓越し、やや脆弱
91	79.45~79.52m マンガンの短い筋状の汚染が多数見られる。高角度のものが多く、この筋上に割れ目として認識できるものは少い

標尺	標高	深度	柱状	岩種区分	色	岩級区分	コア採取率 (%)	最大コア長 (cm)	R	Q	D	コア採取率 (%)			記事
												R	Q	D	
70				花崗斑岩	淡橙	GL	100	2	0						補灰包結土 厚計厚3mm。 ・走向・傾斜はN47°Eである。 ・上盤境界の傾斜は65°、下盤境界の傾斜は65°である。 ●65.55~65.72m ・破砕部である。カタクレサイトからなる。 ・灰白色の粘土状~褐色の砂~礫状を呈する。 ・灰白色粘土 層厚3mm。 ・走向・傾斜はN57°Eである。 ・上盤境界の傾斜は65°、下盤境界の傾斜は60°である。 67.28~67.75m ・変質している。 ・灰白色を呈し、粘土化している。 68.37~69.08m ・砂~礫層状を呈する。 74.18~74.34m ・傾斜30°~40°の割れ目が多い。 75.05~75.29m ・傾斜20°~40°の、ほぼ平行する低角度の割れ目が多い。 80.13~80.29m
							100	3	0						
							100	9	0						
							100	5	0						
							100	5	0						
							100	8	0						
							100	7	0						
							100	6	0						
							100	8	0						
							100	6	0						
80				花崗斑岩	淡橙	GL	100	13	13						
							100	14	14						
							100	13	24						
							100	15	26						

記事	コア観察カード(H27年8月)⇒申請書用柱状図
86	・変更なし
87	・脆弱化の程度については、RQD、最大コア長、岩級区分で示していることから削除。
88	・硬軟や割れ目の発達程度については、RQD、最大コア長、岩級区分で示していることから削除。 ・コア表面の粗さについては、補足的なものであるため削除。
89	・割れ目沿いに劣化し、一部で砂状を呈するが、連続性や直線性に乏しく、周囲の岩盤に劣化が認められないことから削除。
90	・割れ目の発達や脆弱化の程度については、RQD、最大コア長、岩級区分で示していることから削除。
91	・マンガン、割れ目の傾斜については、補足的なものであるため削除。 ・割れ目の残留の程度については、岩盤の劣化に関する補足的なものであるため削除。





コア観察カード  
(H27年8月)

コア観察カードの仮ワープロ変換

申請書用柱状図

位置		層位		地層		地質		地質		地質		地質		地質		地質		地質		地質	
標高	深度	層位	層位	地層	地層	地質	地質	地質	地質	地質	地質	地質	地質	地質	地質	地質	地質	地質	地質	地質	地質
85.73	85.97	98																			
86.73	86.83	99																			
86.96	88.03	100																			
88.96		101																			
89.27	89.44	102																			

記事内容
98 85.73~85.97m 高角度の2条の割れ目に挟まれた範囲で割れ目が卓越 岩片状となる。
99 86.73~86.83m 上下の割れ目(節理)に挟まれた区間で局所的に砂~礫状となる
100 86.96~88.03m 割れ目面や割れ目沿いは、褐色やマンガンの汚染が明瞭であるが、狭在物はほとんど見られない。岩質も硬い。
101 88.96m 45°の割れ目の下盤側劣化し局所には非常に脆弱 上盤側は巾20mmマンガンの汚染がコアに明瞭
102 89.27~89.44m 微細な割れ目が卓越する。コアも幾分軟質

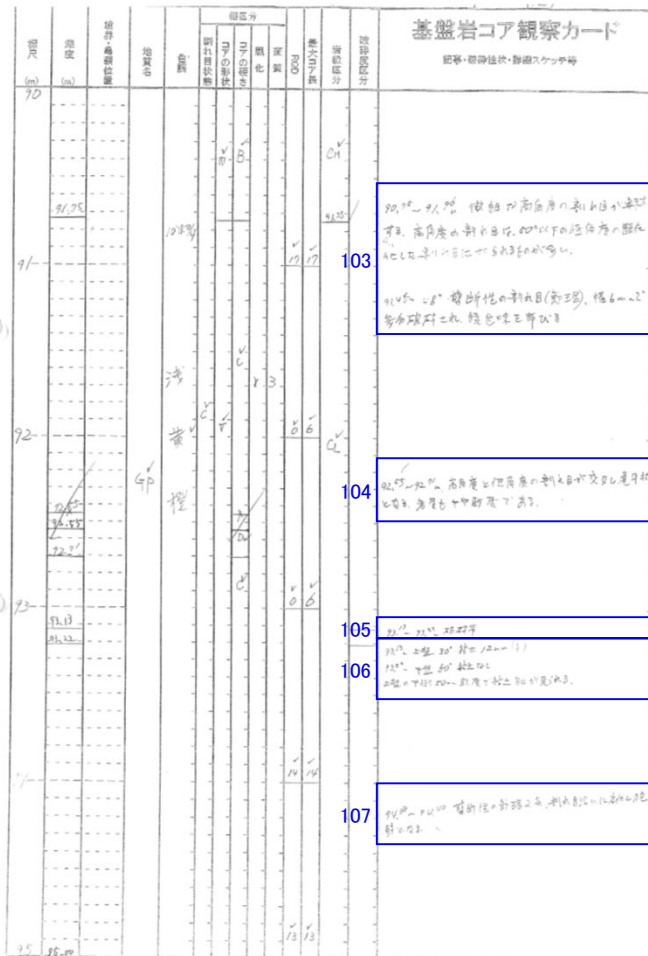
標尺	深度	柱状	岩種	色	岩級	コア採取率	最大コア長	R	Q	D	コア採取率	最大コア長	記事
mm	mm	mm	図	顔	区分	(%)	(cm)	(%)	(%)	(%)	(%)	(cm)	
	80					100	13	13					砂~礫状を呈する。 74.15~74.34m ・傾斜30°~50°の割れ目が多い。 75.05~75.29m ・傾斜20°~40°の、ほぼ並行する低角度の割れ目が多い。 80.13~80.29m ・傾斜35°~55°の、両方向の割れ目が多い 83.32~84.05m ・硬質であるが、割れ目が多く、短柱~柱状を呈する。 84.09~84.77m ・割れ目が多く、軟質化している。 85.14~86.26m ・硬質である。 ・主として、柱状~長柱状を呈する。
						100	14	14					
						100	13	24					
						100	15	26					
						100	13	13					
						100	12	34					
						100	8	0					
						100	9	0					
						100	13	23					
						100	23	62					
						100	13	24					
						100	8	20					89.27~89.44m ・微細な割れ目が多い。

記事	コア観察カード(H27年8月)⇒申請書用柱状図
98	・割れ目の発達については、RQD,最大コア長, 岩級区分で示していることから削除。
E	・“コアの硬さ”欄に基づき、硬質と記載。 ・“コアの形状”欄を見直すとともに最大コア長を踏まえ、柱状~長柱状と記載。
99	・砂~礫状については、掘削時の機械割れと判断し削除。
100	・割れ目の変色、マンガン、狭在物の有無については、補足的なものであるため削除。 ・硬軟については、岩級区分に含めて示していることから削除。
101	・非常に脆弱との記載があるが、劣化部の連続性に乏しいことから削除。 ・マンガンについては、補足的なものであるため削除。
102	・硬軟については、岩級区分に含めて示していることから削除。

## コア観察カード (H27年8月)

## コア観察カードの仮ワープロ変換

## 申請書用柱状図



記事内容	
103	90.75～91.96m 微細な高角度の割れ目が卓越する。高角度の割れ目は、50°以下の低角度の顕在化した割れ目に切られるものが多い。
103	91.45m 48° 剪断性の割れ目(節理)、幅6mmで幾分破砕され、緑色味を帯びる
104	92.55～92.71m 高角度と低角度の割れ目が交叉し、亀甲状となる。岩質もやや軟質である。
105	93.13～93.22m 破砕帯
106	93.13m 上盤30° 粘土12mm主 93.22m 下盤50° 粘土なし、上盤の下側50mm軟質で粘土脈が見られる。
107	94.38～94.40m 剪断性の節理2条、割れ目沿いに劣化し脆弱となる。

標尺	深度	柱状	岩種	色調	岩級区分	コア採取率 (%)	最大コア長 (cm)	R	Q	最大コア長 (cm)	コア採取率 (%)	記事
m	m	図	分	調	分	(%)	(cm)	(%)	(%)	(cm)	(%)	
					CM'	100	17	17				
						100	6	0				
						100	6	0				
					CL'	100	14	14				
						100	13	13				
						100	3	0				
						100	6	0				
						100	3	0				
					浅黄橙	100	11	11				
						100	5	0				
						100	9	0				

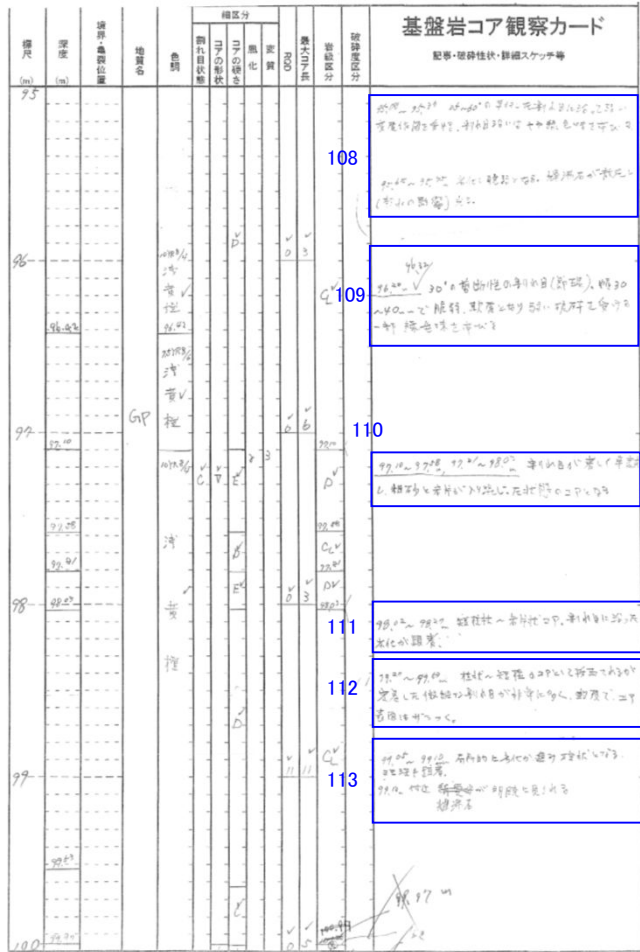
記事	コア観察カード(H27年8月)⇒申請書用柱状図
103	<ul style="list-style-type: none"> <li>割れ目の発達程度については、RQD、最大コア長、岩級区分で示しているため削除。</li> <li>割れ目に切られるとの記載、91.45mの剪断性の割れ目との記載があるが、周囲の岩盤に劣化が認められないことから削除。</li> </ul>
104	<ul style="list-style-type: none"> <li>硬軟や割れ目の発達程度については、RQD、最大コア長、岩級区分で示していることから削除。</li> </ul>
105, 106	<ul style="list-style-type: none"> <li>薄片観察の結果で得られた最新活動面の変位センスを記載。</li> <li>粘土区間以外の粒度について、見直しにより、粘土混じり礫状と記載。</li> <li>“色調”欄に基づき、浅黄橙色と記載。</li> <li>粘土の色調については、見直しにより明緑灰色と記載。</li> <li>ポアホールテレビの解析結果による最新活動面の走向・傾斜を記載。</li> <li>粘土脈については、いずれも連続性に乏しいことから削除。</li> </ul>
107	<ul style="list-style-type: none"> <li>94.38～94.40mで割れ目沿いに脆弱化しているが、劣化部の直線性や連続性に乏しいことから削除。</li> </ul>

# H27-B-4

## コア観察カード (H27年8月)

## コア観察カードの仮ワープロ変換

## 申請書用柱状図



記事内容
<p>108 95.08～95.37 35～60°の平行した割れ目に沿って弱い変質作用を受ける。割れ目沿いはやや緑色味を帯びる。</p> <p>95.65～95.75m 劣化し脆弱となる。輝沸石が散在し(熱水の影響)光る。</p>
<p>109 96.20～96.32 30°の剪断性の割れ目(節理)。幅30～40mmで脆弱、軟質となり弱い破砕を受ける一部緑色味を帯びる</p>
<p>110 97.10～97.58m、97.81～98.03m 割れ目が著しく卓越し、粗砂と岩片が入り混じった状態のコアとなる</p>
<p>111 98.02～98.27m 短柱状～岩片状コア。割れ目に沿った劣化が顕著。</p>
<p>112 99.27～99.53m 柱状～短柱のコアとして採取されるが密着した微細な割れ目が非常に多く、軟質でコア表面はザラつく。</p>
<p>113 99.05～99.10m 局所的に劣化が進み礫状となる。汚染も顕著 99.10m付近 輝沸石が明瞭に見られる</p>



記事	コア観察カード(H27年8月)⇒申請書用柱状図
108	<ul style="list-style-type: none"> <li>・脆弱化の程度については、RQD、最大コア長、岩級区分で示していることから削除。</li> <li>・割れ目沿いの色調、鉱物の晶出については、補足的なものであるため削除。</li> </ul>
109	<ul style="list-style-type: none"> <li>・割れ目沿いに軟化し、弱い破砕を受けるとの記載があるが、連続性や直線性に乏しく、周囲の岩盤に劣化が認められないことから削除。</li> <li>・色調については、補足的なものであるため削除。</li> </ul>
110	<ul style="list-style-type: none"> <li>・粗砂と岩片が入り混じったとの記載に基づき、砂礫状と記載。</li> </ul>
111	<ul style="list-style-type: none"> <li>・割れ目の発達程度については、RQD、最大コア長、岩級区分に含めて示しているため削除。</li> </ul>
112	<ul style="list-style-type: none"> <li>・割れ目の発達程度については、周囲の岩盤に劣化が認められないことから削除。</li> </ul>
113	<ul style="list-style-type: none"> <li>・鉱物の晶出については、補足的なものであるため削除。</li> <li>・一部で礫状を呈するが、連続性に乏しいことから削除。</li> </ul>

# H27-B-4

## コア観察カード (H27年8月)

### コア観察カードの仮ワープロ変換

### 申請書用柱状図

標高		深度		層別		岩種		色		岩級		コア採取率		最大コア長		R		Q		D		記事	
(m)	(m)	(m)	(m)									(%)	(cm)	(%)	(cm)	(%)	(%)	(%)	(%)	(%)	(%)	(%)	
100.00	100.00	100.00	100.00	CL'	100	5	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	97.81~98.03m ・割れ目が多く、砂礫状を呈する。	
100.45	100.45	100.45	100.45	CH'	100	36	51	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	101.43~102.23m ・硬質である。 ・主として、柱状~長柱状を呈する。	
101.31	101.31	101.31	101.31	CM'	100	17	27	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	104.67~108.44m ・硬部であるが、割れ目が多く、短柱~柱状を呈する。	
101.43	101.43	101.43	101.43	CM'	100	14	14	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	●108.44~108.71m ・硬部である。カタクレーサイトからなる	
101.81	101.81	101.81	101.81	CM'	100	18	44	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0		
101.81	101.81	101.81	101.81	CM'	100	16	40	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0		
101.81	101.81	101.81	101.81	CM'	100	19	42	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0		
101.81	101.81	101.81	101.81	CM'	100	22	22	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0		
101.81	101.81	101.81	101.81	CL'	100	5	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0		

記事内容
114 100.28m、100.30m 50°~55°の割れ目中に砂状の破砕物を厚さ2~4mm挟む。褐色汚染明瞭
115 100.45m 25°の低角度割れ目の周辺に鮮やかな青色の変質鉱物が見られる。この鉱物は塩酸で溶けないことから孔雀石ではなく、珪孔雀石の可能性はある。
116 101.31~101.43m 低角度を主体としたの割れ目が集中。割れ目沿いの劣化も明瞭、一部局所的に礫状となる。
117 101.43~102.23m 柱状~長柱状のコアが主体。岩質も堅硬である。
118 102.23~102.37m 割れ目がやや卓越。102.23m、102.25mは剪断性の節理で、割れ目沿いの劣化が明瞭
119 103.40~103.55m 高角度主体の微細な割れ目が卓越する
120 104.03~104.17m 50°~60°の剪断性の割れ目(節理)が卓越する
121 104.50~104.90m コアは斑状の褐色汚染が明瞭である。

標高	深度	層別	岩種	色	岩級	コア採取率	最大コア長	R	Q	D	記事
(m)	(m)					(%)	(cm)	(%)	(%)	(%)	
100.00	100.00	CL'	花崗斑岩	灰色	100	5	0	0	0	0	97.81~98.03m ・割れ目が多く、砂礫状を呈する。
100.45	100.45	CH'	花崗斑岩	灰色	100	36	51	0	0	0	101.43~102.23m ・硬質である。 ・主として、柱状~長柱状を呈する。
101.31	101.31	CM'	花崗斑岩	灰色	100	17	27	0	0	0	104.67~108.44m ・硬部であるが、割れ目が多く、短柱~柱状を呈する。
101.43	101.43	CM'	花崗斑岩	灰色	100	14	14	0	0	0	●108.44~108.71m ・硬部である。カタクレーサイトからなる
101.81	101.81	CM'	花崗斑岩	灰色	100	18	44	0	0	0	
101.81	101.81	CM'	花崗斑岩	灰色	100	16	40	0	0	0	
101.81	101.81	CM'	花崗斑岩	灰色	100	19	42	0	0	0	
101.81	101.81	CM'	花崗斑岩	灰色	100	22	22	0	0	0	
101.81	101.81	CL'	花崗斑岩	灰色	100	5	0	0	0	0	

記事	コア観察カード(H27年8月)⇒申請書用柱状図
114	・割れ目沿いの変色については、補足的なものであるため削除。 ・一部で砂を挟み、破砕物との記載があるが、周囲の岩盤に劣化が認められないことから削除。
115	・割れ目沿いの変色、鉱物の晶出については、補足的なものであるため削除。 ・101.31~101.43mの一部で礫状を呈するが、礫状部の連続性に乏しいことから削除。
116	・変更なし
117	・102.23mと102.25mで剪断性の節理との記載があり、割れ目間で劣化しているが、周囲の岩盤に劣化が認められないことから削除。
118	・割れ目の発達程度については、RQD、最大コア長、岩級区分で示していることから削除。
119	・割れ目の傾斜については、周囲の割れ目と差異が認められないため削除。 ・剪断性の割れ目との記載があるが、周囲の岩盤に劣化が認められないことから削除。
120	・変色については、補足的なものであるため削除。

# H27-B-4 コア観察カード (H27年8月)

## コア観察カードの仮ワープロ変換

## 申請書用柱状図

基礎岩コア観察カード 記号・硬軟性状・詳細スケッチ等									
標尺 (m)	深度 (m)	硬軟性状	色調	割れ目性状	最大コア長 (cm)	岩級区分	RQD	最大コア長 (cm)	硬軟性状
105	105.08								
	105.31								
	105.58								
	106.31								
	106.58								
	106.87								
	107.47								
	108.44								
	108.67								
	108.71								
	108.87								
	109.79								
	110.05								

記事内容
121 105.08～105.80m 柱状コアが主体で岩質も堅硬。
122 106.31～106.38m 局所的に割れ目が集中する。割れ目沿いの劣化も僅かに見られる。
123 106.58～106.92m コアに斑状の褐色汚染が見られる 106.87m 30°の割れ目に、汚染されて褐色となった砂～シルトが厚さ3mmで挟在する
124 107.47～108.34m 堅硬な柱状コアが主体。割れ目やコア表面にマンガンと褐色汚染が見られるが挟在物はほとんど見られない
125 108.44～108.71m 弱い剪断破壊を受け、コアは軟質となる。割れ目も若干不鮮明となる。 108.67～108.71m 褐色汚染が明瞭、褐色の軟質な基質に礫状部が点在する。
126 108.71～109.79m 割れ目が卓越し、割れ目沿いの劣化も見られやや脆弱である。108.71～108.90m 2方向の割れ目が明瞭で、格子状となる。

標尺 (m)	深度 (m)	柱状	岩種区分	色調	岩級区分	コア採取率 (%)	最大コア長 (cm)	R (%)	Q (%)	D (%)	最大コア長 (cm)	R (%)	Q (%)	D (%)	記事
			花崗斑岩			100	14	14							
						100	18	44							104.67～108.44m ・礫部であるが、割れ目が多く、短柱～柱状を呈する。
						100	16	40							
						100	19	42							
						100	22	22							●108.44～108.71m ・礫部である。カタクレーサイトからなる ・浅黄褐色の粘土混じり礫状を呈する。 ・走向・傾斜はN20°E87°Eである。
						100	5	0							
						100	10	10							
						100	16	16							

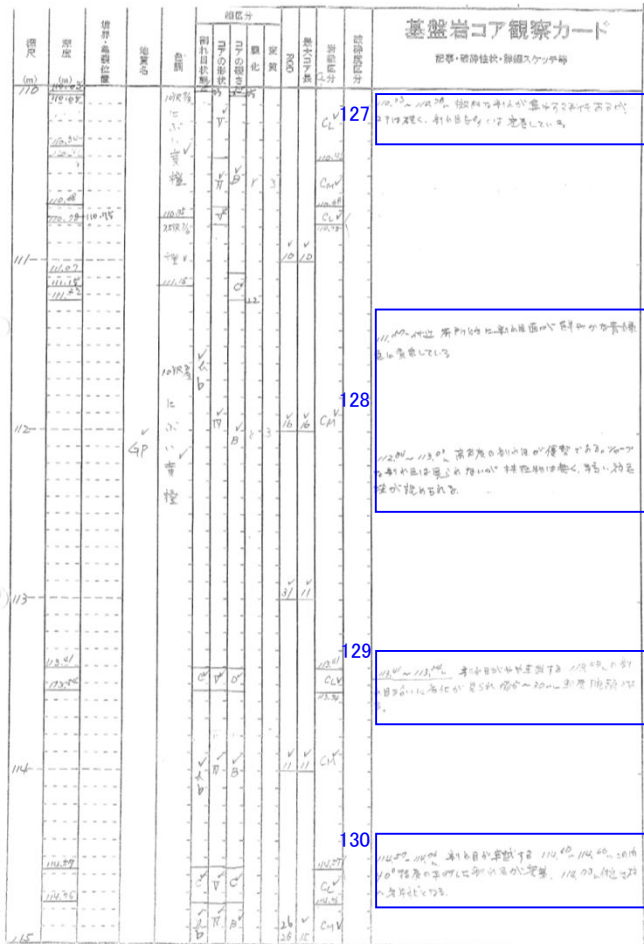
記事	コア観察カード(H27年8月)⇒申請書用柱状図
121	・硬軟や割れ目の発達については、RQD、最大コア長、岩級区分で示していることから削除。
F	・“コアの硬さ”欄及び“コアの形状”欄に基づき、硬部、短柱～柱状と記載。
122	・割れ目の発達については、RQD、最大コア長、岩級区分で示していることから削除。 ・変色については、補足的なものであるため削除。
123	・砂～シルトを挟在するが、周囲の岩盤に劣化が認められないことから削除。
124	・硬軟や割れ目の発達については、RQD、最大コア長、岩級区分で示していることから削除。 ・マンガン、変色、挟在物の有無については、補足的なものであるため削除。
125	・カタクレーサイト主体であると判断したことから、カタクレーサイトからなると記載。 ・“色調”欄に基づき、浅黄褐色と記載。 ・“破砕度区分”欄のHjに基づき、粘土混じり礫状と記載。 ・ポアホールテレビの解析結果による最新活動面の走向・傾斜を記載。 ・破砕部の硬軟については、申請書では記載しないこととしているため削除。 ・割れ目の残留の程度については、岩盤の劣化に関する補足的なものであるため削除。 ・変色については、補足的なものであるため削除。
126	・割れ目の発達については、RQD、最大コア長、岩級区分で示していることから削除。

# H27-B-4

## コア観察カード (H27年8月)

## コア観察カードの仮ワープロ変換

## 申請書用柱状図

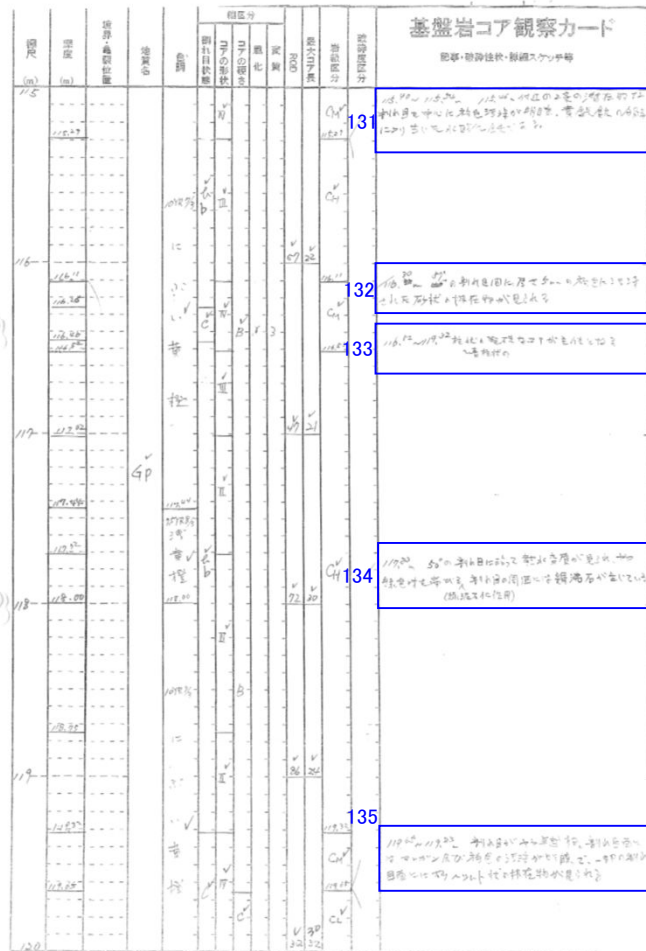


# H27-B-4

## コア観察カード (H27年8月)

## コア観察カードの仮ワープロ変換

## 申請書用柱状図



記事内容	
131	115.40～115.54m 115.46m付近の2条の潜在的な割れ目を中心に褐色汚染が明瞭。黄鉄鉱の分解により生じた水酸化鉄である。
132	116.30m 57°の割れ目間に厚さ5mmの褐色に汚染された砂状の狭在物が見られる
133	116.52～119.32 柱状～長柱状の硬質なコアが主体となる
134	117.83m 50°の割れ目に沿って熱水変質が見られ、やや緑色味を帯びる(緑泥石化作用)割れ目の周囲には輝沸石が生じている。
135	119.65～119.83m 割れ目がやや卓越する。割れ目面には、マンガン及び褐色の汚染が明瞭で、一部の割れ目面には砂～シルト状の狭在物が見られる



記事	コア観察カード(H27年8月)⇒申請書用柱状図
H	・“コアの硬さ”欄に基づき硬質, “コアの形状”欄に基づき柱状～長柱状と記載。
131	・割れ目の変色, 鉱物の晶出については, 補足的なものであるため削除。
132	・砂を挟在するが, 周囲の岩盤に劣化が認められないことから削除。
133	・硬軟や割れ目の発達程度については, RQD, 最大コア長, 岩級区分で示していることから削除。
134	・割れ目沿いの鉱物の晶出, 変色については, 補足的なものであるため削除。
135	・割れ目の発達程度については, RQD, 最大コア長, 岩級区分で示しているため削除。 ・一部に砂・シルトを挟在するが, 連続性に乏しく, 周囲の岩盤に劣化が認められないことから削除。 ・マンガンや変色については, 補足的なものであるため削除。

# H27-B-4 コア観察カード (H27年8月)

## コア観察カードの仮ワープロ変換

## 申請書用柱状図

深度 (m)	観察内容	備考
120.00	136	
120.31	137	
120.40	138	
120.40~122.54	138	
121.60	139	
122.46	140	
122.54~123.84	140	
123.00~123.26	141	
123.85	142	
124.09~	142	

記事内容
136 ~120.10m 割れ目に沿って変質が見られ幅2~4mm軟質となる
137 120.31m付近 65°の平行な割れ目が集中砂~礫状の狭在物が見られる 120.40m 58°の比較的シャープな割れ目。緑灰色の変質脈と厚さ2mmの水酸化鉄を伴う。
138 120.40~122.54m 堅硬な柱~長柱状のコア。褐色汚染が見られる割れ目が多い。
139 121.60m 割れ沿いの一部が脆弱で細礫状となる。白色のシルト状の狭在物が見られる
140 122.46m 割れ目の周囲が変質により緑色味を及ぼす。輝沸石が散在し光る。褐色汚染顕著。
140 122.54~123.84m 顕在化した割れ目他、微細な割れ目が多い。
141 123.00~123.26m 高角度の割れ目には厚さ1~6mmの二酸化マンガンが挟まる。割れ目が集水し脆弱である
142 123.85m 60°の割れ目に厚さ3mmの褐色に汚染された砂が狭在する
142 124.09m~ 柱状コアが主体となり、岩質も硬い。~124.30mまでは割れ目に見られる狭在物が見られる

標尺	深度	柱状	岩種	色	岩級	コア採取率 (%)	最大コア長 (cm)	R	Q	D	最大コア長 (cm)	記事
m	m	m	図	図	分	(%)	(cm)	(%)	(%)	(%)	(cm)	
					CH	100	32	55			138	120.40~122.40m ・硬質である。 ・主として、柱状~長柱状を呈する。
					CH	100	28	83				123.26~127.00m ・硬質であるが、割れ目が多く、主として短柱~柱状を呈する。一部、長柱状を呈する。
					CH	100	36	36				
					CH	100	8	0				
					CH	100	26	71				
					CH	100	20	47				
					CH	100	14	24				
					CH	100	12	12				
					CL	100	8	0				128.90~129.15m ・割れ目沿いに、一部礫状を呈する。
					CL	100	32	43				
					CL	100	9	0				130.42~139.72m ・硬質であるが、割れ目が多く、短柱~柱状を呈する。一部、長柱状を呈する。
					CL	100	33	46				

記事	コア観察カード(H27年8月)⇒申請書用柱状図
136	・割れ目沿いに軟質となるが、周囲の岩盤に劣化が認められないことから削除。
137	・120.31m付近で砂~礫を挟在するが、周囲の岩盤に劣化が認められないことから削除。 ・割れ目沿いの鉱物の晶出については、補足的なものであるため削除。
138	・下端深度については、“コアの形状”欄に基づき、122.46mと記載。 ・変色については、補足的なものであるため削除。
139	・一部割れ目沿いで細礫状を呈し、シルトを挟在するが、連続性に乏しく、周囲の岩盤に劣化が認められないことから削除。 ・色調、鉱物の晶出については、補足的なものであるため削除。
140	・割れ目の発達程度については、RQD、最大コア長、岩級区分で示しているため削除。
141	・マンガンについては、補足的なものであるため削除。 ・脆弱化している部分は局所的であり、周囲の岩盤に劣化が認められないことから削除。
1	・“コアの硬さ”欄に基づき硬質、“コアの形状”欄に基づき主として短柱~柱状、一部、長柱状と記載。
142	・123.85mで砂を挟在するが、周囲の岩盤に劣化が認められないことから削除。 ・硬軟や割れ目の発達程度については、RQD、最大コア長、岩級区分で示しているため削除。 ・割れ目の挟在物の有無については、補足的なものであるため削除。

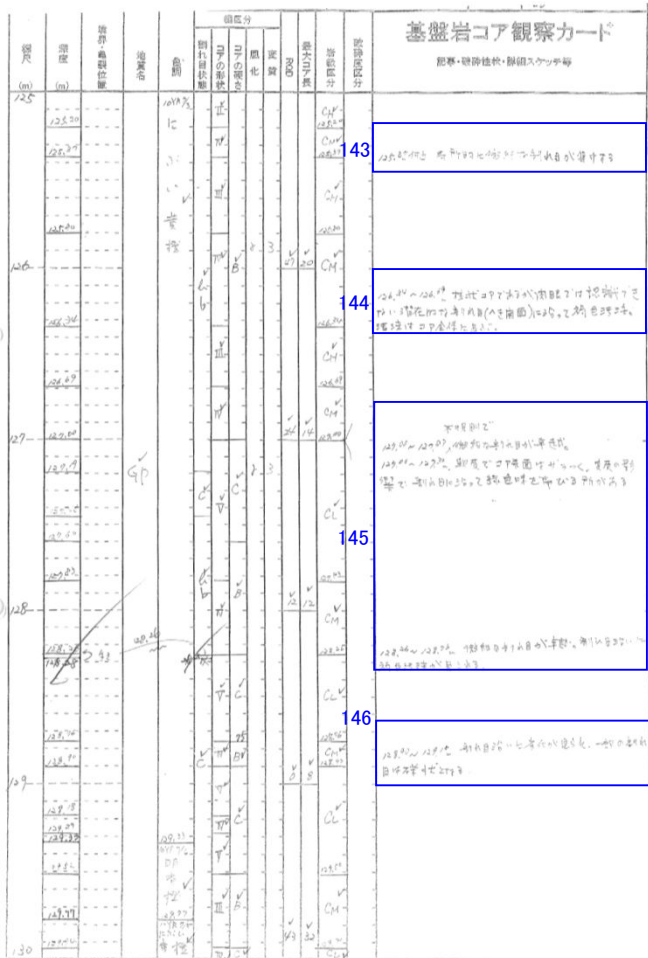


# H27-B-4

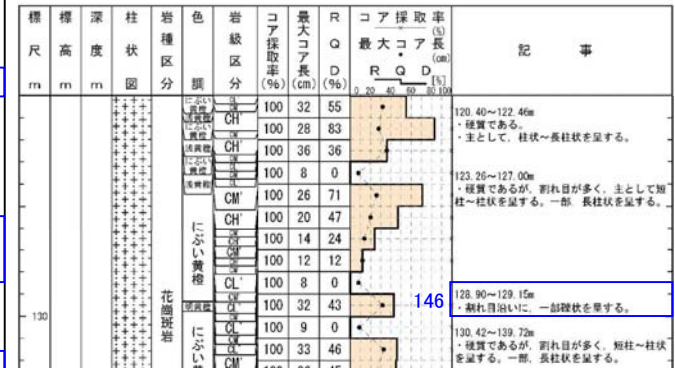
## コア観察カード (H27年8月)

### コア観察カードの仮ワープロ変換

### 申請書用柱状図



記事内容	
143	125.37m付近 局所的に微細な割れ目が集中する
144	126.34~126.69m 柱状コアであるが、肉眼では認識できない潜在的な割れ目(へき開面)に沿って褐色汚染。汚染はコア全体に及ぶ。
145	127.00~127.83m 不規則で微細な割れ目が卓越。 127.06~127.30m 軟質でコア表面はザラつく。変質の影響で割れ目に沿って緑色味を帯びる所がある
146	128.26~128.76m 微細な割れ目が卓越。割れ目沿いに褐色汚染が見られる。  128.90~129.15m 割れ目沿いに劣化が見られ、一部の割れ目は礫状となる。



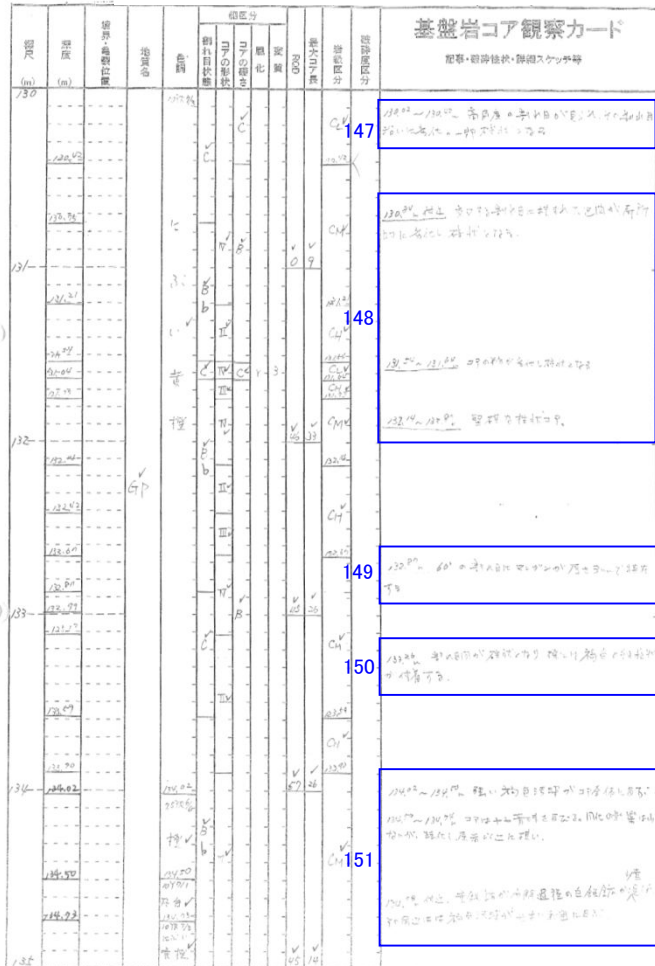
記事	コア観察カード(H27年8月)⇒申請書用柱状図
143	・割れ目の発達程度については、周囲の割れ目と差異が認められないため削除。
144	・割れ目の発達程度については、RQD、最大コア長、岩級区分で示しているため削除。 ・変色については、補足的なものであるため削除。
145	・割れ目の発達程度については、RQD、最大コア長、岩級区分で示しているため削除。 ・コア表面の粗さ、割れ目沿いの変色については、補足的なものであるため削除。
146	・変更なし

# H27-B-4

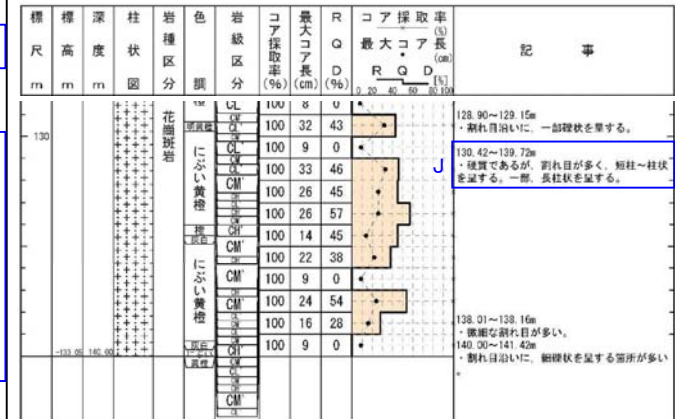
## コア観察カード (H27年8月)

## コア観察カードの仮ワープロ変換

## 申請書用柱状図



記事内容
147 130.02~130.42m 高角度の割れ目が見られ、その割れ目沿いに劣化。一部礫状となる
148 130.84m付近 交差する割れ目に挟まれた区間が局部的に劣化し、礫状となる。 131.54~131.64m コアの半分が劣化し礫状となる 132.14~132.87m 堅硬な柱状コア。
149 132.87m 60°の割れ目にマンガンが厚さ3mmで狭在する
150 133.26m 割れ目間が礫状となり、礫には褐色の細粒物が付着する。
151 134.02~134.50m 強い褐色汚染がコア全体に及ぶ 134.50~134.74m コアはやや青味を及ぼす。風化の影響は少ないが、珪化し、原岩以上に硬い。 134.78m付近、黄鉄鉱が分解過程の白鉄鉱が少量見られその周辺には褐色汚染がせまい範囲に及ぶ。



記事	コア観察カード(H27年8月)⇒申請書用柱状図
147	・一部割れ目沿いに礫状を呈するが、連続性に乏しく、周囲の岩盤に劣化が認められないことから削除。
J	・“コアの硬さ”欄に基づき硬質，“コアの形状”欄に基づき短柱状～柱状、一部、長柱状と記載。
148	・一部で礫状を呈するが、掘削時の機械割れと判断し削除。 ・硬軟や割れ目の発達については、RQD、最大コア長、岩級区分で示しているため削除。
149	・割れ目沿いのマンガンの狭在については、補足的なものであるため削除。
150	・礫状化し、礫に細粒物が付着するが、掘削時の機械割れと判断し削除。
151	・色調、鉱物の晶出については、補足的なものであるため削除。 ・硬軟については、岩級区分に含めて示しているため削除。

# H27-B-4

## コア観察カード (H27年8月)

## コア観察カードの仮ワープロ変換

## 申請書用柱状図

基礎岩コア観察カード 記号・記号付・録録スケッチ等											
標尺 (m)	深度 (m)	層別記号	地質記号	組成分		RQD (%)	最大コア長 (cm)	岩級区分	割れ目		備考
				割れ目径 (mm)	割れ目数 (条)				割れ目径 (mm)	割れ目数 (条)	
135.28	135.60			CL	100	32	43				135.28~135.60m この間の低角度割れ目は2~3条の割れ目が2~4m程度の距離で平行に接している。岩質は硬い
136.00	136.20			CL	100	26	45				136.00~136.20 高角度の割れ目が見られ、低角度の割れ目と交叉し、割れ目がやや卓越する。割れ目にはマンガンに汚染された狭在物が見られるものがある。 136.34mの38°の割れ目に沿って幅緑色味を帯びた変質部(緑泥石化作用)が見られ、その中に小さな輝沸石が散在し光る。 136.61m 局所的(5~15mm幅)に割れ目が密集し、マンガンの汚染が見られる
137.02	138.59			CH	100	14	45				137.02~138.59m 堅硬な柱状コア
138.01	138.16			CL	100	9	0				138.01~138.16m 微細でほぼ平行した割れ目が非常に卓越
138.29				CL	100	24	54				138.29m 巾10mmで平行した割れ目が非常に卓越する
139.90	140.00			CH	100	9	0				139.90m 70°のシャープな剪断性の節理、巾10mmの砂状とマンガンの狭在物が見られる。上盤側には平行な割れ目が3条見られる 検尺 140.00m

記事内容	
135.28~135.60m	この間の低角度割れ目は2~3条の割れ目が2~4m程度の距離で平行に接している。岩質は硬い
136.00~136.20	高角度の割れ目が見られ、低角度の割れ目と交叉し、割れ目がやや卓越する。割れ目にはマンガンに汚染された狭在物が見られるものがある。 136.34mの38°の割れ目に沿って幅緑色味を帯びた変質部(緑泥石化作用)が見られ、その中に小さな輝沸石が散在し光る。 136.61m 局所的(5~15mm幅)に割れ目が密集し、マンガンの汚染が見られる
137.02~138.59m	堅硬な柱状コア
138.01~138.16m	微細でほぼ平行した割れ目が非常に卓越
138.29m	巾10mmで平行した割れ目が非常に卓越する
139.90m	70°のシャープな剪断性の節理、巾10mmの砂状とマンガンの狭在物が見られる。上盤側には平行な割れ目が3条見られる 検尺 140.00m

標尺 (m)	深度 (m)	柱状図	岩種区分	色	岩級区分	コア採取率 (%)	最大コア長 (cm)	R (%)	Q (%)	D (%)	記事
130			花崗斑岩	CL	100	8	0				128.90~129.15m ・割れ目沿いに、一部礫状を呈する。
			にふい黄橙	CH	100	9	0				130.42~139.72m ・硬質であるが、割れ目が多く、短柱~柱状を呈する。一部、長柱状を呈する。
			にふい黄橙	CH	100	33	46				138.01~138.16m ・微細な割れ目が多い。
			にふい黄橙	CH	100	26	45				140.00~141.20m ・割れ目沿いに、細礫状を呈する箇所が多い

記事	コア観察カード(H27年8月)⇒申請書用柱状図
152	・色調、鉱物の晶出、マンガンについては、補足的なものであるため削除。 ・硬軟や割れ目の発達程度については、RQD、最大コア長、岩級区分で示しているため削除。
153	・硬軟や割れ目の発達程度については、RQD、最大コア長、岩級区分で示しているため削除。
154	・割れ目が平行との記載については、補足的なものであるため削除。
155	・割れ目の発達程度については、RQD、最大コア長、岩級区分で示しているため削除。
156	・砂を挟在し、剪断性の節理との記載があるが、周囲の岩盤に劣化が認められないことから削除。 ・マンガンの挟在については、補足的なものであるため削除。

# H27-B-4

## コア観察カード (H27年8月)

## コア観察カードの仮ワープロ変換

## 申請書用柱状図

深尺 (m)	深層 (m)	層名	色	質地	割れ目	細区分		RQD	最大コア長 (cm)	岩級区分	記事
						割れ目	割れ目				
140.00											
140.50											
141.00											
141.50											
142.00											
142.50											
143.00											
143.50											
144.00											

記事内容
157 140.00~140.36m 40~50° のほぼ平行した割れ目が卓越する
158 140.0~141.42 割れ目に沿って幾分劣化が見られ細礫状となる所が多い。
141.00~141.43m 低角度を主体とした割れ目が卓越。一部亀甲状となる
141.68~142.50m 高角度のほぼ垂直の割れ目と、40~50° の割れ目が5~10cm間隔で交叉する。 142.1~142.35mにかけて割れ目の一部には厚さ2~15mmの砂状の狭在物が見られる 142.53m 50° の割れ目に厚さ10mmの細礫と砂が狭在する
143.49~143.65 割れ目が卓越、割れ目に沿って劣化し所々細礫状となる。
143.65m~ 堅硬な柱状コア

標尺	標高	深層	柱状	岩種	色	質地	岩級区分	コア採取率 (%)	最大コア長 (cm)	RQD (%)	コア採取率			記事
											R	Q	D	
130				花崗斑岩			CL	100	8	0				
							CL	100	32	43				128.90~129.15m ・割れ目沿いに、一部礫状を呈する。
							CL	100	9	0				130.42~139.72m ・硬質であるが、割れ目が多く、短柱~柱状を呈する。一部、長柱状を呈する。
							CM	100	33	46				
							CM	100	26	45				
							CM	100	26	57				
							CM	100	14	45				
							CM	100	22	38				
							CM	100	9	0				
							CM	100	24	54				
							CM	100	16	28				128.01~128.16m ・微細な割れ目が多い。
							CM	100	9	0				140.00~141.42m ・割れ目沿いに、細礫状を呈する箇所が多い

記事	コア観察カード(H27年8月)⇒申請書用柱状図
157	・割れ目の発達程度については、RQD、最大コア長、岩級区分で示しているため削除。 ・割れ目の傾斜については、補足的なものであるため削除。
158	・変更なし
159	・余掘り区間のため削除。

**H27-D5-1**

余白

# H27-D5-1

## コア観察カード (H27年8月)

## コア観察カードの仮ワープロ変換

## 申請書用柱状図

標尺 (m)	深度 (m)	イベント・地層境界	スケッチ	マーカー 火山灰物 埋土層 化石	地質名	色調	堆積構造・特徴等
0	0.00				埋土	1	0.00~0.25m 表土、植物根含む。 0.25~1.02m 礫混じり砂(盛土) 0.25~0.42m 径2~4mmの炭質物片を含む 0.25~0.93m 径2~4mmの石英細礫を全体に含む 径6~50mmの花崗斑岩の垂角礫(クサリ礫)を含む。 0.82~0.93m 植物根混入 0.93~1.02m 径2~4mmの炭化物片を含む(0.25~0.92mの層相と同じ)
0.5	0.93				埋土	2	0.82~0.93m 植物根混入 0.93~1.02m 径2~4mmの炭化物片を含む(0.25~0.92mの層相と同じ)
1	1.02				シルト混じり砂	3	1.02~1.11m シルト混じり砂、径60mmの花崗斑岩の垂角礫を含む
1.5	1.11				中粒砂主体	4	1.11~1.30m シルト混じり砂 中粒砂主体、淘汰は良好
2	1.30				砂質シルト	4	1.30~1.41m 砂質シルト 径1~2mm石英粒子散在 上位層、下位層との境界は不規則

記事内容
1 0.00~0.25m 表土、植物根含む。
0.25~1.02m 礫混じり砂(盛土)
0.25~0.42m 径2~4mmの炭質物片を含む
0.25~0.93m 径2~4mmの石英細礫を全体に含む
径6~50mmの花崗斑岩の垂角礫(クサリ礫)を含む。
0.82~0.93m 植物根混入
0.93~1.02m 径2~4mmの炭化物片を含む(0.25~0.92mの層相と同じ)
1.02~1.11m 礫混じり砂、径60mmの花崗斑岩の垂角礫を含む
3 1.11~1.30m シルト混じり砂 中粒砂主体、淘汰は良好
4 1.30~1.41m 砂質シルト 径1~2mm石英粒子散在 上位層、下位層との境界は不規則

標尺 (m)	深度 (m)	柱状	岩種 区分	色調	岩級 区分	コア採取率 (%)	最大コア長 (cm)	R D	Q D	コア採取率 (%)	最大コア長 (cm)	記事
0	0.00		埋土			100				1~2	0.00~1.02m ・埋土である。	
0.5	0.93		埋土			100				2	1.02~1.11m ・礫混じり砂である。	
1	1.02		埋土			100				3	1.11~1.30m ・シルト混じり砂である。	
1.5	1.11		埋土			100				4	1.30~1.41m ・砂質シルトである。	
2	1.41		埋土			100	6	0			1.41~2.40m ・礫混じり砂である。	
2.5	2.40		埋土			100	4	0			2.40~2.60m ・シルト混じり砂である。	
3	2.60		埋土			100	3	0			2.60~2.84m ・砂礫である。	
3.5	2.84		埋土			100	3	0			2.84~48.00m ・花崗斑岩である。	
4	48.00		埋土			100	5	0			4.00~5.50m ・風化が強い、軟質化している。	
5	5.05		埋土			100	15	15			5.05~5.50m	
5.5	5.50		埋土			100	11	11				

記事	コア観察カード(H27年8月)⇒申請書用柱状図
1,2	・堆積物の記載は、埋土、砂礫等の性状を示すこととし、“地質名”欄に対応した層相名を記載。
3	・堆積物の記載は、埋土、砂礫等の性状を示すこととし、“地質名”欄に対応した層相名を記載。
4	・堆積物の記載は、埋土、砂礫等の性状を示すこととし、“地質名”欄に対応した層相名を記載。

# H27-D5-1

## コア観察カード (H27年8月)

## コア観察カードの仮ワープロ変換

## 申請書用柱状図

標尺 (m)	深度 (m)	イベント 地層境界	スケッチ	マーカ 山脈 地質物 土質物 炭化物 石	地質名	色調	堆積構造・特徴等
2.05	2.05					5	1.41~2.40m 礫混じり砂 色2.10mの硬砂層10~14mmの石英礫の 径2~10mmの石英礫 径10~14mmの花崗岩類の礫を含む 基質は中~粗粒 砂 礫形状は垂円礫のものが多い礫率20~25% 1.50~1.54m 径4~6mm炭化物片含む 1.69~1.78m 礫分少なくシルト混じり 2.06m 径15mm 炭化物片含む 2.28m 径1~5mm炭化物片含む
2.40	2.40					6	2.40~2.60m シルト混じり砂 中~粗粒砂 淘汰は不良
2.60	2.60					7	2.60~2.84m 砂礫 径2~5mmの石英粒子 径14~800mmの花崗斑岩の垂角礫を含む 礫率40% 基質は中~粗粒砂 径2~4mm炭化物片散在
2.84	2.84					8	下位の基盤の花崗斑岩とは $\angle 40^\circ$ で接する 花崗斑岩の上面は褐色酸化鉄汚染

記事内容
1.41~2.40m 礫混じり砂 径2~10mmの石英礫 径10~14mmの花崗岩類の礫を含む 基質は中~粗粒砂 礫形状は垂円礫のものが多い礫率20~25% 1.50~1.54m 径4~6mm炭化物片含む 1.69~1.78m 礫分少なくシルト混じり 2.06m 径15mm 炭化物片含む 2.28m 径1~5mm炭化物片含む
2.40~2.60m シルト混じり砂 中~粗粒砂 淘汰は不良
2.60~2.84m 砂礫 径2~5mmの石英粒子 径14~800mmの花崗斑岩の垂角礫を含む 礫率40% 基質は中~粗粒砂 径2~4mm炭化物片散在
下位の基盤の花崗斑岩とは $\angle 40^\circ$ で接する 花崗斑岩の上面は褐色酸化鉄汚染

標尺 (m)	深度 (m)	柱状 (m)	岩種 区分	色調	岩級 区分	コア 採取 率 (%)	最大 コア 長 (cm)	R D	コア採取率 最大コア長 (%)	記事
0.00	1.02		埋土			100				0.00~1.02m 埋土である。
1.02	1.11		埋土			100				1.02~1.11m 埋土である。
1.11	1.30		埋土			100				1.11~1.30m 埋土である。
1.30	1.41		埋土			100				1.30~1.41m 埋土である。
1.41	2.40		埋土			100	6	0		1.41~2.40m 埋土である。
2.40	2.60		埋土			100	4	0		2.40~2.60m 埋土である。
2.60	2.84		埋土			100	3	0		2.60~2.84m 埋土である。
2.84	4.00		埋土			100	5	0		2.84~4.00m 埋土である。
4.00	5.50		埋土			100	15	15		4.00~5.50m 埋土である。
5.05	5.50		埋土			100	11	11		5.05~5.50m 埋土である。

スケッチ: 礫はクサリ ● 半クサリ ○ 硬質 ○ 礫種は黒雲母花崗岩Gr, 花崗斑岩Gp, アブライトAp 等  
境界 明瞭 --- 不明瞭 --- 亀裂は赤線, 角度, 糸線等

記事	コア観察カード(H27年8月)⇒申請書用柱状図
5	・堆積物の記載は、埋土、砂礫等の性状を示すこととし、“地質名”欄に対応した層相名を記載。
6	・堆積物の記載は、埋土、砂礫等の性状を示すこととし、“地質名”欄に対応した層相名を記載。
7	・堆積物の記載は、埋土、砂礫等の性状を示すこととし、“地質名”欄に対応した層相名を記載。
8	・地層境界の傾斜、酸化鉄汚染については、補足的なものであるため削除。



# H27-D5-1

## コア観察カード (H27年8月)

## コア観察カードの仮ワープロ変換

## 申請書用柱状図

深度 (m)	地層名	地層番号	地層記号	地層説明	細区分				地層区分	地層番号	地層記号	地層説明
					石英	長石	珪石	その他				
0												
1												
2												
3												
4												
5												
6												
7												
8												
9												
10												
11												

### 基盤岩コア観察カード

記事・硬軟性状・詳細スケッチ等

記事内容
(着岩)
9 径2~5mmの石英、長石の斑晶を有する花崗斑岩 斑晶の含有率は5~7%
10 3.40~3.90m 割れ目面にフィルム状(1mm程度)のマンガンを挟在する 3.80~4.00m コア肌荒く軟質 指で粒子取れる 4.10~4.15m 割れ目に2~4mmの石英を挟在する
11 4.80~5.50m コア肌荒く軟質 指で粒子取れる

標尺	深度	柱状	岩種	色調	岩級	コア採取率	最大コア長	R	Q	D	コア採取率	最大コア長	記事
m	m	m	図	調	分	(%)	(cm)	(%)	(%)	(%)	(%)	(cm)	
0.00	1.02		凝灰岩	黄褐色	CL	100	6	0			0.00~1.02m	凝灰岩である。	
1.02	1.11		凝灰岩	黄褐色	CL	100	4	0			1.02~1.11m	凝灰岩である。	
1.11	1.30		凝灰岩	黄褐色	CL	100	3	0			1.11~1.30m	凝灰岩である。	
1.30	1.41		凝灰岩	黄褐色	CL	100	3	0			1.30~1.41m	凝灰岩である。	
1.41	2.40		凝灰岩	黄褐色	CL	100	3	0			1.41~2.40m	凝灰岩である。	
2.40	2.60		凝灰岩	黄褐色	CL	100	3	0			2.40~2.60m	凝灰岩である。	
2.60	2.64		凝灰岩	黄褐色	CL	100	5	0			2.60~2.64m	凝灰岩である。	
2.64	48.00		花崗斑岩	灰白	CM	100	20	20			2.64~48.00m	花崗斑岩である。	
4.80	5.50		花崗斑岩	灰白	CM	100	15	15			4.80~5.50m	風化が進み、軟質化している。	
5.05	5.50		花崗斑岩	灰白	CM	100	11	11			5.05~5.50m	割れ目が多く、岩片状を呈する。	
12.35	12.70		花崗斑岩	灰白	CM	100	14	14			12.35~12.70m	風化が進み、軟質化している。	

記事	コア観察カード(H27年8月)⇒申請書用柱状図
9	・“地層名”欄に基づき、花崗斑岩とその深度区間を記載。 ・一般的な岩相であり、石基及び斑晶の種類、粒径等については、特に目立つ区間のみ記載することとしており、特に目立つ区間ではないため削除。
10	・割れ目沿いのマンガン、石英の挟在については、補足的なものであるため削除。 ・硬軟については岩級区分に含めて示しているため削除。
11	・“風化”欄及び“コアの硬さ”欄に基づき、風化が進み、軟質化していると記載。
A	・“コアの形状”欄に基づき、岩片状を呈する区間とその深度区間を記載。

# H27-D5-1

## コア観察カード (H27年8月)

標尺 (m)	深度 (m)	標準 高位置	地層名	色調	細区分				RQD	最大コア長 (cm)	岩級区分	観察区分	記事・観察性状・詳細スケッチ等
					割れ目の 形状	風化 程度	斑晶 の有無	表石 の有無					
5	8.22										12	5.04~5.08m 褐色強風化部 5.08~5.25m 割れ目沿いにマンガン濃集(汚染)顕著 コアは軟質 岩片状を呈する 5.40~5.50m 割れ目沿いにマンガン濃集顕著	
6	6.40										13	5.80~5.95m 割れ目面はフィルム状(1mm程度)のマンガンを挟在する同方向の割れ目(45°~55°)密に発達 径2~5mmの石英、表石の斑晶の含有率は5~7% 6.45~6.55m 割れ目沿いにMnおよび酸化鉄を挟在する(1~4mm) 6.50~7.78m ピンク長石多い	
7	7.80										14	7.35~7.80m 高角度(∠80°以上)の割れ目にMnをフィルム状(1mm程度)に挟在する。 7.80~8.32m 斑晶少なく、含有率は1%以下 構成鉱物は細粒	
8	9.44										15	9.44m 割れ目の挟在物は幅6cmのチョコレート状粘土(半固結)	
9	9.78										16	9.78m 割れ目の挟在物は幅4cmの砂混じり粘土(固結)	

## コア観察カードの仮ワープロ変換

記事内容
12 5.04~5.08m 褐色強風化部 5.08~5.25m 割れ目沿いにマンガン濃集(汚染)顕著 コアは軟質 岩片状を呈する 5.40~5.50m 割れ目沿いにマンガン濃集顕著
13 5.80~5.95m 割れ目面はフィルム状(1mm程度)のマンガンを挟在する同方向の割れ目(45°~55°)密に発達 径2~5mmの石英、表石の斑晶の含有率は5~7% 6.45~6.55m 割れ目沿いにMnおよび酸化鉄を挟在する(1~4mm) 6.50~7.78m ピンク長石多い
14 7.35~7.80m 高角度(∠80°以上)の割れ目にMnをフィルム状(1mm程度)に挟在する。 7.80~8.32m 斑晶少なく、含有率は1%以下 構成鉱物は細粒
15 9.44m 割れ目の挟在物は幅6cmのチョコレート状粘土(半固結)
16 9.78m 割れ目の挟在物は幅4cmの砂混じり粘土(固結)

## 申請書用柱状図

標尺 (m)	深度 (m)	柱状	岩種 区分	色調	岩級 区分	コア採取率 (%)	最大コア長 (cm)	R Q D	コア採取率 (%)	最大コア長 (cm)	記事
10						100	15	15			4.80~5.50m ・風化が進み、軟質化している。 5.05~5.50m ・割れ目が多く、岩片状を呈する。 12.35~12.70m ・風化が進み、軟質化している。
						100	11	11			
						100	14	14			
						100	6	0			
						100	19	19			
						100	12	12			14.30~14.65m ・風化が進み軟質化している。

記事	コア観察カード(H27年8月)⇒申請書用柱状図
12	・色調、マンガンについては、補足的なものであるため削除。 ・風化の程度、硬軟、割れ目の発達の程度については、記事No.11, No.Aで示していることから削除。
13	・割れ目沿いのマンガン、酸化鉄については、補足的なものであるため削除。 ・割れ目の発達の程度については、RQD、最大コア長、岩級区分で示していることから削除。 ・一般的な岩相であり、石基及び斑晶の種類、粒径等については、特に目立つ区間のみ記載することとしており、特に目立つ区間ではないため削除。
14	・一般的な岩相であり、石基及び斑晶の種類、粒径等については、特に目立つ区間のみ記載することとしており、特に目立つ区間ではないため削除。
15	・粘土を挟在するが、連続性に乏しく、周囲の岩盤に劣化が認められないことから削除。
16	・砂混じり粘土を挟在するが、周囲の岩盤に劣化が認められないことから削除。

# H27-D5-1

## コア観察カード (H27年8月)

## コア観察カードの仮ワープロ変換

## 申請書用柱状図

標尺 (m)	深度 (m)	層名	岩種	色	柱状	細区分		R	D	備考
						最大コア長 (cm)	採取率 (%)			
7.0	10.10									
	10.13									17
	10.40									18
	10.48									18
	10.59									
11										
	11.20									19
	11.70									20
12										
	12.35									21
	12.66									21
13										

記事内容
17 10.13m 割れ目にフィルム状(1mm)のMnを挟在する 割れ目周囲のコア表面、褐色汚染顕著
18 10.40~10.60m 構成鉱物は周囲のものより粗粒、コア肌荒れ状 この上下コア表面 褐色汚染顕著
18 10.48~10.59m 割れ目にフィルム状(1~2mm)のMnを挟在する
19 11.20~11.30m 構成鉱物は粗粒
20 11.70~11.95m 割れ目沿い及びコア表面に白色鉱物が晶出
21 12.35~12.70m コアは肌荒れ状。指で鉱物粒子が崩せる。
21 12.66m 鉱物脈(石英)幅6mmあり 変質し脱色している粒子含む

標尺	深度	柱状	岩種	色	岩級	コア採取率	最大コア長	R	D	コア採取率	最大コア長	記事
m	m	m	固	調	分	(%)	(cm)	(%)	(%)	(%)	(cm)	(%)
10						100	15	15				4.80~5.50m ・風化が進み、軟質化している。
						100	11	11				5.05~5.50m ・割れ目が多く、岩片状を呈する。
						100	14	14				12.35~12.70m ・風化が進み、軟質化している。
					変換	100	6	0				
					灰白	100	19	19				
					黄	100	12	12				14.30~14.65m ・風化が進み軟質化している。
					黄	100	6	0				

記事	コア観察カード(H27年8月)⇒申請書用柱状図
17	・マンガン、褐色汚染、構成鉱物の粒度については、補足的なものであるため削除。
18	・マンガンについては、補足的なものであるため削除。
19	・構成鉱物の粒度については、補足的なものであるため削除。
20	・鉱物の晶出については、補足的なものであるため削除。
21	・“風化”欄及び“コアの硬さ”欄に基づき、風化が進み、軟質化していると記載。 ・鉱物脈については、補足的なものであるため削除。

# H27-D5-1

## コア観察カード (H27年8月)

## コア観察カードの仮ワープロ変換

## 申請書用柱状図

標尺 (m)	深度 (m)	地層名	地質記号	細区分				最大コア長 (cm)	硬軟度区分	記事内容
				割れ目性状	風化	変質	その他			
13.00	13.00								22 13.00~15.00m ピンク長石を多く含む。コアはやゝ肌荒れ状。全体に中硬質で指で鉱物粒子は崩せない。	
13.05	13.05								23 13.05~13.30m 高角度厚割れ目(70°)沿いにMn汚染酸化鉄汚染が見られる	
14.30	14.30								24 14.30~14.65m 酸化鉄汚染目立つ、割れ目沿いにコアはやゝ軟質 14.49m 鉱物脈(石英)幅4.8mm 14.59m 鉱物脈(石英)幅2.4mm	
14.80	14.80								25 14.80~14.95m 中角度の割れ目(40~50°)多く、変質(脱色)した石英脈幅1~2mmを挟在する。	

記事内容
22 13.00~15.00m ピンク長石を多く含む。コアはやゝ肌荒れ状。全体に中硬質で指で鉱物粒子は崩せない。
23 13.05~13.30m 高角度厚割れ目(70°)沿いにMn汚染酸化鉄汚染が見られる
24 14.30~14.65m 酸化鉄汚染目立つ、割れ目沿いにコアはやゝ軟質 14.49m 鉱物脈(石英)幅4.8mm 14.59m 鉱物脈(石英)幅2.4mm
25 14.80~14.95m 中角度の割れ目(40~50°)多く、変質(脱色)した石英脈幅1~2mmを挟在する。

標尺	深度	柱状	岩種	色調	岩級区分	コア採取率(%)	最大コア長(cm)	R	Q	D	コア採取率(%)	最大コア長(cm)	記事
					CM'	100	12	12			24	14.30~14.65m ・風化が進み軟質化している。	
				灰白	CM'	100	6	0				17.47~17.91m ・割れ目によって、灰白色シルトを挟む。	
					CM'	100	7	0					
					CM'	100	3	0					
				淡黄	CM'	100	6	0				17.70~18.00m ・風化が進み、軟質化している。	
					CM'	100	6	0				19.15~19.55m ・風化が進み軟質化している。	
				花崗	CM'	100	14	34				20.80~22.35m	

記事	コア観察カード(H27年8月)⇒申請書用柱状図
22	<ul style="list-style-type: none"> <li>一般的な岩相であり、石基及び斑晶の種類、粒径等については、特に目立つ区間のみ記載することとしており、特に目立つ区間ではないため削除。</li> <li>コア表面の粗さについては、補足的なものであるため削除。</li> <li>硬軟については、岩級区分に含めて示しているため削除。</li> </ul>
23	<ul style="list-style-type: none"> <li>マンガン、酸化鉄汚染については、補足的なものであるため削除。</li> </ul>
24	<ul style="list-style-type: none"> <li>“風化”欄及び“コアの硬さ”欄に基づき、風化が進み、軟質化していると記載。</li> <li>酸化鉄汚染、鉱物脈については、補足的なものであるため削除。</li> </ul>
25	<ul style="list-style-type: none"> <li>割れ目の発達程度については、周囲の割れ目と差異が見られないため削除。</li> <li>鉱物脈については、補足的なものであるため削除。</li> </ul>

# H27-D5-1

## コア観察カード (H27年8月)

19.55 ~ 20.00 Y.2 風化・多量・記載なし		相区分									
深さ (m)	高さ (m)	色	割れ目形状	割れ目深さ	割れ目長さ	割れ目幅	割れ目間隔	割れ目方向	割れ目密度	割れ目形状	割れ目深さ
15.00	15.22										
15.27	15.29										
15.78	15.80										
16.05	16.24										
16.75	17.20										
16.95	17.00										
17.40	18.00										
17.47	17.91										

### 基盤岩コア観察カード 記事・割れ目形状・詳細スケッチ等

26 15.00~16.00m ピンク長石を多く含む  
15.27~15.29m 割れ目(∠30°前後)にMn(2mm以下)を挟在  
割れ目周囲は酸化鉄汚染が見られる  
この部分コア肌荒れ状(幅10cm程度)

27

28 15.78m 割れ目(∠25°)にMn濃集部(最大10mm)を挟在、  
周囲は酸化鉄汚染見られる。この部分、コアは肌荒れ状(幅15cm程度)  
径2~4mmの石英、長石の斑晶。斑晶の含有率は5%  
ピンク長石を多く含む  
16.05~16.24m コア肌荒れ状、風化程度も上位層下位層より大きい  
16.75~17.20m 割れ目にフィルム状(1mm)のMnを挟む割れ目が多い

29

30 16.95m 7.5Y7/3 淡黄色シルト(2mm)割れ目面に挟在  
熱水起源の晶出物  
17.40~18.00m コア肌荒れ状、下方程肌荒れ程度大きい

31 17.47~17.91m 10Y8/2灰白色シルト(1~2mm)割れ目面に挟在  
平滑な割れ目にも荒い割れ目にも挟在  
熱水起因の晶出物

## コア観察カードの仮ワープロ変換

記事内容
26 15.00~16.00m ピンク長石を多く含む 15.27~15.29m 割れ目(∠30°前後)にMn(2mm以下)を挟在 割れ目周囲は酸化鉄汚染が見られる この部分コア肌荒れ状(幅10cm程度)
27
28 15.78m 割れ目(∠25°)にMn濃集部(最大10mm)を挟在、 周囲は酸化鉄汚染見られる。この部分、コアは肌荒れ状(幅15cm程度) 径2~4mmの石英、長石の斑晶。斑晶の含有率は5% ピンク長石を多く含む 16.05~16.24m コア肌荒れ状、風化程度も上位層下位層より大きい 16.75~17.20m 割れ目にフィルム状(1mm)のMnを挟む割れ目が多い
29
30 16.95m 7.5Y7/3 淡黄色シルト(2mm)割れ目面に挟在 熱水起源の晶出物 17.40~18.00m コア肌荒れ状、下方程肌荒れ程度大きい
31 17.47~17.91m 10Y8/2灰白色シルト(1~2mm)割れ目面に挟在 平滑な割れ目にも荒い割れ目にも挟在 熱水起因の晶出物

## 申請書用柱状図

標尺	標高	深度	柱状	岩種	色	岩級	コア採取率	最大コア長	R	Q	D	最大コア長	R	Q	D	記事
m	m	m	円	分	調	分	(%)	(cm)	(%)	(%)	(%)	(cm)	(%)	(%)	(%)	(%)
					灰白	CM'	100	12	12							14.20~14.65m ・風化が強い数質化している。
					灰白	CM'	100	6	0	*						17.47~17.91m ・割れ目によって、灰白色シルトを挟む。
					淡黄	CM'	100	7	0	*						17.70~18.00m ・風化が強い、軟質化している。
					淡黄	CM'	100	3	0	*						19.15~19.55m ・風化が強い軟質化している。
					花崗	CM'	100	6	0	*						20.80~22.35m
					花崗	CM'	100	14	34	*						

記事	コア観察カード(H27年8月)⇒申請書用柱状図
26	・一般的な岩相であり、石基及び斑晶の種類、粒径等については、特に目立つ区間のみ記載することとしており、特に目立つ区間ではないため削除。
27	・マンガン、酸化鉄汚染、コアの粗さについては、補足的なものであるため削除。
28	・マンガン、酸化鉄汚染、コア表面の粗さについては、補足的なものであるため削除。 ・一般的な岩相であり、石基及び斑晶の種類、粒径等については、特に目立つ区間のみ記載することとしており、特に目立つ区間ではないため削除。
29	・シルトを挟在するが、連続性に乏しく、周囲の岩盤に劣化が認められないことから削除。
30	・コア表面の粗さについては、補足的なものであるため削除。
31	・シルトの幅については、ばらつきがあることから削除。 ・割れ目の平滑さ、熱水起源の晶出物との記載については補足的なものであるため削除。

# H27-D5-1

## コア観察カード (H27年8月)

19.55 ~ 20.00 Y.2 風化、変質、記載なし		19.55 ~ 20.00 観察日										
深尺 (m)	深度 (m)	風化 程度	地質 分類	色 調	細区分		割れ目 状態	風化 程度	変質	OPN	硬さ 区分	記事 番号
					割れ目 状態	風化 程度						
19.55	19.55		GP									
19.70	19.70		GP									32
19.85	19.85		GP									33
19.95	19.95		GP									34
20.00	20.00		GP									35

## コア観察カードの仮ワープロ変換

記事内容
19.55~20.00 r2 風化、変質の記載なし
32 17.70~18.00 コア肌荒れ状、コアはやや軟質
33 コアは肌荒れ状 18.16~18.25m 割れ目面にフィルム状(1mm)の鉱物脈(石英)を挟む 石英は白色(脱色)変質
34 コアは肌荒れ状 19.15~19.55m 風化程度、上位、下位のものより大きい コアの黄色度、強い
35 19.33~19.46m 岩組織、乱れている。 19.17~19.95m 変質した鉱物脈(石英)を挟む。 割れ目の周辺にMn汚染がみられる。

## 申請書用柱状図

標尺 m	標高 m	深度 m	柱状 図	岩種 区分	色 調	岩 級 区 分	コア 採取 率 (%)	最大 コア 長 (cm)	R D	Q D	コア採取率 (%)			記事
											R	Q	D	
				花崗斑岩	灰白	CM'	100	12	12					14.30~14.65m ・風化が進み軟質化している。 17.47~17.91m ・割れ目に沿って、灰白色シルトを挟む。
					淡黄	CM'	100	6	0					32 17.70~18.00m ・風化が進み、軟質化している。
					灰白	CH'	100	6	0					34 19.15~19.55m ・風化が進み軟質化している。
					灰白	CH'	100	14	34					20.80~22.35m ・硬質で割れ目が少なく、柱状~長柱状を呈する。

記事	コア観察カード(H27年8月)⇒申請書用柱状図
32	・“風化”欄及び“コアの硬さ”欄に基づき風化が進み、軟質化していると記載。 ・コアの粗さについては、補足的なものであるため削除。
33	・鉱物脈、コアの粗さについては、補足的なものであるため削除。
34	・コアは肌荒れ状との記載については、補足的なものであるため削除。 ・表現の見直し(コアの黄色度強い⇒風化が進み、軟質化している)
35	・岩組織乱れているとの記載については、岩盤に劣化に関する補足的なものであるため削除。 ・鉱物脈、マンガンについては、補足的なものであるため削除。

# H27-D5-1

## コア観察カード (H27年8月)

22.9.21~23.03.11.4.23  
風化・変質・記載

深さ (m)	コア長 (m)	RQD (%)	最大コア長 (cm)	岩種区分	色	記事・観察状況・詳細スケッチ等	
						記事	スケッチ
20.00	30.00			花崗斑岩	灰白	36	20.10~21.00m 高角度(70°以上)の割れ目は、挟在物を有するものも含めて開口していない。コアは見掛け長柱状を呈するが開口していない割れ目があるためRQDは低下している。
20.80	22.35			花崗斑岩	灰白	37	20.80~22.35m 硬質である。
21.10	21.60			花崗斑岩	灰白	38	21.10~21.60m 高角度(70°以上)の割れ目は開口していない。高角度割れ目の密集部では、割れ目沿いに砂粒化している。

## コア観察カードの仮ワープロ変換

記事内容
36 コアは硬質 風化程度 上位の層より弱い。 20.10~21.00m 高角度(70°以上)の割れ目は、挟在物を有するものも含めて開口していない。 コアは見掛け長柱状を呈するが開口していない割れ目があるためRQDは低下している。
37 20.80~22.35m 硬質である。
38 21.10~21.60m 高角度(70°以上)の割れ目は開口していない。 高角度割れ目の密集部では、割れ目沿いに砂粒化している。

## 申請書用柱状図

標尺	深度	柱状	岩種区分	色	岩級区分	コア採取率 (%)	最大コア長 (cm)	R	Q	D	コア採取率 (%)			記事
											R	Q	D	
m	m	+	花崗斑岩	灰白	CH'	100	6	0	*	100	14	34	37	19.15~19.55m
														20.80~22.35m
														22.91~23.23m
														24.05~25.00m
														25.17~25.4m
														20.00~20.80m
														20.80~21.10m
														21.10~21.60m
														21.60~22.35m
														22.35~23.00m

19.15~19.55m  
 ・風化が進み軟質化している。  
 20.80~22.35m  
 ・硬質で割れ目が少なく、柱状~長柱状を呈する。  
 22.91~23.23m  
 ・硬質である。  
 24.05~25.00m  
 ・灰オリーブ色の粘土質~淡黄色の粘土質の層状を呈する。  
 25.17~25.4m  
 ・灰オリーブ色の粘土質、厚さ約10mm  
 ・走向・傾斜は約35° E74° である。  
 ・上盤境界の傾斜は26°、下盤境界の傾斜は35°である。  
 24.05~25.00m  
 ・縦方向の割れ目が連続する。  
 25.17~25.4m

記事	コア観察カード(H27年8月)⇒申請書用柱状図
36	<ul style="list-style-type: none"> <li>・硬軟、割れ目の発達程度、風化については、RQD、最大コア長、岩級区分で示しているため削除。</li> <li>・割れ目の開口状況については、補足的なものであるため削除。</li> </ul>
37	<ul style="list-style-type: none"> <li>・“コアの形状”欄に基づき、柱状~長柱状と記載。</li> </ul>
38	<ul style="list-style-type: none"> <li>・割れ目の傾斜、割れ目の開口状況については、補足的なものであるため削除。</li> <li>・一部の割れ目沿いで砂状化するが、周囲の岩盤に劣化が認められないことから削除。</li> </ul>

# H27-D5-1

## コア観察カード (H27年8月)

22.92~23.23 r4と3 風化、変質の記載ナシ									
基盤岩コア観察カード									
記事・破砕性状・詳細スケッチ等									
層区分	割れ目性状	割れ目性状	割れ目性状	割れ目性状	割れ目性状	割れ目性状	割れ目性状	割れ目性状	割れ目性状
割れ目性状	割れ目性状	割れ目性状	割れ目性状	割れ目性状	割れ目性状	割れ目性状	割れ目性状	割れ目性状	割れ目性状
22									
23									
24									

## コア観察カードの仮ワープロ変換

記事内容
22.91~23.23 r4と3 風化、変質の記載ナシ
39 ●22.91~23.23m 破砕帯 主せん断面22.91m 22.91~22.92m:Hc-1 上端は28°で直線的、下端は一部波打つが概ね34°で連続厚さ2~10mmの軟質粘土。石英粒、岩片はほとんど含まない(5%以下) 上盤側には主せん断面と20°程度で交差する直線的な割れ目(Si)が分布 色調は灰オリーブ(5Y6/2)
40 22.92~23.23m:Hj 上端34°、下端35°でほぼ直線的に連続、径5~20mmの岩片(一部粘土化)と岩片間の粘土からなる。粘土混り岩片状を呈する。厚さ310mm(コア長)下端との境界に厚さ1~3mmの灰白色(5Y8/2)の軟弱粘土を挟む。 上端側の22.97mは、主せん断面と平行~20°で斜交する直線的な割れ目(Sj:2次せん断面)が3本分布する。色調は淡黄(5Y8/2)
42 23.83m ∠42°の割れ目(Sj)が交差する∠78°の割れ目を切っている(変位量3mm、右ズレ)
24.20~24.30m ∠60°程度の同方向の密着した割れ目が発達
43 24.65~25.00m 縦方向(∠70°以上)の割れ目により、半割れ状を呈する。 割れ方向には厚さ1mm程度のMn、砂粒子を挟む。

## 申請書用柱状図



記事	コア観察カード(H27年8月)⇒申請書用柱状図
39~41	<ul style="list-style-type: none"> <li>薄片観察の結果で得られた最新活動面の変位センスを記載。</li> <li>表現の見直し(粘土混り岩片状→粘土混じり礫状)</li> <li>粘土の累計幅については、最大値を記載。</li> <li>ポアホールテレビの解析結果による最新活動面の走向・傾斜を記載。</li> <li>破砕部の見かけの傾斜については、補足的なものであるため、端部で取得したものを除き削除。</li> <li>主せん断面との記載については、コア観察による最新活動面を示したものであり、申請書では記載しないこととしているため削除。</li> <li>粒径、粒子の種類、含有率については、補足的なものであるため削除。</li> <li>破砕区分Hc-1及びHc-2からなる区間の累計幅を記載することとしているため、Hj区間の幅については削除。</li> <li>境界の直線性、硬軟については、申請書では記載しないこととしているため削除。</li> </ul>
42	<ul style="list-style-type: none"> <li>割れ目を切っているとの記載については、周囲の岩盤に劣化が認められないことから削除。</li> <li>割れ目の発達程度については、RQD、最大コア長、岩級区分で示していることから削除。</li> <li>割れ目の傾斜、割れ目の密着状態については、補足的なものであるため削除。</li> </ul>
43	<ul style="list-style-type: none"> <li>割れ目の傾斜、マンガンについては、補足的なものであるため削除。</li> <li>割れ目沿いの砂粒子の挟在については、周囲の岩盤に劣化が認められないことから削除。</li> </ul>



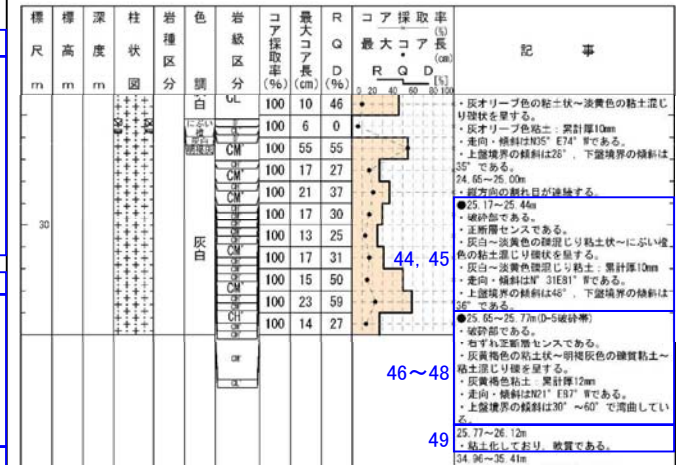
コア観察カード  
(H27年8月)

層区分		基盤岩コア観察カード	
記事	層区分	記事	層区分
44	25.17~25.44m	44	25.17~25.44m
45	25.17~25.44m	45	25.17~25.44m
46	25.65~25.77m	46	25.65~25.77m
47	25.65~25.77m	47	25.65~25.77m
48	25.65~25.77m	48	25.65~25.77m
49	25.77~26.12m	49	25.77~26.12m

コア観察カードの仮ワープロ変換

記事内容
25.17~25.44 r3 25.65~25.77 r3 風化、変質の記載なし
44 ●25.17~25.44m 破碎帯 主せん断面25.17m 25.17~25.18m:Hc-2 上端は48°で直線的、下端は25~48°で波打って連続。厚さ5~15mmの軟質粘土、径1~2mmの石英粒と径2~3mmのGPの角礫片を10%程度含む。色調は灰白(2.5Y8/2)~淡黄(2.5Y8/3)
45 25.18~25.44m:Hj 上端25~48°、下端36°とも波打って連続、主せん断面に対し60~90°に斜交~直交する割れ目が多く岩片は径5~10mmに細片化。岩片間の一部は粘土化し幅1mm以下の白色~淡色粘土が網状に分布。全体に粘土混じり岩片状を呈する。厚さは230mm(コア長280mm)色調はにぶい橙(7.5YR7/9)
46 ●25.65~25.77m 破碎帯 主せん断面25.76m 25.65~25.74m:Hj 上端は30~60°で湾曲し一部不明瞭。下端は28°で波打って連続 径3~10mmの岩片と岩片間の幅1~2mmの軟質灰色粘土脈からなる。粘土混じり岩片状を呈する。厚さ80mm。色調は明褐灰(7.5YR7/2)
47 25.74~25.76m:Hb 上端28°で波打ち下端40°で直線的に連続 径3~10mmのGP岩片30%程度含む。縮った礫質粘土、幅20mm。色調は明褐灰(7.5YR7/2)
48 25.76~25.77m:Hc-1 上端は40°で直線的。下端は波打って連続、軟質粘土で径1mm程度の石英粒を10%程度含むが径2mm以上の石英粒や岩片は含まない。厚さは10~12mm。色調は灰黄褐(10YR6/2)
49 25.77~26.12m 粘土化著しく軟質

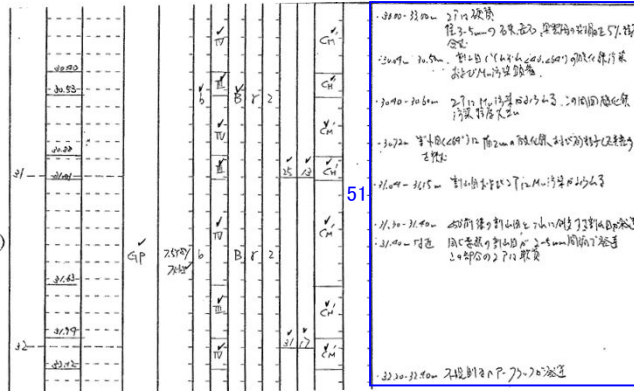
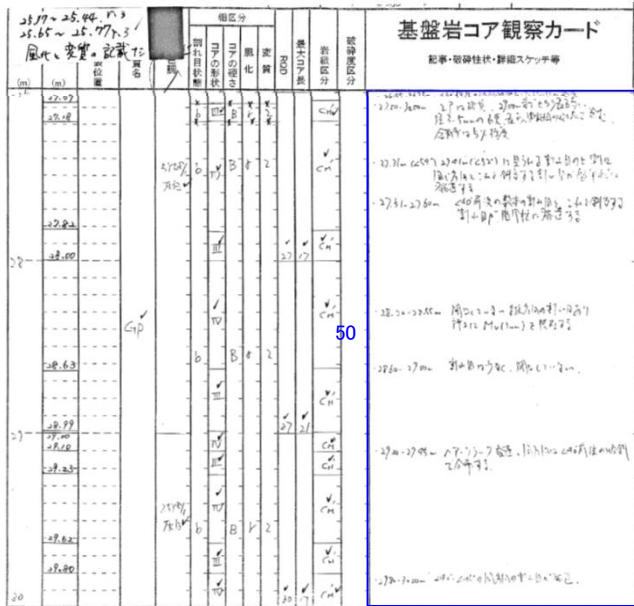
申請書用柱状図



記事	コア観察カード(H27年8月)⇒申請書用柱状図
44, 45	<ul style="list-style-type: none"> <li>薄片観察の結果で得られた最新活動面の変位センスを記載。</li> <li>表現の見直し(粘土混じり岩片状→粘土混じり礫状)</li> <li>径1~2mmの石英粒と径2~3mmのGpの角礫片を10%程度含むとの記載に基づき、礫混じり粘土状と記載。</li> <li>粘土の累計幅については、膨縮が大きいことから、平均値を記載。</li> <li>ポアホールテレビの解析結果による最新活動面の走向・傾斜を記載。</li> <li>破碎部の見かけの傾斜については、補足的なものであるため、端部で取得したものを除き削除。</li> <li>主せん断面との記載については、コア観察による最新活動面を示したものであり、申請書では記載しないこととしているため削除。</li> <li>粒径、粒子の種類、含有率については、補足的なものであるため削除。</li> <li>破碎度区分Hc-1及びHc-2からなる区間の累計幅を記載することとしているため、Hj区間の幅については削除。</li> <li>境界の直線性、硬軟については、申請書では記載しないこととしているため削除。</li> </ul>
46~48	<ul style="list-style-type: none"> <li>破碎帯名を記載。</li> <li>薄片観察の結果で得られた最新活動面の変位センスを記載。</li> <li>表現の見直し(粘土混じり岩片状→粘土混じり礫状)</li> <li>粘土混じり礫状→粘土混じり礫※1</li> <li>粘土の累計幅については、最大値を記載。</li> <li>ポアホールテレビの解析結果による最新活動面の走向・傾斜を記載。</li> <li>破碎部の見かけの傾斜については、補足的なものであるため、端部で取得したものを除き削除。</li> <li>主せん断面との記載については、コア観察による最新活動面を示したものであり、申請書では記載しないこととしているため削除。</li> <li>粒径、粒子の種類、含有率については、補足的なものであるため削除。</li> <li>破碎度区分Hc-1及びHc-2からなる区間の累計幅を記載することとしているため、HbやHj区間の幅については削除。</li> <li>境界の直線性、硬軟については、申請書では記載しないこととしているため削除。</li> </ul>
49	<ul style="list-style-type: none"> <li>変更なし</li> </ul>

# H27-D5-1

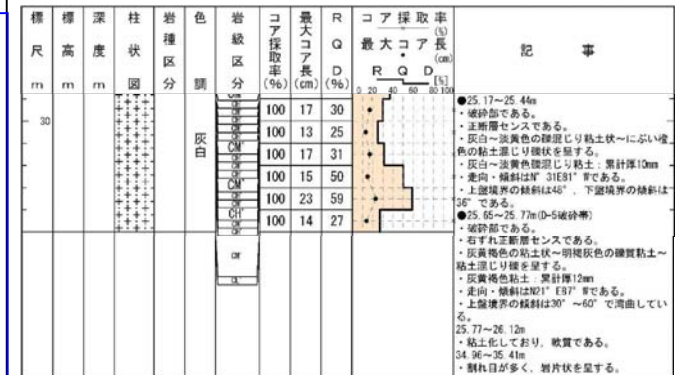
## コア観察カード (H27年8月)



## コア観察カードの仮ワープロ変換

記事内容
<p>26.45-26.75m <math>\angle 60^\circ</math> 程度の同方向の密着した割れ目が発達 27.10-30.00m コアは硬質。29.00mまでピンク長石多い。 径3~5mmの石英、長石、黒雲母の斑晶を含む。 含有率は5%程度。 27.31mm(<math>\angle 54^\circ</math>) 27.41mm(<math>\angle 52^\circ</math>)に見られる割れ目の上側に同じ方向とこれと斜交する割れ目が亀甲に発達する。 27.51-27.60m <math>\angle 40^\circ</math> 前後の数本の割れ目と、これと斜交する割れ目が亀甲状に発達する。</p> <p>28.20-28.55m 開口していない縦方向の割れ目あり 所々にMn(1mm)を挟在する</p> <p>28.60-29.00m 割れ目は少なく、開口していない。</p> <p>29.00-29.45m ヘアークラック発達、同方向は<math>\angle 40^\circ</math> 前後の傾斜で分布する。</p> <p>29.80-30.00m <math>\angle 40^\circ</math>、<math>\angle 45^\circ</math> の同方向の割れ目が発達。</p>
<p>30.00-33.00m コアは硬質 径3-5mmの石英、長石、黒雲母の斑晶を5%程度含む。 30.04m 30.50m 割れ目(それぞれ<math>\angle 40^\circ</math>、<math>\angle 60^\circ</math>)の酸化鉄汚染およびMn汚染顕著。</p> <p>30.40-30.60m コアにMn汚染がみられる。この周囲酸化鉄汚染程度大きい。</p> <p>30.72m 割れ目(<math>\angle 64^\circ</math>)に幅2mmの酸化鉄および砂粒子(石英粒多い)を挟む。</p> <p>31.04-31.15m 割れ目およびコアにMn汚染がみられる。</p> <p>31.30-31.40m <math>\angle 50^\circ</math> 前後の割れ目とこれに斜交する割れ目が発達 31.40m付近 同じ系統の割れ目が2~5mm間隔で発達 この部分のコアは軟質</p> <p>32.20-32.40m 不規則なヘアークラックが発達</p>

## 申請書用柱状図



記事	コア観察カード(H27年8月)⇒申請書用柱状図
50, 51	<ul style="list-style-type: none"> <li>・硬軟や割れ目の発達の程度については、RQD, 最大コア長, 岩級区分で示していることから削除。</li> <li>・一般的な岩相であり、石基及び斑晶の種類、粒径等については、特に目立つ区間のみ記載することとしており、特に目立つ区間ではないため削除。</li> <li>・マンガン、割れ目の開口状況、酸化鉄汚染については、補足的なものであるため削除。</li> <li>・一部の割れ目に砂を挟在するが、周囲の岩盤に劣化が認められないことから削除。</li> </ul>

# H27-D5-1

## コア観察カード (H27年8月)

## コア観察カードの仮ワープロ変換

## 申請書用柱状図

深度 (m)	層名	層番号	地質	割れ目		RQD	最大コア長	岩級区分	色	岩種区分	記事	
				傾斜	幅						52	53
32.39											32.39、32.53、32.92、32.94m 割れ目に石英粒子および10Y8/2 灰白色シルトを挟む。幅1~2mm	
32.95											32.95m付近 同じ系統の割れ目が4~6mm間隔で発達。この部分のコアは軟質	
33.20											33.20~33.30m 70°前後の密着した不連続な割れ目が少数発達。	
33.85											33.85m 62°の割れ目に幅1~2mm、砂粒子を挟在割れ目周囲は酸化鉄褐色汚染される。	
34.68											34.68~34.82m 40°、45°の同系統の割れ目が発達割れ目面はいずれもMn銹染され黒色化	
34.96											34.96m、34.98m 割れ目沿いに幅2mmの黒色粘土(Mn)を挟在。	

記事内容
32.39、32.53、32.92、32.94m 割れ目に石英粒子および10Y8/2 灰白色シルトを挟む。幅1~2mm
32.95m付近 同じ系統の割れ目が4~6mm間隔で発達。この部分のコアは軟質
33.20~33.30m 70°前後の密着した不連続な割れ目が少数発達。
33.85m 62°の割れ目に幅1~2mm、砂粒子を挟在割れ目周囲は酸化鉄褐色汚染される。
34.68~34.82m 40°、45°の同系統の割れ目が発達割れ目面はいずれもMn銹染され黒色化
34.96m、34.98m 割れ目沿いに幅2mmの黒色粘土(Mn)を挟在。



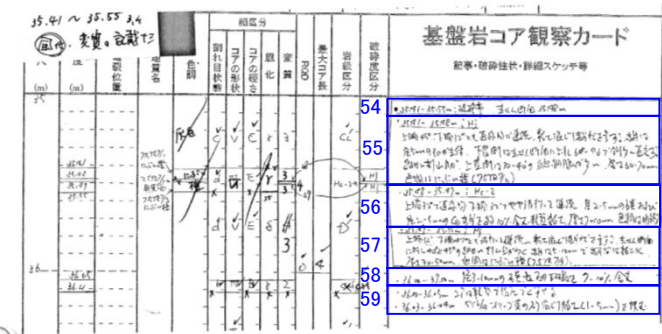
記事	コア観察カード(H27年8月)⇒申請書用柱状図
52	・シルトを挟在するが、連続性に乏しく、周囲の岩盤に劣化が認められないことから削除。
53	・硬軟や割れ目の発達の程度については、RQD、最大コア長、岩級区分で示していることから削除。 ・割れ目の傾斜、割れ目の密着状態、マンガン、褐色汚染については、補足的なものであるため削除。 ・一部の割れ目に砂や粘土を挟在するが、周囲の岩盤に劣化が認められないことから削除。
B	・“コアの形状”欄に基づき、岩片状と記載。

# H27-D5-1

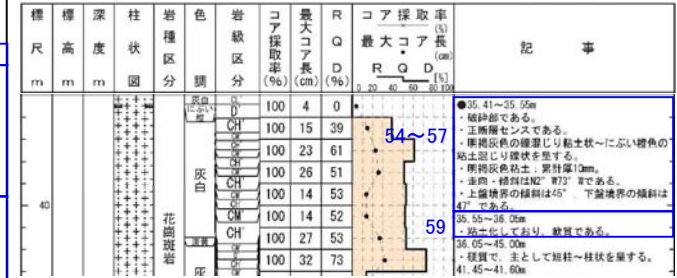
## コア観察カード (H27年8月)

## コア観察カードの仮ワープロ変換

## 申請書用柱状図



記事内容	
35.41~35.55	3, 4 風化, 変質の記載ナシ
54	●35.41-35.55m: 破碎帯 主せん断面35.48m 35.41-35.48m; Hj 上端45° 下端32° とも直線間に連続、粘土混じり岩片状を呈する。岩片は径5mmのものが主体。下盤側は主せん断面に対し60°~90°で斜交~直交する
55	細かい割れ目が上盤側は30~40°の白色細脈が多い。厚さ60~70mm 色調はにぶい橙(7.5YR7/3)。
56	35.48-35.49m; Hc-2 上端32°で直線の下端32°でやや波打って連続。径2~5mmの石英および径2~5mmのGp岩片を約10%含む軟質粘土。厚さ7~0mm色調は明褐灰(7.5YR7/1)。
57	35.49-35.55m; Hj 上端32° 下端47° とも波打って連続。粘土混じり岩片状を呈する。主せん断面に対し40°と45°の細かい割れ目が多く岩片は5~10mmで岩片間は粘土化厚さ30~50mm。色調はにぶい橙(7.5YR7/3)
58	36.00-39.00m 径3~10mmの石英、長石の斑晶を7~10%含む
59	36.00-36.05m コアは軟質で指圧でくずせる。 36.03-36.04m 5Y6/4オリーブ黄の砂混じり粘土(1~5mm)を挟む



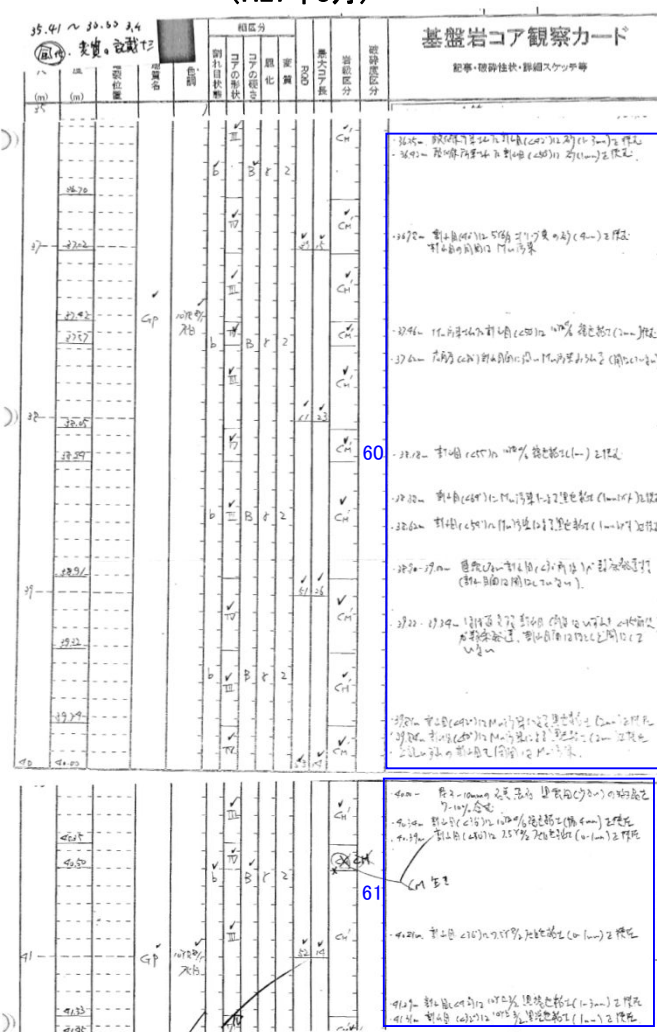
記事	コア観察カード(H27年8月)⇒申請書用柱状図
54~57	<ul style="list-style-type: none"> <li>薄片観察の結果で得られた最新活動面の変位センスを記載。</li> <li>径2~5mmの石英および径2~5mmのGp岩片を約10%含むとの記載に基づき、礫混じり粘土状と記載。</li> <li>表現の見直し(粘土混じり岩片状→粘土混じり礫状)</li> <li>粘土の累計幅については、最大値を記載。</li> <li>ポアホールテレビの解析結果による最新活動面の走向・傾斜を記載。</li> <li>破碎部の見かけの傾斜については、補足的なものであるため、端部で取得したものを除き削除。</li> <li>主せん断面との記載については、コア観察による最新活動面を示したものであり、申請書では記載しないこととしているため削除。</li> <li>粒径、粒子の種類、含有率については、補足的なものであるため削除。</li> <li>破碎度区分Hc-1及びHc-2からなる区間の累計幅を記載することとしているため、Hj区間の幅については削除。</li> <li>境界の直線性、硬軟については、申請書では記載しないこととしているため削除。</li> </ul>
58	一般的な岩相であり、石基及び斑晶の種類、粒径等については、特に目立つ区間のみ記載することとしており、特に目立つ区間ではないため削除。
59	<ul style="list-style-type: none"> <li>“コアの硬さ”欄に基づき、35.55~36.05m、粘土化しており、軟質であると記載。</li> <li>粘土の幅については、ばらつきがあるため削除。</li> </ul>

# H27-D5-1

## コア観察カード (H27年8月)

## コア観察カードの仮ワープロ変換

## 申請書用柱状図



記事内容
36.35m 酸化鉄汚染された割れ目(∠42°)に砂(1~3mm)を挟む。 36.42m 酸化鉄汚染された割れ目(∠50°)に砂(1mm)を挟む。
36.78m 割れ目(40°)に5Y6/3オリーブ黄の砂(4mm)を挟む 割れ目の周囲はMn汚染
37.46m Mn汚染された割れ目(∠50°)に10YR4/6褐色粘土(2mm)挟む 37.62m 高角度(∠80°)割れ目間に沿いMn汚染みられる。(開口していない)
38.18m 割れ目(∠55°)に10YR9/6褐色粘土(1mm)を挟む
38.38m 割れ目(∠64°)にMn汚染による黒色粘土(1mm以下)を挟む 38.62m 割れ目(∠59°)にMn汚染による黒色粘土(1mm以下)を挟む
38.90-39.00m 連続しない割れ目(∠30°前後)が数条発達する。 (割れ目面は開口していない) 39.22-39.34m ほぼ直交する割れ目(角度はいずれも∠45°前後)が数条発達、 割れ目面はほとんど開口していない。
39.81m 割れ目(∠42°)にMn汚染による黒色粘土(2mm)を挟在 39.84m 割れ目(∠50°)にMn汚染による黒色粘土(2mm)を挟在 上記いずれの割れ目も周囲はMn汚染
40.00- 径3~10mmの石英、長石、黒雲母(少ない)の斑晶を7~10%含む 40.34m 割れ目(∠36°)に10YR4/6褐色粘土(幅4mm)を挟在 40.39m 割れ目(∠30°)に7.5Y8/2灰白色粘土(0~1mm)を挟在
40.81m 割れ目(∠36°)に7.5Y8/2灰白色粘土(0~1mm)を挟在 41.29m 割れ目(∠42°)に10YR3/2黒褐色粘土(1~3mm)を挟在 41.31m 割れ目(∠32°)に10YR3/2黒褐色粘土(1mm)を挟在



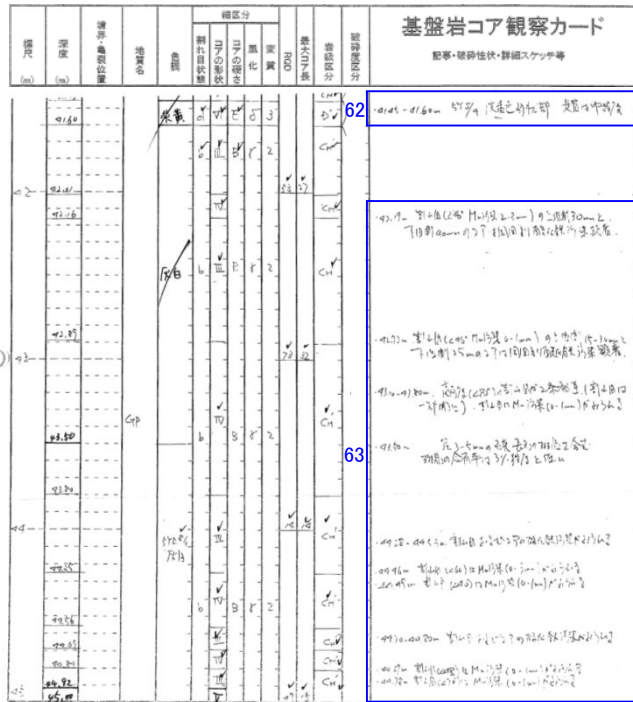
記事	コア観察カード(H27年8月)⇒申請書用柱状図
C	<ul style="list-style-type: none"> <li>“コアの硬さ”欄に基づき、硬質と記載。</li> <li>“コアの形状”欄に基づき、短柱~柱状と記載。</li> </ul>
60, 61	<ul style="list-style-type: none"> <li>一部の割れ目に砂や粘土を挟在するが、いずれも周囲の岩盤に劣化が認められないことから削除。</li> <li>割れ目の発達程度については、RQD、最大コア長、岩級区分で示していることから削除。</li> <li>酸化鉄汚染、マンガ、割れ目の開口状況については、補足的なものであるため削除。</li> <li>一般的な岩相であり、石基及び斑晶の種類、粒径等については、特に目立つ区間のみ記載することとしており、特に目立つ区間ではないため削除。</li> </ul>

# H27-D5-1

## コア観察カード (H27年8月)

## コア観察カードの仮ワープロ変換

## 申請書用柱状図



記事内容
62 41.45-41.60m 5Y8/4淡黄色砂状部 変質は中程度
42.19m 割れ目(∠46° Mn汚染2~3mm)の上位側30mmと下位側40mmのコアは周囲より酸化鉄汚染顕著
42.92m 割れ目(∠46° Mn汚染0~1mm)の上位側15~30mmと下位側25mmのコアは周囲より酸化鉄汚染顕著
43.10-43.80m 高角度(∠80°)の割れ目が2条発達。(割れ目は一部開口)割れ目はMn汚染(0~1mm)がみられる。
63 43.50~ 径3~5mmの石英、長石の斑晶を含む斑晶の含有率は3%程度と低い。
44.28-44.53m 割れ目およびコアの酸化鉄汚染がみられる。
44.46m 割れ目(∠60°)にMn汚染(0~3mm)がみられる。
44.49m 割れ目(∠40°)にMn汚染(0~1mm)がみられる。
44.70-44.80m 割れ目およびコアの酸化鉄汚染がみられる。
44.69m 割れ目(∠48°)にMn汚染(0~1mm)がみられる。
44.78m 割れ目(∠70°)にMn汚染(0~1mm)がみられる。

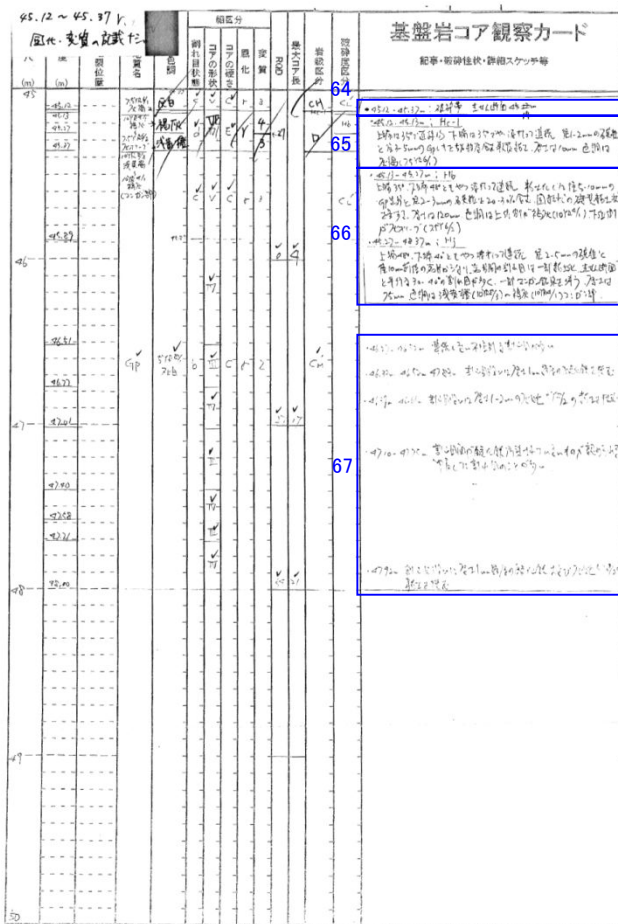


記事	コア観察カード(H27年8月)⇒申請書用柱状図
62	<ul style="list-style-type: none"> <li>・色調については、補足的なものであるため削除。</li> <li>・変質については、風化による褐色化が顕著であることを踏まえ削除し、“風化”欄に基づき風化が進みと記載。</li> </ul>
63	<ul style="list-style-type: none"> <li>・マンガンや酸化鉄汚染については、補足的なものであるため削除。</li> <li>・割れ目の発達の程度については、RQD、最大コア長、岩級区分で示しているため削除。</li> <li>・一般的な岩相であり、石基及び斑晶の種類、粒径等については、特に目立つ区間のみ記載することとしており、特に目立つ区間ではないため削除。</li> </ul>

コア観察カード  
(H27年8月)

コア観察カードの仮ワープロ変換

申請書用柱状図



記事内容	
45.12~45.37 r	風化・変質の記載ナシ
64	●45.12-45.37m 破碎帯 主せん断面45.14m 45.12-45.13m: Hc-1 上端は35°で直線の下端は35°でやや波打って連続 径1~2mmの石英粒と径3~5mmのGpレキを5%程度含む軟質粘土。厚さは10mm色調は灰褐(7.5YR6/1)
65	45.13-45.27m: Hb 上端35° 下端48°ともやや波打って連続 粘土化した径5~10mmのGp岩片と径2~3mmの石英粒を20~30%含む固結状の礫質粘土状を呈する。厚さは120mm色調は上端側が褐灰(10YR4/1), 下端側が灰オリブ(7.5Y6/2)
66	45.27-48.37m: Hj 上端48° 下端40°ともやや波打って連続 径2~5mmの石英粒と径10mm前後の岩片からなり、岩片間の割れ目は一部粘土化。主せん断面と平行な30~40°の割れ目が多く一部でマンガン鉱染を伴う。厚さは75mm色調は浅黄橙(10YR8/3)~褐灰(10YR4/1) マンガン部
67	46.27-46.52m 連続しない不規則な割れ目が多い。 46.32m 46.52m 47.83m 割れ目沿いに厚さ1mm程度の酸化鉄を挟む。 46.39m 46.61m 割れ目沿いに厚さ1~2mmの灰白色5Y5/2の粘土を挟む。 47.10-47.75m 割れ目面が酸化鉄汚染されているものが認められる。 ゆ着した割れ目のことが多い。 47.92m 割れ目沿いに厚さ1mm程度の酸化鉄および灰白色5Y8/2の粘土を挟む。

標尺	深度	柱状	岩種区分	色調	岩級区分	コア採取率 (%)	最大コア長 (cm)	コア採取率 (%)				記事
								R	Q	D	最大コア長 (cm)	
40			花崗斑岩	灰白	CH	100	14	52				47°である。 35.55~36.05m ・粘土化しており、軟質である。 36.05~45.00m ・礫質で、主として短柱~柱状を呈する。 41.45~41.60m ・風化が顕み、砂状を呈する。
			花崗斑岩	灰白	CH	100	27	53				●45.12~45.37m ・破碎帯である。 ・上層層センスである。 ・灰褐色の粘土状~褐灰~灰オリブ色の礫質粘土~浅黄橙~褐灰色の粘土混じり礫状を呈する。 ・灰褐色粘土 累計厚10mm ・走向・傾斜はN30°E72°である。 ・上層境界の傾斜は35°、下層境界の傾斜は40°である。
			花崗斑岩	灰白	CH	100	32	73				
			花崗斑岩	灰白	CH	100	14	14				
			花崗斑岩	灰白	CH	100	15	49				
			花崗斑岩	灰白	CH	100	4	0				
			花崗斑岩	灰白	CH	100	17	27				
			花崗斑岩	灰白	CH	100	21	54				

記事	コア観察カード(H27年8月)⇒申請書用柱状図
64~66	<ul style="list-style-type: none"> <li>薄片観察の結果で得られた最新活動面の変位センスを記載。</li> <li>表現の見直し(岩片間の割れ目は一部粘土化→粘土混じり礫状)</li> <li>ポアホールテレビの解析結果による最新活動面の走向・傾斜を記載。</li> <li>破碎部の見かけの傾斜については、補足的なものであるため、端部で取得したものを除き削除。</li> <li>主せん断面との記載については、コア観察による最新活動面を示したものであり、申請書では記載しないこととしているため削除。</li> <li>粒径、粒子の種類、含有率、マンガンについては、補足的なものであるため削除。</li> <li>破碎度区分Hc-1及びHc-2からなる区間の累計幅を記載することとしているため、HbやHj区間の幅については削除。</li> <li>境界の直線性、硬軟については、申請書では記載しないこととしているため削除。</li> </ul>
67	<ul style="list-style-type: none"> <li>割れ目の発達程度については、RQD、最大コア長、岩級区分で示しているため削除。</li> <li>割れ目沿いの酸化鉄、割れ目の密着状態については、補足的なものであるため削除。</li> <li>一部の割れ目に粘土を挟むが、いずれも直線性に乏しいことから削除。</li> </ul>

余白



# 第865回審査会合資料2-2-2の修正箇所

設置許可申請書案

記事
<ul style="list-style-type: none"> <li>●92.86～93.53m (D-5破砕帯)</li> <li>・破砕部である。</li> <li>・右ずれ正断層センスである。</li> <li>・にふい黄橙～明褐色の粘土混り角礫状～灰白色の角礫状を呈する。</li> <li>・走向・傾斜はN5° W82° Eである。</li> <li>・下端境界の傾斜は70°である。</li> </ul>

設置許可申請書  
(平成27年11月)

記事
<ul style="list-style-type: none"> <li>●92.86～93.53m (D-5破砕帯)</li> <li>・破砕部である。</li> <li>・右ずれ正断層センスである。</li> <li>・にふい黄橙～明褐色の粘土混り角礫状～灰白色の角礫状を呈する。</li> <li>・走向・傾斜はN5° W82° Eである。</li> <li>・下端境界の傾斜は70°である。</li> </ul>

審査資料  
(平成29年12月22日)

記事
<ul style="list-style-type: none"> <li>●92.86～93.53m (D-5破砕帯)</li> <li>・破砕部である。</li> <li>・右ずれ正断層センスである。</li> <li>・主に褐色の固結礫状部からなる。</li> <li>・褐色の未固結粘土状部：累計幅0.8cm</li> <li>・走向・傾斜はN5° W82° Eである。</li> <li>・下端境界の傾斜は70°である。</li> </ul>

委託報告書  
(平成30年)

標高	標尺	深尺	柱状	岩種	色	硬	割れ目	風化	記	コア採取率
(m)	(m)	(m)	図	分	別	度	の	状	事	(%)
										最大コア長
										cm
										R Q D
										L [%]

審査資料  
(平成30年11月30日)

記事
<ul style="list-style-type: none"> <li>●92.86～93.53m (D-5破砕帯)</li> <li>・破砕部である。</li> <li>・右ずれ正断層センスである。</li> <li>・主に褐色の固結礫状部からなる。</li> <li>・褐色の未固結粘土状部：累計幅0.8cm</li> <li>・走向・傾斜はN5° W82° Eである。</li> <li>・下端境界の傾斜は70°である。</li> </ul>

審査資料  
(令和2年2月7日)

記事
<ul style="list-style-type: none"> <li>●92.86～93.53m (D-5破砕帯)</li> <li>・破砕部である。</li> <li>・右ずれ正断層センスである。</li> <li>・主に褐色の固結礫状部からなる。</li> <li>・褐色の未固結粘土状部：累計幅0.8cm</li> <li>・走向・傾斜はN5° W82° Eである。</li> <li>・下端境界の傾斜は70°である。</li> </ul>

記事	申請書案⇒ 申請書(H27.11)	申請書(H27.11)⇒ 審査資料(H29.12.22)	審査資料(H29.12.22)⇒ 報告書	報告書⇒ 審査資料(H30.11.30)	審査資料(H30.11.30)⇒ 審査資料(R2.2.7)
72～75	変更なし	<ul style="list-style-type: none"> <li>・性状及び色調については、申請書提出から審査会合(H29.12.22)までの間に行った、断層岩区分を目的とした再観察の結果に基づき記載。肉眼観察で確認した原岩組織の残留の程度、連続性、硬軟に基づき、断層岩(断層ガウジ、断層角礫、カタクレーサイト)を判断。その後、申請書提出から審査会合(H29.12.22)までの間に薄片観察による断層岩区分を行ったが、肉眼観察による判断結果から変更は無い。断層ガウジを未固結粘土状部、断層角礫を未固結礫状部、カタクレーサイトを性状に応じて、固結礫状・砂状・粘土状部と記載。</li> <li>・上記再観察で未固結粘土状部とした箇所を累計幅を記載。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・破砕幅を記載。</li> <li>・破砕部区間を性状毎に深度を分けて記載。</li> <li>・性状については、観察結果と審査資料での断層岩区分(固結・未固結と礫状・砂状・粘土状の組合せ)を併記。</li> <li>・下端境界の見かけ傾斜について、70°と書くべきところを誤って75°と記載。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・破砕幅については、性状一覧表に示しており、柱状図には記載しないこととして追記せず。</li> <li>・割れ目の密集部については、固結礫状部に含めているため追記せず。</li> </ul>	変更なし

設置許可申請書案

記事	
72 75	<p>●92.86~93.53m (D-5破砕帯) ・破砕帯である。 ・右ずれ正断層センスである。 ・にふい黄橙～明褐色の粘土混り角礫状～灰白色の角礫状を呈する。 ・走向・傾斜はN5° W82° Eである。 ・下端境界の傾斜は70° である。</p>

設置許可申請書  
(平成27年11月)

記事	
72 75	<p>●92.86~93.53m (D-5破砕帯) ・破砕帯である。 ・右ずれ正断層センスである。 ・にふい黄橙～明褐色の粘土混り角礫状～灰白色の角礫状を呈する。 ・走向・傾斜はN5° W82° Eである。 ・下端境界の傾斜は70° である。</p>

審査資料  
(平成29年12月22日)

記事	
72 75	<p>●92.86~93.53m (D-5破砕帯) ・破砕帯である。 ・右ずれ正断層センスである。 ・主に褐色の固結礫状部からなる。 ・褐色の未固結粘土状部。累計幅0.8cm ・走向・傾斜はN5° W82° Eである。 ・下端境界の傾斜は70° である。</p>

委託報告書  
(平成30年)

標高	深	柱状	岩	色	硬	割	風	記	コア採取率
尺	度	状	種	目	度	れ	化	事	(%)
(m)	(m)	図	別	別	別	目	質		
		分	の	の	の	の			
		類	状	状	状	状			
		別	化	化	化	化			
								●92.86~93.53m 破砕帯(D-5) ・破砕帯である。 ・右ずれ正断層センスである。 ・主に褐色の固結礫状部からなる。 ・褐色の未固結粘土状部。累計幅0.8cm ・走向・傾斜はN5° W82° Eである。 ・下端境界の傾斜は70° である。	
								●92.86~93.53m 褐色の細粒に付 粘土を呈する。未固結の粘土 状部からなり。幅は0.8cmである。 傾斜は75° である。	

審査資料  
(平成30年11月30日)

記事	
72 75	<p>●92.86~93.53m (D-5破砕帯) ・破砕帯である。 ・右ずれ正断層センスである。 ・主に褐色の固結礫状部からなる。 ・褐色の未固結粘土状部。累計幅0.8cm ・走向・傾斜はN5° W82° Eである。 ・下端境界の傾斜は70° である。</p>

審査資料  
(令和2年2月7日)

記事	
72 75	<p>●92.86~93.53m (D-5破砕帯) ・破砕帯である。 ・右ずれ正断層センスである。 ・主に褐色の固結礫状部からなる。 ・褐色の未固結粘土状部。累計幅0.8cm ・走向・傾斜はN5° W82° Eである。 ・下端境界の傾斜は70° である。</p>

記事	申請書案⇒ 申請書(H27.11)	申請書(H27.11)⇒ 審査資料(H29.12.22)	審査資料(H29.12.22)⇒ 報告書	報告書⇒ 審査資料(H30.11.30)	審査資料(H30.11.30)⇒ 審査資料(R2.2.7)
72~75	(誤記) 下端境界の見かけの傾斜として、75° と書くべきところを誤って70° と誤って記載。	・性状及び色調については、申請書提出から審査会合(H29.12.22)までの間に行った、断層岩区分を目的とした再観察の結果に基づき記載。肉眼観察で確認した原岩組織の残留の程度、連続性、硬軟に基づき、断層岩(断層ガウジ、断層角礫、カタクレーサイト)を判断。その後、申請書提出から審査会合(H29.12.22)までの間に薄片観察による断層岩区分を行ったが、肉眼観察による判断結果から変更は無い。断層ガウジを未固結粘土状部、断層角礫を未固結礫状部、カタクレーサイトを性状に応じて、固結礫状・砂状・粘土状と記載。 ・上記再観察で未固結粘土状部とした箇所の累計幅を記載。	・破砕幅を記載。 ・破砕部区間を性状毎に深度を分けて記載。 ・性状については、観察結果と審査資料での断層岩区分(固結・未固結と礫状・砂状・粘土状の組合せ)を併記。 ・誤記修正(下端境界の傾斜は70° →75° )	・破砕幅については、性状一覧表に示しており、柱状図には記載しないこととしているため追記せず。 ・割れ目の密集部については、固結礫状部に含めているため追記せず。 ・誤記修正の反映漏れ。	変更なし

設置許可申請書案	設置許可申請書 (平成27年11月)	審査資料 (平成29年12月22日)	委託報告書 (平成30年)	審査資料 (平成30年11月30日)	審査資料 (令和2年2月7日)
<p>記事</p> <p>72.39~72.63m ・変質している。 ・淡黄褐色のシルト混じり砂礫状を呈する。 ・上層境界の傾斜は53°、下層境界の傾斜は60°である。</p> <p>73.51~74.70m ・硬質で割れ目が少なく、長柱状を呈する。</p> <p>76.68~77.80m ・割れ目が多く、岩片~短柱状を呈する。</p>	<p>記事</p> <p>72.39~72.63m ・変質している。 ・淡黄褐色のシルト混じり砂礫状を呈する。 ・上層境界の傾斜は53°、下層境界の傾斜は60°である。</p> <p>73.51~74.70m ・硬質で割れ目が少なく、長柱状を呈する。</p> <p>76.68~77.80m ・割れ目が多く、岩片~短柱状を呈する。</p>	<p>記事</p> <p>72.39~72.63m ・変質している。 ・淡黄褐色のシルト混じり砂礫状を呈する。</p> <p>73.51~74.70m ・硬質で割れ目が少なく、長柱状を呈する。</p> <p>76.68~77.80m ・割れ目が多く、岩片~短柱状を呈する。</p>	<p>標高 (m)</p> <p>深さ (m)</p> <p>柱状</p> <p>岩種</p> <p>色</p> <p>硬さ</p> <p>割れ目の形状</p> <p>風化</p> <p>記事</p> <p>コア採取率 (％) 最大コア長 — cm R Q D L [ % ]</p>	<p>記事</p> <p>72.39~72.63m ・変質している。 ・淡黄褐色のシルト混じり砂礫状を呈する。</p> <p>73.51~74.70m ・硬質で割れ目が少なく、長柱状を呈する。</p> <p>76.68~77.80m ・割れ目が多く、岩片~短柱状を呈する。</p>	<p>記事</p> <p>72.39~72.63m ・変質している。 ・淡黄褐色のシルト混じり砂礫状を呈する。</p> <p>73.51~74.70m ・硬質で割れ目が少なく、長柱状を呈する。</p> <p>76.68~77.80m ・割れ目が多く、岩片~短柱状を呈する。</p>

記事	申請書案→ 申請書(H27.11)	申請書(H27.11)→ 審査資料(H29.12.22)	審査資料(H29.12.22)→ 報告書	報告書→ 審査資料(H30.11.30)	審査資料(H30.11.30)→ 審査資料(R2.2.7)
A	変更なし (誤記)報告書に該当する記載なし。	・変質している区間の境界の見かけの傾斜については、補足的なものであるため削除。	・誤記修正(記事と整合する観察結果が認められないことから、記事を削除)。	審査資料(H29.12.22)と同様 ・記事削除の反映漏れ。	変更なし
82	—	—	・割れ目について記載(割れ目沿いの風化)。 ・硬軟を記載。	・硬軟の程度については、岩級区分で示しているため追記せず。 ・割れ目沿いの風化については、補足的なものであるため追記せず。	—
83	—	—	・角礫混じり砂質シルト状の区間を記載。	・角礫混じり砂質シルト状を呈するが、内部にせん断構造が認められず、周囲の岩盤に劣化が認められないことから追記せず。	—
84	変更なし	変更なし	・硬軟や割れ目の発達度を記載。	審査資料(H29.12.22)と同様 ・“コア形状”欄に基づき長柱状と記載。	変更なし
85	—	—	・割れ目について記載(割れ目沿いの風化・酸化)。	・割れ目沿いの風化、酸化については、補足的なものであるため追記せず。	—
86	—	—	・割れ目の発達度を記載。 ・割れ目について記載(割れ目沿いの細粒、細片化)。	・割れ目沿いで細粒、細片化するが、掘削時の機械割れと判断し追記せず。	—
87	変更なし	変更なし	・割れ目の発達度を記載。 ・風化の程度を記載。	審査資料(H29.12.22)と同様 ・割れ目の発達度については、“コア形状”欄に基づき岩片~短柱状と記載。 ・風化の程度については、当該区間の周囲と明確な差が認められないため追記せず。	変更なし

# H24-B11-1

第865回審査会合資料  
補足2-19-14 修正後

## 設置許可申請書案

記事
A 72.39~72.63m ・変質している。 ・淡黄褐色のシルト混じり砂礫状を呈する。 ・上層境界の傾斜は53°、下層境界の傾斜は60°である。
84 73.51~74.70m ・硬質で割れ目が少なく、長柱状を呈する。
87 76.68~77.80m ・割れ目が多く、岩片~短柱状を呈する。

## 設置許可申請書 (平成27年11月)

記事
A 72.39~72.63m ・変質している。 ・淡黄褐色のシルト混じり砂礫状を呈する。 ・上層境界の傾斜は53°、下層境界の傾斜は60°である。
84 73.51~74.70m ・硬質で割れ目が少なく、長柱状を呈する。
87 76.68~77.80m ・割れ目が多く、岩片~短柱状を呈する。

## 審査資料 (平成29年12月22日)

記事
A 72.39~72.63m ・変質している。 ・淡黄褐色のシルト混じり砂礫状を呈する。
84 73.51~74.70m ・硬質で割れ目が少なく、長柱状を呈する。
87 76.68~77.80m ・割れ目が多く、岩片~短柱状を呈する。

## 委託報告書 (平成30年)

標尺	標高	深	柱状	岩種	色	硬軟	割れ目の形状	風化	記事	コア採取率 一 (%) 最大コア長 一 cm R Q D 一 (%)
(m)	(m)	(m)	図	区分	軟	軟	風化	風化		
					細粒	軟	風化	風化	82	72.39~72.72m 割れ目沿いの風化が顕著にみられる。硬軟が記載されている。
					Ca	軟	風化	風化	83	72.51~72.53m 上層の傾斜が下層の傾斜(53°)より傾斜が緩く、砂礫混じり砂礫状を呈する。
					Ba	軟	風化	風化	84	73.51~74.70m 割れ目が少なく、硬軟が記載されている。
					Ba	軟	風化	風化	85	74.98m 割れ目沿いで細粒(20mm以下)の混入が認められる。
					Ca	軟	風化	風化	86	76.68~77.68m 割れ目が多く、硬軟が記載されている。
					Ba	軟	風化	風化	87	76.68~77.80m 割れ目が多く、硬軟も混入が認められている。

## 審査資料 (平成30年11月30日)

記事
A 72.39~72.63m ・変質している。 ・淡黄褐色のシルト混じり砂礫状を呈する。
84 73.51~74.70m ・硬質で割れ目が少なく、長柱状を呈する。
87 76.68~77.80m ・割れ目が多く、岩片~短柱状を呈する。

## 審査資料 (令和2年2月7日)

記事
A 72.39~72.63m ・変質している。 ・淡黄褐色のシルト混じり砂礫状を呈する。
84 73.51~74.70m ・硬質で割れ目が少なく、長柱状を呈する。
87 76.68~77.80m ・割れ目が多く、岩片~短柱状を呈する。

記事	申請書案⇒ 申請書(H27.11)	申請書(H27.11)⇒ 審査資料(H29.12.22)	審査資料(H29.12.22)⇒ 報告書	報告書⇒ 審査資料(H30.11.30)	審査資料(H30.11.30)⇒ 審査資料(R2.2.7)
82	-	-	・割れ目について記載(割れ目沿いの風化)。 ・硬軟を記載。	・硬軟の程度については、岩級区分で示しているため追記せず。 ・割れ目沿いの風化については、補足的なものであるため追記せず。	-
A, 83	変更なし (誤記)72.51~72.57mと書くべきところを誤って72.39~72.63mと記載。	・変質している区間の境界の見かけの傾斜については、補足的なものであるため削除。	・誤記修正(72.39~72.63m→72.51~72.57m)。	審査資料(H29.12.22)と同様 ・誤記修正の反映漏れ。	変更なし
84	変更なし	変更なし	・硬軟や割れ目の発達度を記載。	審査資料(H29.12.22)と同様 ・“コア形状”欄に基づき長柱状と記載。	変更なし
85	-	-	・割れ目について記載(割れ目沿いの風化・酸化)。	・割れ目沿いの風化、酸化については、補足的なものであるため追記せず。	-
86	-	-	・割れ目の発達度を記載。 ・割れ目について記載(割れ目沿いの細粒、細片化)。	・割れ目沿いで細粒、細片化するが、掘削時の機械割れと判断し追記せず。	-
87	変更なし	変更なし	・割れ目の発達度を記載。 ・風化の程度を記載。	審査資料(H29.12.22)と同様 ・割れ目の発達度の程度については、“コア形状”欄に基づき岩片~短柱状と記載。 ・風化の程度については、当該区間の周囲と明瞭な差が認められないため追記せず。	変更なし

## 設置許可申請書案

記事	
34	●28.50~28.66m ・破砕部である。 ・正断層センスである。 ・透黄橙～黄褐色の硬質粘土状～粘土混じり礫状を呈する。 ・走向・傾斜はN35° E77° NWである。
36	●28.50~28.66m (f-b14-2-1破砕帯) ・破砕部である。 ・正断層センスである。 ・透黄橙～黄褐色の硬質粘土状～粘土混じり礫状を呈する。 ・走向・傾斜はN35° E77° NWである。
39	●32.40~32.67m ・割れ目が多く、角礫状を呈する。

## 設置許可申請書 (平成27年11月)

記事	
34	●28.50~28.66m ・破砕部である。 ・正断層センスである。 ・透黄橙～黄褐色の硬質粘土状～粘土混じり礫状を呈する。 ・走向・傾斜はN35° E77° NWである。
36	●28.50~28.66m (f-b14-2-1破砕帯) ・破砕部である。 ・正断層センスである。 ・透黄橙～黄褐色の硬質粘土状～粘土混じり礫状を呈する。 ・走向・傾斜はN35° E77° NWである。
39	●32.40~32.67m ・割れ目が多く、角礫状を呈する。

## 審査資料 (平成29年12月22日)

記事	
34	●28.50~28.66m (f-b14-2-1破砕帯) ・破砕部である。 ・左ずれ正断層センスである。 ・主ににふい黄褐色の固結礫状部からなる。 ・にふい黄褐色の未固結粘土状部：累計幅0.1cm ・走向・傾斜はN35° E77° NWである。
36	●28.50~28.66m (f-b14-2-1破砕帯) ・破砕部である。 ・左ずれ正断層センスである。 ・主ににふい黄褐色の固結礫状部からなる。 ・にふい黄褐色の未固結粘土状部：累計幅0.1cm ・走向・傾斜はN35° E77° NWである。
39	●32.40~32.67m ・割れ目が多く、角礫状を呈する。

## 委託報告書 (平成30年)

標高	深	柱状	岩	色	硬	割れ	風	記	コア採取率
尺	高度	状	種	区	軟	目の	化	事	(%)
(m)	(m)	図	分	軟	状	形状	質		最大コア長
		分	類	状	態	の			cm
		類	別	化	質	発達			R Q D
		別	別	質		程度			[ % ]
30		花崗閃緑岩	硬	硬	硬	硬	硬		0
32.33		硬	硬	硬	硬	硬	硬	26.62~27.65m: 割れ目が多い。0.5~1.0cm間隔で連続して発達する。	0
34		硬	硬	硬	硬	硬	硬	28.21~28.50m: 固結礫状部が0.2~1cm間隔で発達し、連続する。破砕幅は0.3cmである。	0
36		硬	硬	硬	硬	硬	硬	●28.50~28.66m: 破砕帯(f-b14-2-1) 破砕部である。 左ずれ正断層センスである。 主ににふい黄褐色の固結礫状部からなる。 にふい黄褐色の未固結粘土状部：累計幅0.1cm 走向・傾斜はN35° E77° NWである。	0
39		硬	硬	硬	硬	硬	硬	32.40~32.67m 割れ目が多く、角礫状を呈する。	0

## 審査資料 (平成30年11月30日)

記事	
34	●28.50~28.66m (f-b14-2-1破砕帯) ・破砕部である。 ・左ずれ正断層センスである。 ・主ににふい黄褐色の固結礫状部からなる。 ・にふい黄褐色の未固結粘土状部：累計幅0.1cm ・走向・傾斜はN35° E77° NWである。
36	●28.50~28.66m (f-b14-2-1破砕帯) ・破砕部である。 ・左ずれ正断層センスである。 ・主ににふい黄褐色の固結礫状部からなる。 ・にふい黄褐色の未固結粘土状部：累計幅0.1cm ・走向・傾斜はN35° E77° NWである。
39	●32.40~32.67m ・割れ目が多く、角礫状を呈する。

## 審査資料 (令和2年2月7日)

記事	
34	●28.50~28.66m (f-b14-2-1破砕帯) ・破砕部である。 ・左ずれ正断層センスである。 ・主ににふい黄褐色の固結礫状部からなる。 ・にふい黄褐色の未固結粘土状部：累計幅0.1cm ・走向・傾斜はN35° E77° NWである。
36	●28.50~28.66m (f-b14-2-1破砕帯) ・破砕部である。 ・左ずれ正断層センスである。 ・主ににふい黄褐色の固結礫状部からなる。 ・にふい黄褐色の未固結粘土状部：累計幅0.1cm ・走向・傾斜はN35° E77° NWである。
39	●32.40~32.67m ・割れ目が多く、角礫状を呈する。

記事	申請書案⇒ 申請書 (H27.11)	申請書(H27.11)⇒ 審査資料(H29.12.22)	審査資料(H29.12.22) ⇒ 報告書	報告書⇒ 審査資料(H30.11.30)	審査資料(H30.11.30)⇒ 審査資料(R2.2.7)
32.33	—	—	・割れ目の発達程度を記載。	・割れ目の発達程度については、RQD、最大コア長、岩級区分で示しているため追記せず。	—
34~36	変更なし	・誤記修正 (28.50~28.66m→28.50~28.66m)。 ・破砕帯名を記載。 ・性状及び色調については、申請書提出から審査会合(H29.12.22)までの間に行った、断層岩区分を目的とした再観察の結果に基づき記載。肉眼観察で確認した原岩組織の残留の程度、連続性、硬軟に基づき、断層岩(断層ガウジ、断層角礫、カタクレーサイト)を判断。断層ガウジを未固結粘土状部、断層角礫を未固結礫状部、カタクレーサイトを性状に応じて、固結礫状・砂状・粘土状部と記載。 ・上記再観察で未固結粘土状部とした箇所を累計幅を記載。 ・ポアホールテレビの解析結果による最新活動面の走向・傾斜を記載。 ・誤記修正(正断層センス→左ずれ正断層センス)。	・破砕帯を記載。 ・破砕部区分を性状毎に深度を分けて記載。 ・性状については、観察結果と審査資料での断層岩区分(固結・未固結と礫状・砂状・粘土状の組合せ)を併記。	審査資料(H29.12.22)と同様 ・破砕帯については、性状一覧表に示しており、柱状図には記載しないこととしているため追記せず。 ・破砕部の見かけの傾斜については、補足的なものであるため追記せず。 ・粘土の細脈が分布するが、連続性や直線性に乏しいことから追記せず。	変更なし (※ただし、断層岩区分は薄片観察結果に基づく)
37	—	—	・割れ目の発達程度を記載。	・割れ目の発達程度については、RQD、最大コア長、岩級区分で示しているため追記せず。	—
38	—	—	・割れ目の発達程度を記載。	・割れ目の発達程度については、RQD、最大コア長、岩級区分で示しているため追記せず。	—
39	変更なし	変更なし	・割れ目の発達程度を記載。	審査資料(H29.12.22)と同様 ・“コア形状”欄に基づき角礫状と記載。	変更なし
40	—	—	・硬軟や割れ目の発達程度を記載。	・硬軟や割れ目の発達程度については、RQD、最大コア長、岩級区分で示しているため追記せず。	—
41	—	—	・粘土脈を記載。	・粘土を挟在するが、周囲の岩盤に同方向の劣化が認められないことから追記せず。	—

設置許可申請書案	設置許可申請書 (平成27年11月)	審査資料 (平成29年12月22日)	委託報告書 (平成30年)	審査資料 (平成30年11月30日)	審査資料 (令和2年2月7日)																																																																																																																																																															
<p>記事</p> <p>●28.50~28.68m ・破砕部である。 ・正断層センスである。 ・赤褐色～黄褐色の硬質粘土状～粘土混じり礫状を呈する。 ・走向・傾斜はN35° E77° NWである。</p> <p>32.40~32.67m ・割れ目が多く、角礫状を呈する。</p>	<p>記事</p> <p>●28.50~28.68m ・破砕部である。 ・正断層センスである。 ・赤褐色～黄褐色の硬質粘土状～粘土混じり礫状を呈する。 ・走向・傾斜はN35° E77° NWである。</p> <p>32.40~32.67m ・割れ目が多く、角礫状を呈する。</p>	<p>記事</p> <p>●28.50~28.68m (f-b14-2-1破砕帯) ・破砕部である。 ・左ずれ正断層センスである。 ・主ににふい黄褐色の固結礫状部からなる。 ・にふい黄褐色の未固結粘土状部：累計幅0.1cm ・走向・傾斜はN35° E77° NWである。</p> <p>32.40~32.67m ・割れ目が多く、角礫状を呈する。</p>	<table border="1"> <thead> <tr> <th>標高</th> <th>深</th> <th>柱</th> <th>岩</th> <th>色</th> <th>硬</th> <th>割</th> <th>風</th> <th>記</th> <th>コア採取率</th> </tr> <tr> <th>尺</th> <th>高度</th> <th>状</th> <th>種</th> <th>区</th> <th>度</th> <th>れ</th> <th>化</th> <th>事</th> <th>(%)</th> </tr> <tr> <th>(m)</th> <th>(m)</th> <th>図</th> <th>分</th> <th>間</th> <th>軟</th> <th>目</th> <th>状</th> <th></th> <th>最大コア長</th> </tr> <tr> <th></th> <th></th> <th></th> <th></th> <th></th> <th>化</th> <th>の</th> <th>態</th> <th></th> <th>cm</th> </tr> <tr> <th></th> <th></th> <th></th> <th></th> <th></th> <th>質</th> <th>状</th> <th>化</th> <th></th> <th>R Q D</th> </tr> <tr> <th></th> <th></th> <th></th> <th></th> <th></th> <th></th> <th>質</th> <th>質</th> <th></th> <th>[ % ]</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>28.62~27.65m: 割れ目が多い。0.5~1.0cm間隔で連続して発達する。</td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>28.71~28.50m: 固結礫状部が0.2~1cm間隔で発達し、観察される。破砕幅は0.3cmである。</td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>●28.50~28.68m: 破砕帯(f-b14-2-1)</td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>28.50~28.68m: 赤褐色～黄褐色の固結礫状部からなる。主ににふい黄褐色の未固結粘土状部を呈する。未固結の粘土部は0.1~0.2cmである。上層地層の傾斜は50°である。</td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>28.50~28.68m: 粘土混じり礫状を呈し、にふい黄褐色の固結した礫状部からなる。粘土の傾斜が不明である。</td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>28.50~28.68m: 傾斜が50°の割れ目(0.2~2cm間隔)で分布する。一部で割れ目に近い岩組織が不明である。</td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>30.21~28.68m: 断層帯(50°)の割れ目(0.2~2cm間隔)で分布する。一部で割れ目に近い岩組織が不明である。</td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>32.40~32.67m: 不規則な割れ目が1~3cm間隔で発達。片状を呈する。</td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>33.01~33.14m: 非常に硬質であるが割れ目がやや多一部で片状化している。</td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>34.7m: 傾斜0° 幅0~1cm 黄褐色～灰白色の粘土状である。</td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	標高	深	柱	岩	色	硬	割	風	記	コア採取率	尺	高度	状	種	区	度	れ	化	事	(%)	(m)	(m)	図	分	間	軟	目	状		最大コア長						化	の	態		cm						質	状	化		R Q D							質	質		[ % ]									28.62~27.65m: 割れ目が多い。0.5~1.0cm間隔で連続して発達する。										28.71~28.50m: 固結礫状部が0.2~1cm間隔で発達し、観察される。破砕幅は0.3cmである。										●28.50~28.68m: 破砕帯(f-b14-2-1)										28.50~28.68m: 赤褐色～黄褐色の固結礫状部からなる。主ににふい黄褐色の未固結粘土状部を呈する。未固結の粘土部は0.1~0.2cmである。上層地層の傾斜は50°である。										28.50~28.68m: 粘土混じり礫状を呈し、にふい黄褐色の固結した礫状部からなる。粘土の傾斜が不明である。										28.50~28.68m: 傾斜が50°の割れ目(0.2~2cm間隔)で分布する。一部で割れ目に近い岩組織が不明である。										30.21~28.68m: 断層帯(50°)の割れ目(0.2~2cm間隔)で分布する。一部で割れ目に近い岩組織が不明である。										32.40~32.67m: 不規則な割れ目が1~3cm間隔で発達。片状を呈する。										33.01~33.14m: 非常に硬質であるが割れ目がやや多一部で片状化している。										34.7m: 傾斜0° 幅0~1cm 黄褐色～灰白色の粘土状である。		<p>記事</p> <p>●28.50~28.68m (f-b14-2-1破砕帯) ・破砕部である。 ・左ずれ正断層センスである。 ・主ににふい黄褐色の固結礫状部からなる。 ・にふい黄褐色の未固結粘土状部：累計幅0.1cm ・走向・傾斜はN35° E77° NWである。</p> <p>32.40~32.67m ・割れ目が多く、角礫状を呈する。</p>
標高	深	柱	岩	色	硬	割	風	記	コア採取率																																																																																																																																																											
尺	高度	状	種	区	度	れ	化	事	(%)																																																																																																																																																											
(m)	(m)	図	分	間	軟	目	状		最大コア長																																																																																																																																																											
					化	の	態		cm																																																																																																																																																											
					質	状	化		R Q D																																																																																																																																																											
						質	質		[ % ]																																																																																																																																																											
								28.62~27.65m: 割れ目が多い。0.5~1.0cm間隔で連続して発達する。																																																																																																																																																												
								28.71~28.50m: 固結礫状部が0.2~1cm間隔で発達し、観察される。破砕幅は0.3cmである。																																																																																																																																																												
								●28.50~28.68m: 破砕帯(f-b14-2-1)																																																																																																																																																												
								28.50~28.68m: 赤褐色～黄褐色の固結礫状部からなる。主ににふい黄褐色の未固結粘土状部を呈する。未固結の粘土部は0.1~0.2cmである。上層地層の傾斜は50°である。																																																																																																																																																												
								28.50~28.68m: 粘土混じり礫状を呈し、にふい黄褐色の固結した礫状部からなる。粘土の傾斜が不明である。																																																																																																																																																												
								28.50~28.68m: 傾斜が50°の割れ目(0.2~2cm間隔)で分布する。一部で割れ目に近い岩組織が不明である。																																																																																																																																																												
								30.21~28.68m: 断層帯(50°)の割れ目(0.2~2cm間隔)で分布する。一部で割れ目に近い岩組織が不明である。																																																																																																																																																												
								32.40~32.67m: 不規則な割れ目が1~3cm間隔で発達。片状を呈する。																																																																																																																																																												
								33.01~33.14m: 非常に硬質であるが割れ目がやや多一部で片状化している。																																																																																																																																																												
								34.7m: 傾斜0° 幅0~1cm 黄褐色～灰白色の粘土状である。																																																																																																																																																												

記事	申請書案⇒ 申請書 (H27.11)	申請書(H27.11)⇒ 審査資料 (H29.12.22)	審査資料(H29.12.22) ⇒ 報告書	報告書⇒ 審査資料 (H30.11.30)	審査資料 (H30.11.30) ⇒ 審査資料 (R2.2.7)
32.33	—	—	・割れ目の発達度を記載。	・割れ目の発達度については、RQD、最大コア長、岩級区分で示しているため追記せず。	—
34~36	変更なし	<p>・誤記修正 (28.50~28.68m→28.50~28.66m)。 ・破砕帯名を記載。 ・性状及び色調については、申請書提出から審査会合(H29.12.22)までの間に行った、断層岩区分を目的とした再観察の結果に基づき記載。肉眼観察で確認した原岩組織の残留の程度、連続性、硬軟に基づき、断層岩(断層ガウジ、断層角礫、カタクレーサイト)を判断。断層ガウジを未固結粘土状部、断層角礫を未固結礫状部、カタクレーサイトを性状に応じて、固結礫状・砂状・粘土状部と記載。 ・上記再観察で未固結粘土状部とした箇所を累計幅を記載。 ・ポアホールテレビの解析結果による最新活動面の走向・傾斜を記載。 ・誤記修正(正断層センス→左ずれ正断層センス)。</p>	<p>・破砕帯を記載。 ・破砕帯区間を性状毎に深度を分けて記載。 ・性状については、観察結果と審査資料での断層岩区分(固結・未固結と礫状・砂状・粘土状の組合せ)を併記。</p>	<p>審査資料(H29.12.22)と同様 ・破砕帯については、性状一覧表に示しており、柱状図には記載しないこととしているため追記せず。 ・破砕帯の見かけの傾斜については、補足的なものであるため追記せず。 ・粘土の細脈が分布するが、連続性や直線性に乏しいことから追記せず。</p>	<p>変更なし (※ただし、断層岩区分は薄片観察結果に基づく)</p>
37	—	—	・割れ目の発達度を記載。	・割れ目の発達度については、RQD、最大コア長、岩級区分で示しているため追記せず。	—
38	—	—	・割れ目の発達度を記載。	・割れ目の発達度については、RQD、最大コア長、岩級区分で示しているため追記せず。	—
39	変更なし	変更なし	・割れ目の発達度を記載。	<p>審査資料(H29.12.22)と同様 ・“コア形状”欄に基づき角礫状と記載。</p>	変更なし
40	—	—	・硬軟や割れ目の発達度を記載。	・硬軟や割れ目の発達度については、RQD、最大コア長、岩級区分で示しているため追記せず。	—
41	—	—	・粘土脈を記載。	・粘土を挟在するが、周囲の岩盤に同方向の劣化が認められないことから追記せず。	—

<p><b>設置許可申請書案</b></p> <p>記事</p> <p>●47.40~47.51m ・破砕部である。 ・正断層センスである。 ・灰褐色の粘土状～黄褐色の硬質粘土状を呈する。 ・灰褐色粘土：2mm ・走向・傾斜はN21° E84° Eである。 ・傾斜は58°である。 ・上端境界の傾斜は58°、下端境界の傾斜は55°である。</p> <p>●49.17~49.20m ・破砕部である。 ・右ずれセンスである。 ・明黄褐色の砂混じり粘土状～灰白～明黄褐色の硬質粘土～粘土混じり礫状を呈する。 ・明黄褐色砂混じり粘土：累計厚15mm ・走向・傾斜はM47° E45° Wである。 ・傾斜は30°～36°である。 ・上端境界の傾斜は25°、下端境界の傾斜は23°である。</p>	<p><b>設置許可申請書</b> (平成27年11月)</p> <p>記事</p> <p>●47.40~47.51m ・破砕部である。 ・正断層センスである。 ・灰褐色の粘土状～黄褐色の硬質粘土状を呈する。 ・灰褐色粘土：2mm ・走向・傾斜はN21° E84° Eである。 ・傾斜は58°である。 ・上端境界の傾斜は58°、下端境界の傾斜は55°である。</p> <p>●49.17~49.20m ・破砕部である。 ・右ずれセンスである。 ・明黄褐色の砂混じり粘土状～灰白～明黄褐色の硬質粘土～粘土混じり礫状を呈する。 ・明黄褐色砂混じり粘土：累計厚15mm ・走向・傾斜はM47° E45° Wである。 ・傾斜は30°～36°である。 ・上端境界の傾斜は25°、下端境界の傾斜は23°である。</p>	<p><b>審査資料</b> (平成29年12月22日)</p> <p>記事</p> <p>●47.40~47.51m ・破砕部である。 ・正断層センスである。 ・黄褐色の固結砂状部からなる。 ・灰褐色の未固結粘土状部：累計幅0.2cm ・走向・傾斜はN21° E84° Eである。 ・上端境界の傾斜は58°、下端境界の傾斜は55°である。</p> <p>●49.17~49.22m ・破砕部である。 ・右ずれセンスである。 ・主に明黄褐色の固結礫状部及び固結砂状部からなる。 ・明黄褐色の未固結粘土状部：累計幅1.5cm ・走向・傾斜はN47° E45° Wである。 ・傾斜は30°～36°である。 ・上端境界の傾斜は25°、下端境界の傾斜は23°である。</p>	<p><b>委託報告書</b> (平成30年)</p> <table border="1"> <tr> <th>標高</th> <th>深</th> <th>柱</th> <th>岩</th> <th>色</th> <th>硬</th> <th>コ</th> <th>割</th> <th>風</th> <th>記</th> </tr> <tr> <th>尺</th> <th>高</th> <th>度</th> <th>状</th> <th>種</th> <th>度</th> <th>別</th> <th>れ</th> <th>速</th> <th>事</th> </tr> <tr> <th>(m)</th> <th>(m)</th> <th>(m)</th> <th>図</th> <th>分</th> <th>調</th> <th>軟</th> <th>目</th> <th>化</th> <th></th> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </table> <p>●47.40~47.51m 破砕部 破砕幅0.2cmである。 47.40~47.51m 灰褐色の粘土状を呈する。単層の粘土状部からなり、幅は0.2cmである。上端境界の傾斜は58°、下端境界の傾斜は55°である。</p> <p>●49.17~49.22m 破砕部 破砕部である。 49.17~49.22m 明黄褐色の砂混じり粘土状～灰白～明黄褐色の硬質粘土～粘土混じり礫状部からなる。明黄褐色の未固結粘土状部を呈する。未固結の粘土状部からなり、幅は1.5cmである。上端境界の傾斜は25°、下端境界の傾斜は23°である。</p>	標高	深	柱	岩	色	硬	コ	割	風	記	尺	高	度	状	種	度	別	れ	速	事	(m)	(m)	(m)	図	分	調	軟	目	化												<p><b>審査資料</b> (平成30年11月30日)</p> <p>記事</p> <p>●47.40~47.51m ・破砕部である。 ・正断層センスである。 ・主に黄褐色の固結砂状部からなる。 ・灰褐色の未固結粘土状部：累計幅0.2cm ・走向・傾斜はN21° E84° Eである。 ・上端境界の傾斜は58°、下端境界の傾斜は55°である。</p> <p>●49.17~49.22m ・破砕部である。 ・右ずれセンスである。 ・主に明黄褐色の固結礫状部及び固結砂状部からなる。 ・明黄褐色の未固結粘土状部：累計幅1.5cm ・走向・傾斜はN47° E45° Wである。 ・上端境界の傾斜は25°、下端境界の傾斜は23°である。</p>	<p><b>審査資料</b> (令和2年2月7日)</p> <p>記事</p> <p>●47.40~47.51m ・破砕部である。 ・正断層センスである。 ・主に黄褐色の固結砂状部からなる。 ・灰褐色の未固結粘土状部：累計幅0.2cm ・走向・傾斜はN21° E84° Eである。 ・上端境界の傾斜は58°、下端境界の傾斜は55°である。</p> <p>●49.17~49.22m ・破砕部である。 ・右ずれ正断層センスである。 ・主に明黄褐色の固結礫状部及び固結砂状部からなる。 ・明黄褐色の未固結粘土状部：累計幅1.5cm ・走向・傾斜はN47° E45° Wである。 ・上端境界の傾斜は25°、下端境界の傾斜は23°である。</p>
標高	深	柱	岩	色	硬	コ	割	風	記																																				
尺	高	度	状	種	度	別	れ	速	事																																				
(m)	(m)	(m)	図	分	調	軟	目	化																																					

記事	申請書案⇒ 申請書(H27.11)	申請書(H27.11)⇒ 審査資料(H29.12.22)	審査資料(H29.12.22) ⇒ 報告書	報告書⇒ 審査資料(H30.11.30)	審査資料(H30.11.30)⇒ 審査資料(R2.2.7)
57～59	変更なし	<ul style="list-style-type: none"> <li>・性状及び色調については、申請書提出から審査会合(H29.12.22)までの間に行った。断層岩区分を目的とした再観察の結果に基づき記載。肉眼観察で確認した原岩組織の残留の程度、連続性、硬軟に基づき、断層岩(断層ガウジ、断層角礫、カタクレーサイト)を判断。断層ガウジを未固結粘土状部、断層角礫を未固結礫状部、カタクレーサイトを性状に応じて、固結礫状・砂状・粘土状部と記載。</li> <li>・上記再観察で未固結粘土状部とした箇所を累計幅を記載。</li> <li>・“傾斜は58°である”との記載については、最新活動面の見かけの傾斜を示したものであり、最新活動面の走向・傾斜を別途示しているため削除。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・破砕幅を記載。</li> <li>・破砕部区間を性状毎に深度を分けて記載。</li> <li>・性状については、観察結果と審査資料での断層岩区分(固結・未固結と礫状・砂状・粘土状の組合せ)を併記。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・記載の適正化(黄褐色→主に黄褐色)。</li> <li>・破砕幅については、性状一覧表に示しており、柱状図には記載しないこととしているため追記せず。</li> <li>・破砕部の見かけの傾斜については、補足的なものであるため追記せず。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>変更なし(※ただし、断層岩区分は薄片観察結果に基づく)</li> </ul>
60～63	変更なし	<ul style="list-style-type: none"> <li>・誤記修正(49.20m→49.22m)。</li> <li>・性状及び色調については、申請書提出から審査会合(H29.12.22)までの間に行った。断層岩区分を目的とした再観察の結果に基づき記載。肉眼観察で確認した原岩組織の残留の程度、連続性、硬軟に基づき、断層岩(断層ガウジ、断層角礫、カタクレーサイト)を判断。断層ガウジを未固結粘土状部、断層角礫を未固結礫状部、カタクレーサイトを性状に応じて、固結礫状・砂状・粘土状部と記載。</li> <li>・上記再観察で未固結粘土状部とした箇所を累計幅を記載。</li> <li>・“傾斜は30°～36°である”との記載については、最新活動面の走向・傾斜を示しているため削除。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・破砕幅を記載。</li> <li>・破砕部区間を性状毎に深度を分けて記載。</li> <li>・性状については、観察結果と審査資料での断層岩区分(固結・未固結と礫状・砂状・粘土状の組合せ)を併記。</li> <li>・下端境界の見かけの傾斜として、23°と書くべきところを誤って35～60°と記載。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>審査資料(H29.12.22)と同様</li> <li>・破砕幅については、性状一覧表に示しており、柱状図には記載しないこととしているため追記せず。</li> <li>・破砕部の見かけの傾斜については、補足的なものであるため追記せず。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・誤記修正(右ずれセンス→右ずれ正断層センス、審査会合(R1.10.11)にて説明済み)。(※ただし、断層岩区分は薄片観察結果に基づく)</li> </ul>



設置許可申請書案

記事	
57 59	<ul style="list-style-type: none"> <li>●47.40~47.51m</li> <li>・破砕部である。</li> <li>・正断層センスである。</li> <li>・灰褐色の粘土状～黄褐色の礫質粘土状を呈する。</li> <li>・灰褐色粘土：2mm</li> <li>・走向・傾斜はN21° E84° Eである。</li> <li>・傾斜は58°である。</li> <li>・上端境界の傾斜は58°、下端境界の傾斜は55°である。</li> </ul>
60 63	<ul style="list-style-type: none"> <li>●49.17~49.20m</li> <li>・破砕部である。</li> <li>・右ずれセンスである。</li> <li>・明黄褐色の砂混じり粘土状～灰白～明黄褐色の礫質粘土～粘土混じり礫状を呈する。</li> <li>・明黄褐色砂混じり粘土：累計厚15mm</li> <li>・走向・傾斜はN47° E45° Wである。</li> <li>・傾斜は30°～36°である。</li> <li>・上端境界の傾斜は25°、下端境界の傾斜は23°である。</li> </ul>

設置許可申請書  
(平成27年11月)

記事	
57 59	<ul style="list-style-type: none"> <li>●47.40~47.51m</li> <li>・破砕部である。</li> <li>・正断層センスである。</li> <li>・灰褐色の粘土状～黄褐色の礫質粘土状を呈する。</li> <li>・灰褐色粘土：2mm</li> <li>・走向・傾斜はN21° E84° Eである。</li> <li>・傾斜は58°である。</li> <li>・上端境界の傾斜は58°、下端境界の傾斜は55°である。</li> </ul>
60 63	<ul style="list-style-type: none"> <li>●49.17~49.20m</li> <li>・破砕部である。</li> <li>・右ずれセンスである。</li> <li>・明黄褐色の砂混じり粘土状～灰白～明黄褐色の礫質粘土～粘土混じり礫状を呈する。</li> <li>・明黄褐色砂混じり粘土：累計厚15mm</li> <li>・走向・傾斜はN47° E45° Wである。</li> <li>・傾斜は30°～36°である。</li> <li>・上端境界の傾斜は25°、下端境界の傾斜は23°である。</li> </ul>

審査資料  
(平成29年12月22日)

記事	
57 59	<ul style="list-style-type: none"> <li>●47.40~47.51m</li> <li>・破砕部である。</li> <li>・正断層センスである。</li> <li>・黄褐色の固結砂状部からなる。</li> <li>・灰褐色の未固結粘土状部：累計幅0.2cm</li> <li>・走向・傾斜はN21° E84° Eである。</li> <li>・上端境界の傾斜は58°、下端境界の傾斜は55°である。</li> </ul>
60 63	<ul style="list-style-type: none"> <li>●49.17~49.22m</li> <li>・破砕部である。</li> <li>・右ずれセンスである。</li> <li>・主に明黄褐色の固結礫状部及び固結砂状部からなる。</li> <li>・明黄褐色の未固結粘土状部：累計幅1.5cm</li> <li>・走向・傾斜はN47° E45° Wである。</li> <li>・上端境界の傾斜は25°、下端境界の傾斜は23°である。</li> </ul>

委託報告書  
(平成30年)

標高	深	柱	岩	色	硬	割	風	記	コア採取率
尺	高度	状	種	調	度	れ	化	事	(%)
(m)	(m)	(m)	図	分	軟	目	質		最大コア長
			分	期	状	の			cm
			類	軟	状	風			R
				化	態	化			Q
					質	質			D
									L [%]
								●47.40~47.51m 破砕部 破砕幅約3.0cmである。	
								●47.40~47.51m 灰褐色の粘土状を呈する。正断層センスである。黄褐色の固結砂状部からなる。傾斜は20mである。上端・下端境界の傾斜はともに58°である。	
								●47.41~47.51m 礫質粘土を呈し、黄褐色の固結した砂状部からなる。下端境界の傾斜は55°である。	
								●49.17~49.22m 破砕部 破砕幅約1.5cmである。	
								●49.17~49.22m 右ずれセンスである。明黄褐色の固結礫状部及び固結砂状部からなる。傾斜は25mである。上端・下端境界の傾斜は25°である。	
								●49.17~49.20m 明黄褐色の固結した砂状部からなる。	
								●49.17~49.20m 明黄褐色の固結した砂状部を呈する。未固結の粘土状部からなる。傾斜は1.5cmである。上端境界の傾斜は30°、下端境界の傾斜は35~60°である。	
								●50.72~50.81m 破砕部	

審査資料  
(平成30年11月30日)

記事	
57 59	<ul style="list-style-type: none"> <li>●47.40~47.51m</li> <li>・破砕部である。</li> <li>・正断層センスである。</li> <li>・主に黄褐色の固結砂状部からなる。</li> <li>・灰褐色の未固結粘土状部：累計幅0.2cm</li> <li>・走向・傾斜はN21° E84° Eである。</li> <li>・上端境界の傾斜は58°、下端境界の傾斜は55°である。</li> </ul>
60 63	<ul style="list-style-type: none"> <li>●49.17~49.22m</li> <li>・破砕部である。</li> <li>・右ずれセンスである。</li> <li>・主に明黄褐色の固結礫状部及び固結砂状部からなる。</li> <li>・明黄褐色の未固結粘土状部：累計幅1.5cm</li> <li>・走向・傾斜はN47° E45° Wである。</li> <li>・上端境界の傾斜は25°、下端境界の傾斜は23°である。</li> </ul>

審査資料  
(令和2年2月7日)

記事	
57 59	<ul style="list-style-type: none"> <li>●47.40~47.51m</li> <li>・破砕部である。</li> <li>・正断層センスである。</li> <li>・主に黄褐色の固結砂状部からなる。</li> <li>・灰褐色の未固結粘土状部：累計幅0.2cm</li> <li>・走向・傾斜はN21° E84° Eである。</li> <li>・上端境界の傾斜は58°、下端境界の傾斜は55°である。</li> </ul>
60 63	<ul style="list-style-type: none"> <li>●49.17~49.22m</li> <li>・破砕部である。</li> <li>・右ずれ正断層センスである。</li> <li>・主に明黄褐色の固結礫状部及び固結砂状部からなる。</li> <li>・明黄褐色の未固結粘土状部：累計幅1.5cm</li> <li>・走向・傾斜はN47° E45° Wである。</li> <li>・上端境界の傾斜は25°、下端境界の傾斜は23°である。</li> </ul>

記事	申請書案⇒ 申請書(H27.11)	申請書(H27.11)⇒ 審査資料(H29.12.22)	審査資料(H29.12.22) ⇒ 報告書	報告書⇒ 審査資料(H30.11.30)	審査資料(H30.11.30)⇒ 審査資料(R2.2.7)
57~59	変更なし	<ul style="list-style-type: none"> <li>・性状及び色調については、申請書提出から審査会合(H29.12.22)までの間に行った。断層岩区分を目的とした再観察の結果に基づき記載。肉眼観察で確認した原岩組織の残留の程度、連続性、硬軟に基づき、断層岩(断層ガウジ、断層角礫、カタクレーサイト)を判断。断層ガウジを未固結粘土状部、断層角礫を未固結礫状部、カタクレーサイトを性状に応じて、固結礫状・砂状・粘土状部と記載。</li> <li>・上記再観察で未固結粘土状部とした箇所を累計幅を記載。</li> <li>・“傾斜は58°である”との記載については、最新活動面の見かけの傾斜を示したものであり、最新活動面の走向・傾斜を別途示しているため削除。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・破砕幅を記載。</li> <li>・破砕部区間を性状毎に深度を分けて記載。</li> <li>・性状については、観察結果と審査資料での断層岩区分(固結・未固結と礫状・砂状・粘土状の組合せ)を併記。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・記載の適正化(黄褐色→主に黄褐色)。</li> <li>・破砕幅については、性状一覧表に示しており、柱状図には記載しないこととしているため追記せず。</li> <li>・破砕部の見かけの傾斜については、補足的なものであるため追記せず。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>変更なし(※ただし、断層岩区分は薄片観察結果に基づく)</li> </ul>
60~63	変更なし	<ul style="list-style-type: none"> <li>・誤記修正(49.20m→49.22m)。</li> <li>・性状及び色調については、申請書提出から審査会合(H29.12.22)までの間に行った。断層岩区分を目的とした再観察の結果に基づき記載。肉眼観察で確認した原岩組織の残留の程度、連続性、硬軟に基づき、断層岩(断層ガウジ、断層角礫、カタクレーサイト)を判断。断層ガウジを未固結粘土状部、断層角礫を未固結礫状部、カタクレーサイトを性状に応じて、固結礫状・砂状・粘土状部と記載。</li> <li>・上記再観察で未固結粘土状部とした箇所を累計幅を記載。</li> <li>・“傾斜は30°～36°である”との記載については、最新活動面の走向・傾斜を示しているため削除。</li> <li>・(誤記)下端境界の見かけの傾斜として、35~60°と書くべきところを誤って23°と記載。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・破砕幅を記載。</li> <li>・破砕部区間を性状毎に深度を分けて記載。</li> <li>・性状については、観察結果と審査資料での断層岩区分(固結・未固結と礫状・砂状・粘土状の組合せ)を併記。</li> <li>・誤記修正(下端境界の傾斜は23°→35~60°)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>審査資料(H29.12.22)と同様</li> <li>・破砕幅については、性状一覧表に示しており、柱状図には記載しないこととしているため追記せず。</li> <li>・破砕部の見かけの傾斜については、補足的なものであるため追記せず。</li> <li>・誤記修正の反映漏れ。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・誤記修正(右ずれセンス→右ずれ正断層センス、審査会合(R1.10.11)にて説明済み)。(※ただし、断層岩区分は薄片観察結果に基づく)</li> </ul>

## 設置許可申請書案

記事	
51	<ul style="list-style-type: none"> <li>●60.26~60.69m</li> <li>・破砕部である。カタクレーサイトからなる。</li> <li>・明褐色の粘土状～にぶい黄褐色～明褐色の粘土混じり礫状を呈する。</li> <li>・明褐色粘土：累計厚12mm</li> <li>・N18° E77° W</li> <li>・傾斜は18°である。</li> <li>・上端境界の傾斜は28°、下端境界の傾斜は27°である。</li> </ul>
55	

## 設置許可申請書 (平成27年11月)

記事	
51	<ul style="list-style-type: none"> <li>●60.26~60.69m</li> <li>・破砕部である。カタクレーサイトからなる。</li> <li>・明褐色の粘土状～にぶい黄褐色～明褐色の粘土混じり礫状を呈する。</li> <li>・明褐色粘土：累計厚12mm</li> <li>・N18° E77° W</li> <li>・傾斜は18°である。</li> <li>・上端境界の傾斜は28°、下端境界の傾斜は27°である。</li> </ul>
55	

## 審査資料 (平成29年12月22日)

記事	
51	<ul style="list-style-type: none"> <li>●60.26~60.69m</li> <li>・破砕部である。</li> <li>・逆断層センスである。</li> <li>・主ににぶい黄褐色の固結礫状部、固結砂状部、明及び暗灰色の固結粘土状部からなる。</li> <li>・走向・傾斜はN18° E77° Wである。</li> <li>・上端境界の傾斜は28°、下端境界の傾斜は27°である。</li> </ul>
55	

## 委託報告書 (平成30年)

標高	深	柱	岩	色	硬	割	風	記	コア採取率
尺	高度	状	種	区	度	れ	化	事	(%)
(m)	(m)	図	分	軟	状	目	風		最大コア長
		分	期	状	態	の	速		cm
		期	軟	化	化	形状	率		R
		別	状	化	化	状態			Q
		風	風	風	風	風			D
		速	速	速	速	速			L
		率	率	率	率	率			(%)
60.26	60.69	福	逆断層	軟弱	固結	明褐色	51	●60.26~60.69m: 破砕部、破砕部は50cmある。	80
							52	60.24~60.57m: 粘土・砂混じり礫状を呈し、にぶい黄褐色の固結した礫状部からなる。上層境界の傾斜は28°である。	80
							53	60.57~60.69m: にぶい黄褐色の固結した砂状部からなる。明褐色の固結した粘土状部からなる。傾斜は18°である。	80
							54	60.69~60.69m: 粘土・砂混じり礫状を呈し、明褐色の固結した礫状部からなる。下端境界の傾斜は27°である。	80
							55		80

## 審査資料 (平成30年11月30日)

記事	
51	<ul style="list-style-type: none"> <li>●60.26~60.69m</li> <li>・破砕部である。</li> <li>・逆断層センスである。</li> <li>・にぶい黄褐色の固結礫状部、固結砂状部及び明褐色の固結粘土状部からなる。</li> <li>・走向・傾斜はN18° E77° Wである。</li> <li>・上端境界の傾斜は28°、下端境界の傾斜は27°である。</li> </ul>
55	

## 審査資料 (令和2年2月7日)

記事	
51	<ul style="list-style-type: none"> <li>●60.26~60.69m</li> <li>・破砕部である。</li> <li>・右ずれ逆断層センスである。</li> <li>・にぶい黄褐色の固結礫状部、固結砂状部及び明褐色の固結粘土状部からなる。</li> <li>・走向・傾斜はN18° E77° Wである。</li> <li>・上端境界の傾斜は28°、下端境界の傾斜は27°である。</li> </ul>
55	

記事	申請書案⇒ 申請書(H27.11)	申請書(H27.11)⇒ 審査資料(H29.12.22)	審査資料(H29.12.22)⇒ 報告書	報告書⇒ 審査資料(H30.11.30)	審査資料(H30.11.30)⇒ 審査資料(R2.2.7)
51~55	変更なし	<ul style="list-style-type: none"> <li>・薄片観察の結果で得られた最新活動面の変位センスを記載。</li> <li>・性状及び色調については、申請書提出から審査会合(H29.12.22)までの間に行った、断層岩区分を目的とした再観察の結果に基づき記載。肉眼観察で確認した原岩組織の残留の程度、連続性、硬軟に基づき、断層岩(断層ガウジ、断層角礫、カタクレーサイト)を判断。断層ガウジを未固結粘土状部、断層角礫を未固結礫状部、カタクレーサイトを性状に応じて、固結礫状・砂状・粘土状部と記載。</li> <li>・“傾斜は18°である”との記載については、最新活動面の見かけの傾斜を示したものであり、最新活動面の走向・傾斜を別途示しているため削除。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・破砕幅を記載。</li> <li>・破砕部区間を性状毎に深度を分けて記載。</li> <li>・性状については、観察結果と審査資料での断層岩区分(固結・未固結と礫状・砂状・粘土状の組合せ)を併記。</li> <li>・誤記修正(褐灰色の固結粘土状部→明褐色の固結粘土状部)。</li> <li>・固結した礫状部の色調として、にぶい黄褐色と書くべきところを誤って明褐色と記載。</li> <li>・下端境界の見かけの傾斜として、27°と書くべきところを誤って37°と記載。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・破砕幅については、性状一覧表に示しており、柱状図には記載しないこととしているため追記せず。</li> <li>・破砕部の見かけの傾斜については、補足的なものであるため追記せず。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・誤記修正(逆断層センス→右ずれ逆断層センス、審査会合(R1.10.11)にて説明済み)。(※ただし、断層岩区分は薄片観察結果に基づく)</li> </ul>

### 設置許可申請書案

記事	
51	<ul style="list-style-type: none"> <li>●60.26～60.69m</li> <li>・破砕部である。カタクレーサイトからなる。</li> <li>・明褐色の粘土状～にぶい黄褐色～明褐色の粘土混じり礫状を呈する。</li> <li>・明褐色粘土・累計厚12mm</li> <li>・N18° E77° W</li> <li>・傾斜は18°である。</li> <li>・上盤境界の傾斜は28°、下盤境界の傾斜は27°である。</li> </ul>
55	

### 設置許可申請書 (平成27年11月)

記事	
51	<ul style="list-style-type: none"> <li>●60.26～60.69m</li> <li>・破砕部である。カタクレーサイトからなる。</li> <li>・明褐色の粘土状～にぶい黄褐色～明褐色の粘土混じり礫状を呈する。</li> <li>・明褐色粘土・累計厚12mm</li> <li>・N18° E77° W</li> <li>・傾斜は18°である。</li> <li>・上盤境界の傾斜は28°、下盤境界の傾斜は27°である。</li> </ul>
55	

### 審査資料 (平成29年12月22日)

記事	
51	<ul style="list-style-type: none"> <li>●60.26～60.69m</li> <li>・破砕部である。</li> <li>・主ににぶい黄褐色の固結礫状部、固結砂状部、明褐色及び褐色の固結粘土状部からなる。</li> <li>・走向・傾斜はN18° E77° Wである。</li> <li>・上盤境界の傾斜は28°、下盤境界の傾斜は27°である。</li> </ul>
55	

### 委託報告書 (平成30年)

標高	深	柱	岩	色	硬	割	風	記	コア採取率
尺	高度	状	種	区	度	れ	速	事	(%)
(m)	(m)	(m)	図	分	軟	目	化		最大コア長
			分	期	状	の	質		cm
			別	状	状	形			R
			状	状	状	状			Q
			状	状	状	状			D
			状	状	状	状			L
			状	状	状	状			[%]
60			福	上	上	上	上	●60.26～60.69m: 破砕部 ・破砕部は50mである。	0
				中	中	中	中	60.24～60.69m: 粘土・砂混じり 礫状を呈し、にぶい黄褐色の固結 した礫状部からなる。上層境界 の傾斜は28°である。	0
				下	下	下	下	60.57～60.69m: にぶい黄褐色の 固結した砂状部からなる。	0
				底	底	底	底	60.60～60.69m: 粘土・砂混じり 礫状を呈し、明褐色の固結した 礫状部からなる。下盤境界の傾 斜は27°である。	0

### 審査資料 (平成30年11月30日)

記事	
51	<ul style="list-style-type: none"> <li>●60.26～60.69m</li> <li>・破砕部である。</li> <li>・逆断層センスである。</li> <li>・にぶい黄褐色の固結礫状部、固結砂状部及び明褐色の固結粘土状部からなる。</li> <li>・走向・傾斜はN18° E77° Wである。</li> <li>・上盤境界の傾斜は28°、下盤境界の傾斜は27°である。</li> </ul>
55	

### 審査資料 (令和2年2月7日)

記事	
51	<ul style="list-style-type: none"> <li>●60.26～60.69m</li> <li>・破砕部である。</li> <li>・右ずれ逆断層センスである。</li> <li>・にぶい黄褐色の固結礫状部、固結砂状部及び明褐色の固結粘土状部からなる。</li> <li>・走向・傾斜はN18° E77° Wである。</li> <li>・上盤境界の傾斜は28°、下盤境界の傾斜は27°である。</li> </ul>
55	

記事	申請書案⇒ 申請書(H27.11)	申請書(H27.11)⇒ 審査資料(H29.12.22)	審査資料(H29.12.22)⇒ 報告書	報告書⇒ 審査資料(H30.11.30)	審査資料(H30.11.30)⇒ 審査資料(R2.2.7)
51～55	(誤記)下端境界の見かけの傾斜として、37°と書くべきところを誤って27°と記載。	・薄片観察の結果で得られた最新活動面の変位センスを記載。 ・性状及び色調については、申請書提出から審査会合(H29.12.22)までの間に行った、断層岩区分を目的とした再観察の結果に基づき記載。肉眼観察で確認した原岩組織の残留の程度、連続性、硬軟に基づき、断層岩(断層ガウジ、断層角礫、カタクレーサイト)を判断。断層ガウジを未固結粘土状部、断層角礫を未固結礫状部、カタクレーサイトを性状に応じて、固結礫状・砂状・粘土状部と記載。 ・“傾斜は18°である”との記載については、最新活動面の見かけの傾斜を示したものであり、最新活動面の走向・傾斜を別途示しているため削除。	・破砕幅を記載。 ・破砕部区間を性状毎に深度を分けて記載。 ・性状については、観察結果と審査資料での断層岩区分(固結・未固結と礫状・砂状・粘土状の組合せ)を併記。 ・誤記修正(褐色の固結粘土状部→明褐色の固結粘土状部)。 ・固結した礫状部の色調として、にぶい黄褐色と書くべきところを誤って明褐色と記載。 ・誤記修正(下端境界の傾斜は27° →37°)	・破砕幅については、性状一覧表に示しており、柱状図には記載しないこととしているため追記せず。 ・破砕部の見かけの傾斜については、補足的なものであるため追記せず。 ・誤記修正の反映漏れ。	・誤記修正(逆断層センス→右ずれ逆断層センス、審査会合(R1.10.11)にて説明済み)。(※ただし、断層岩区分は薄片観察結果に基づく)

# H27-B-2

第865回審査会合資料  
補足2-13-35 修正前

## 設置許可申請書案

記事	
137	●154.53~154.71m ・破砕部である。 ・正断層センスである。 ・褐灰~灰赤色の粘土状~明緑灰~緑灰~灰褐色の礫質粘土状~にぶい橙~明緑灰色の粘土混じり礫状を呈する。 ・褐灰~灰赤色粘土：累計厚5mm ・傾斜は36°である。 ・上盤境界の傾斜は65°、下盤境界の傾斜は65°~80°である。
140	●157.89~160.00m ・割れ目沿いの緑泥石化が著しい。

## 設置許可申請書 (平成27年11月)

記事	
137	●154.53~154.71m ・破砕部である。 ・正断層センスである。 ・褐灰~灰赤色の粘土状~明緑灰~緑灰~灰褐色の礫質粘土状~にぶい橙~明緑灰色の粘土混じり礫状を呈する。 ・褐灰~灰赤色粘土：累計厚5mm ・傾斜は36°である。 ・上盤境界の傾斜は65°、下盤境界の傾斜は65°~80°である。
141	●157.89~160.00m ・割れ目沿いの緑泥石化が著しい。

## 審査資料 (平成29年12月22日)

記事	
137	●154.53~154.71m(f-b-2-22破砕帯) ・破砕部である。 ・正断層センスである。 ・主に灰褐色の固結礫状部からなる。 ・灰赤色の未固結粘土状部：累計幅0.5cm ・走向・傾斜はN42° E75° Eである。 ・上端境界の傾斜は63°、下端境界の傾斜は65°~80°である。
141	●157.89~160.00m ・割れ目沿いの緑泥石化が著しい。

## 委託報告書 (平成30年)

標高	深	柱	岩	色	硬	割	風	記	コア採取率
尺	高度	状	種	目	度	れ	化	事	(%)
(m)	(m)	図	分	別	別	目	別		最大コア長
				状	状	別	状		cm
				別	別	状	別		R Q D
				状	状	別	別		L [%]
								●154.53~154.71m: 破砕帯(f-b-2-22) ・破砕部である。 ・正断層センスである。 ・主に灰褐色の固結礫状部からなる。 ・灰赤色の未固結粘土状部：累計幅0.5cm ・走向・傾斜はN42° E75° Eである。 ・上端境界の傾斜は63°、下端境界の傾斜は65°~80°である。	
								●157.89~160.00m ・割れ目沿いの緑泥石化が著しい。	

## 審査資料 (平成30年11月30日)

記事	
137	●154.53~154.71m(f-b-2-22破砕帯) ・破砕部である。 ・正断層センスである。 ・主に灰褐色の固結礫状部からなる。 ・灰赤色の未固結粘土状部：累計幅0.5cm ・走向・傾斜はN42° E75° Eである。 ・上端境界の傾斜は63°、下端境界の傾斜は65°~80°である。
141	●157.89~160.00m ・割れ目沿いの緑泥石化が著しい。

## 審査資料 (令和2年2月7日)

記事	
137	●154.53~154.71m(f-b-2-22破砕帯) ・破砕部である。 ・正断層センスである。 ・主に灰褐色の固結礫状部からなる。 ・灰赤色の未固結粘土状部：累計幅0.5cm ・走向・傾斜はN42° E75° Eである。 ・上端境界の傾斜は63°、下端境界の傾斜は65°~80°である。
141	●157.89~160.00m ・割れ目沿いの緑泥石化が著しい。

記事	申請書案⇒ 申請書(H27.11)	申請書(H27.11)⇒ 審査資料(H29.12.22)	審査資料(H29.12.22)⇒ 報告書	報告書⇒ 審査資料(H30.11.30)	審査資料(H30.11.30)⇒ 審査資料(R2.2.7)
137~140	変更なし	・破砕帯名を記載。 ・性状及び色調については、申請書提出から審査会合(H29.12.22)までの間に行った、断層岩区分を目的とした再観察の結果に基づき記載。肉眼観察で確認した原岩組織の残留の程度、連続性、硬軟に基づき、断層岩(断層ガウジ、断層角礫、カタレーサイト)を判断。断層ガウジを未固結粘土状部、断層角礫を未固結礫状部、カタレーサイトを性状に応じて、固結礫状・砂状・粘土状部と記載。 ・上記再観察で未固結粘土状部とした箇所の累計幅を記載。 ・ポアホールテレビの解析結果による最新活動面の走向・傾斜を記載。 ・“傾斜は36°である”との記載については、最新活動面の見かけの傾斜を示したものであり、最新活動面の走向・傾斜を別途示しているため削除。	・破砕幅を記載。 ・破砕部区間を性状毎に深度を分けて記載。 ・性状については、観察結果と審査資料での断層岩区分(固結・未固結と礫状・砂状・粘土状の組合せ)を併記。 ・下端境界の見かけの傾斜として、65~80°と書くべきところを誤って65~70°と記載。 ・固結した礫状部の色調として、灰褐色と書くべきところを誤って緑灰色と記載。	審査資料(H29.12.22)と同様 ・破砕幅については、性状一覧表に示しており、柱状図には記載しないこととしているため追記せず。 ・未固結粘土状部の見かけの傾斜に記載については、最新活動面の走向・傾斜を別途示しているため追記せず。	変更なし (※ただし、断層岩区分は薄片観察結果に基づく)
141	変更なし	変更なし	・割れ目について記載(割れ目沿いの変色)。	審査資料(H29.12.22)と同様 ・155.00~160.00m区間のうち、特に緑灰色が顕著な区間について記載。	変更なし
142	—	—	・割れ目について記載(鉏物脈)。	・鉏物脈については、補足的なものであるため追記せず。	—

# H27-B-2

第865回審査会合資料  
補足2-13-35 修正後

## 設置許可申請書案

記事
●154.53～154.71m ・破砕部である。 ・正断層センスである。 ・褐灰～灰赤色の粘土状～明緑灰～緑灰～灰褐色の礫質粘土状～にぶい粉～明緑灰色の粘土混じり礫状を呈する。 ・褐灰～灰赤色粘土：累計厚5mm ・傾斜は36°である。 ・上層境界の傾斜は65°、下層境界の傾斜は65°～80°である。 157.89～160.00m ・割れ目沿いの緑泥石化が著しい。
137 140 141

## 設置許可申請書 (平成27年11月)

記事
●154.53～154.71m ・破砕部である。 ・正断層センスである。 ・褐灰～灰赤色の粘土状～明緑灰～緑灰～灰褐色の礫質粘土状～にぶい粉～明緑灰色の粘土混じり礫状を呈する。 ・褐灰～灰赤色粘土：累計厚5mm ・傾斜は36°である。 ・上層境界の傾斜は65°、下層境界の傾斜は65°～80°である。 157.89～160.00m ・割れ目沿いの緑泥石化が著しい。
137 140 141

## 審査資料 (平成29年12月22日)

記事
●154.53～154.71m(f-b-2-22破砕帯) ・破砕部である。 ・正断層センスである。 ・主に灰褐色の固結礫状部からなる。 ・灰赤色の未固結粘土状部：累計幅0.5cm ・走向・傾斜はN42° E75° Eである。 ・上層境界の傾斜は63°、下層境界の傾斜は65°～80°である。 157.89～160.00m ・割れ目沿いの緑泥石化が著しい。
137 140 141

## 委託報告書 (平成30年)

標高 尺	深度 高度	柱状	岩種	色	硬	割れ目	風	変質	記事	コア採取率 (%)	最大コア長 cm
(m)	(m)	図	区分	調	状	目	化	質		[ % ]	[ L ]
			岩						●154.53～154.71m: 破砕帯(f-b-22) 破砕部は15.7mである。 154.53～154.71m: 破砕帯(f-b-22) 破砕部は15.7mである。 154.53～154.71m: 破砕帯(f-b-22) 破砕部は15.7mである。灰褐色の固結した礫状部からなる。上層境界の傾斜は63°である。 154.57～154.58m: 灰赤色の粘土状部からなり、幅約0.5cmである。傾斜は36°である。 154.58～154.71m: 緑土混じり礫状部を呈し、灰褐色の固結した礫状部からなる。下層境界の傾斜は65°である。 155.00～160.00m: 割れ目沿いの緑泥石化が著しい。 157.89～160.00m: 割れ目沿いの緑泥石化が著しい。ながら連続する。		
			灰褐色	Da					137		
			緑土	Ve					138		
			Da						139		
			緑土	Ve					140		
			Da						141		
			緑土	Ve					142		
			Da								

## 審査資料 (平成30年11月30日)

記事
●154.53～154.71m(f-b-2-22破砕帯) ・破砕部である。 ・正断層センスである。 ・主に灰褐色の固結礫状部からなる。 ・灰赤色の未固結粘土状部：累計幅0.5cm ・走向・傾斜はN42° E75° Eである。 ・上層境界の傾斜は63°、下層境界の傾斜は65°～80°である。 157.89～160.00m ・割れ目沿いの緑泥石化が著しい。
137 140 141

## 審査資料 (令和2年2月7日)

記事
●154.53～154.71m(f-b-2-22破砕帯) ・破砕部である。 ・正断層センスである。 ・主に灰褐色の固結礫状部からなる。 ・灰赤色の未固結粘土状部：累計幅0.5cm ・走向・傾斜はN42° E75° Eである。 ・上層境界の傾斜は63°、下層境界の傾斜は65°～80°である。 157.89～160.00m ・割れ目沿いの緑泥石化が著しい。
137 140 141

記事	申請書案⇒ 申請書 (H27.11)	申請書 (H27.11)⇒ 審査資料 (H29.12.22)	審査資料 (H29.12.22)⇒ 報告書	報告書⇒ 審査資料 (H30.11.30)	審査資料 (H30.11.30)⇒ 審査資料 (R2.2.7)
137～140	(誤記) 下端境界の見かけの傾斜として65°～70°と書くべきところを誤って65°～80°と記載。	・破砕帯名を記載。 ・性状及び色調については、申請書提出から審査会合(H29.12.22)までの間に行った、断層岩区分を目的とした再観察の結果に基づき記載。肉眼観察で確認した原岩組織の残留の程度、連続性、硬軟に基づき、断層岩(断層ガウジ、断層角礫、カタクレサイト)を判断。断層ガウジを未固結粘土状部、断層角礫を未固結礫状部、カタクレサイトを性状に応じて、固結礫状・砂状・粘土状部と記載。 ・上記再観察で未固結粘土状部とした箇所の累計幅を記載。 ・ポアホールテレビの解析結果による最新活動面の走向・傾斜を記載。 ・“傾斜は36°である”との記載については、最新活動面の見かけの傾斜を示したものであり、最新活動面の走向・傾斜を別途示しているため削除。	・破砕幅を記載。 ・破砕部区間を性状毎に深度を分けて記載。 ・性状については、観察結果と審査資料での断層岩区分(固結・未固結と礫状・砂状・粘土状の組合せ)を併記。 ・誤記修正(下端境界の傾斜は65°～80°→65°～70°) ・固結した礫状部の色調として、灰褐色と書くべきところを誤って緑灰色と記載。	審査資料(H29.12.22)と同様 ・破砕幅については、性状一覧表に示しており、柱状図には記載しないこととしているため追記せず。 ・未固結粘土状部の見かけの傾斜に記載については、最新活動面の走向・傾斜を別途示しているため追記せず。 ・誤記修正の反映漏れ。	変更なし (※ただし、断層岩区分は薄片観察結果に基づく)
141	変更なし	変更なし	・割れ目について記載(割れ目沿いの変色)。	審査資料(H29.12.22)と同様 ・155.00～160.00m区間のうち、特に緑灰色が顕著な区間について記載。	変更なし
142	—	—	・割れ目について記載(鉋物脈)。	・鉋物脈については、補足的なものであるため追記せず。	—

余白